

公益財団法人徳間記念アニメーション文化財団年報 2023-2024

Annual Report: The Tokuma Memorial Cultural Foundation for Animation

公益財団法人徳間記念アニメーション文化財団
令和五年度事業報告
(2023年4月1日～2024年3月31日)

1：アニメーション文化に関する展覧会事業の企画及び運営（1号事業関係）	1
（1）常設展示	1
（2）企画展示	1
（3）短編映画上映	3
（4）その他の展覧会事業	3
（5）美術館開館日、入館者数等	5
（6）三鷹市民招待日など	9
（7）地域活動	9
2：アニメーション作品及びその資料の収集、保管及び展示並びにアニメーション文化に関する調査研究、普及啓発及び活動の奨励（2号事業関係）	10
（1）アニメーション美術館に収蔵する作品及び資料等の収集	10
（2）保有するアニメーションに関する資料の整理・保管	10
（3）保有する資料の展示	10
（4）アニメーション文化に関する調査研究	11
（5）アニメーション文化調査研究活動助成制度の実施	11
（6）アニメーション文化についての講演会等	12
（7）図書閲覧室 トライホークス	14
【資料】図書閲覧室 閲覧図書一覧表	15
（8）アニメーション関連展覧会への企画協力及び展示制作協力	16
（9）アニメーション作品の普及啓発活動	16
【資料】基本財産一覧	17
3：三鷹市の公の施設に係る指定管理者の指定を受けて行なうアニメーション美術館の管理運営（3号事業関係）	24
三鷹市立アニメーション美術館の管理運営	24
4：三鷹市の委託を受けて行なうアニメーションに関する事業（4号事業関係）	25
三鷹の森アニメフェスタへの協力	25
5：展覧会事業に付帯する図録その他の印刷物並びにアニメーション文化に関する出版物、映像及び音楽に関する製品の製作及び販売（5号事業関係）	27
（1）出版物の制作販売	27
（2）アニメーション映画のライブラリー事業	27
6：その他この法人の目的を達成するために必要な事業（6号事業関係）	27
7：広報活動報告	28
【資料】広報資料媒体一覧表	30
8：令和5年度決算報告	34
【巻末】アニメーション文化に関する調査研究報告	37

1 : アニメーション文化に関する展覧会事業の企画及び運営 (1号事業関係)

(1) 常設展示

当美術館において昨年度同様、以下の展示を行なった。

会期 令和5年4月1日～令和6年3月31日(休館日を除く)

◆常設展示その1「動きはじめの部屋」

会場 地下一階常設展示室

この展示室では、現在のアニメーションのもとになった様々な発明を題材にした展示物を見ている。19世紀あるいはそれ以前から、絵を動かすことや奥行きのある空間(別世界)を作ること追求してきた先人からの積み重ねは、やがてフィルムとしての映画を生む。そうした流れを踏まえて、昔の発明と現代の技術を融合させて、より楽しめる展示物を制作している。今年度は、展示作品「ジブリハウス」内に、スタジオジブリ長編アニメーション作品『君たちはどう生きるか』の展示パネルが追加された。

◆常設展示その2「映画の生まれる^{ところ}場所」

会場 一階常設展示室

4つの小部屋を利用した展示室では、アニメーション映画のスタジオを模した空間を設け、映画を作る現場の雰囲気味わえるものとしている。ただし、実在のスタジオをそのまま再現するのではなく、ものづくりの楽しさが感じられるような、イメージの広がる空間をつくるべく、家具調度品から小物、絵の飾り方に至るまで工夫を施した。今年度は、引き続き、展示室内の展示物の補修、交換を適宜行なった他、展示物として、『君たちはどう生きるか』の絵コンテが追加された。

◆常設展示その3「ネコバスルーム」

会場 二階常設展示室

『となりのトトロ』のキャラクター、ネコバスを全長5.4mのぬいぐるみで作り、美術館二階の一角を、子どもたち(小学生以下)がネコバスに乗って遊べる空間として開放した。

(2) 企画展示

①企画展示「未来少年コナン」展—漫画映画の魅力にせまる!—

会期 令和5年4月1日～令和5年11月5日

会場 一階企画展示室

前年度に引き続き、企画展示「未来少年コナン」展—漫画映画の魅力にせまる!—を、会期を延長して、1年半開催した。

宮崎駿監督の初監督作品である連続テレビアニメーションシリーズ『未来少年コナン』(1978年)は、全26話、延べ13時間に及びながら一本の映画のように作られ、底抜けに面白くて楽しい漫画映画の要素がふんだんに詰め込まれた作品である。この作品の漫画映画としての面白さ、ストーリーを、今までのファンにはもちろん、まだ見たことのない方に向けても視聴のきっかけになるよう、一部映像と共にパネルで解説し紹介した。

さらに、鑑賞者には、宮崎駿監督の描いたイメージボードやメカニック設定、キャラクター設定等を多数展示して閲覧に供するほか、設定画を元に精巧につくられたジオラマ模型を展示し、手で触れてその感触を確かめ、作品の世界観を想像し楽しんでいただいた。

②企画展示「君たちはどう生きるか」展 第一部 イメージボード編

会期 令和5年11月18日～令和6年3月31日

会場 一階企画展示室

宮崎駿監督の最新作である『君たちはどう生きるか』はおよそ7年の歳月を費やして生み出された。その制作過程で描かれた絵のほとんどが、紙に鉛筆と絵具で描かれているという意味において、近年では稀な「手描き」アニメーション作品である。宮崎駿監督をはじめとする少数精鋭のアニメーターや美術スタッフによって描かれたその完成度は、「手描き」アニメーションの粋であるといえるだろう。

今回の展示では、『君たちはどう生きるか』の制作過程において描かれた絵を純粹に展示し、紙と鉛筆から始まる手描きの豊かさと、そして描くことの力そのものを感じていただける場を提供することを目指した。

展示は、第一部「イメージボード編」からはじまり、第二部「レイアウト編」、第三部「背景美術編」と、3期にわたり、展示を入れ替えて公開する。

本年度、第一部「イメージボード編」では、国内外を問わず、大人から子供まで、1点1点の絵を立ち止まり食い入るように顔を近づけてご覧いただいているなど、1枚の絵から、宮崎駿監督の創造力や制作過程の労力を見ている人が想像し、絵そのものをじっくりと楽しんでいただいた。



「君たちはどう生きるか」展 第一部 イメージボード編

(3) 短編映画上映

地下一階の映像展示室「土星座」では、ここでしか見ることのできないスタジオジブリのオリジナル短編アニメーションを上映している。

本年度は、以下のオリジナル短編アニメーション作品を上映した。

【オリジナル短編アニメーション作品の上映】

令和5年	4月	1日～	4月	30日	「やどさがし」
令和5年	5月	1日～	5月	15日	「コロの大さんぼ」
令和5年	5月	27日～	6月	30日	「めいとこねこバス」
令和5年	7月	1日～	7月	31日	「くじらとり」
令和5年	8月	1日～	8月	31日	「水グモもんもん」
令和5年	9月	1日～	9月	29日	「星をかった日」
令和5年	10月	1日～	11月	5日	「たからさがし」
令和5年	11月	18日～	12月	26日	「パン種とタマゴ姫」
令和6年	1月	3日～	1月	31日	「毛虫のボロ」
令和6年	2月	1日～	2月	29日	「コロの大さんぼ」
令和6年	3月	1日～	3月	31日	「ちゅうずもう」

「くじらとり」「コロの大さんぼ」「めいとこねこバス」「星をかった日」「ちゅうずもう」「たからさがし」の6作品においては、1時間に1回、聴覚に障害をお持ちの方向け日本語字幕付フィルムで上映した。

(4) その他の展覧会事業

① クリスマス装飾

会期 令和5年11月29日～令和5年12月26日

美術館短編映画「パン種とタマゴ姫」をモチーフにして、劇中の場面をコラージュしたボールを制作して装飾に追加。そのほかにも、館内・外においてこのシーズンならではの特別な雰囲気を楽しめる装飾を全体に施した。

また、2014年度企画展示「くるみ割り人形とネズミの王さま」展で展示された、チャイコフスキーの音楽を奏でるオルゴール、バレエ劇場「おかしの国」と「森の中」の2台を2F南側ギャラリーに設置し、クリスマスの雰囲気を一層盛り上げた。オルゴール内の踊る人形に合わせ踊りだす子や、踊る人形をじっと見つめる子もいて大変好評だった。

11月29日のクリスマス装飾初日には、1Fテラスにて、開館の鐘にハンドベルを用いたサプライズ演奏をスタッフにより実施した。12月24日には、「ジブリ美術館ハンドベル隊によるクリスマスミニ演奏」を中央ホールで実施。加えて25日には、公園を行き交う人たちにも聞いていただけるように、カフェ近道のデッキ上からサプライズ演奏を行った。出口周辺には、たくさんの方にお集まりいただき耳を傾けていただけた。



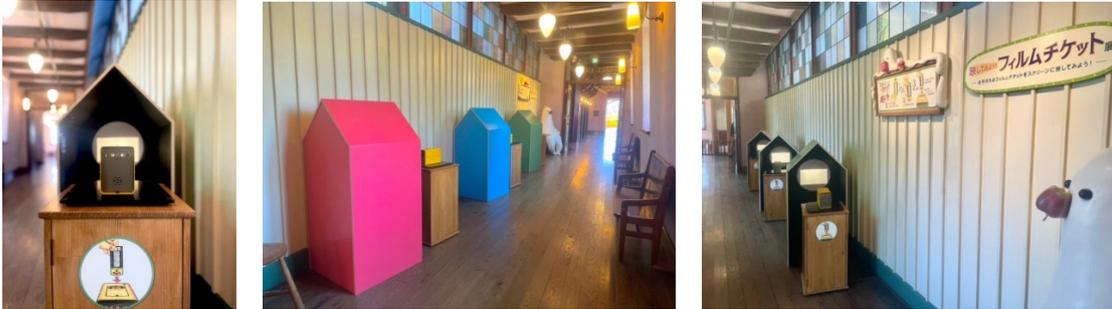
クリスマス装飾・クリスマスハンドベル演奏

② ギャラリー展示「映してみよう!! フィルムチケット展」

会期 令和6年3月27日～令和6年3月31日

会場 二階南側ギャラリー

2013年に開催された企画展示「ジブリの森のレンズ」展で展示されたチケット映写機を3台展示した。入口受付で渡しているフィルムチケットのフィルムは映画のフィルムと同じサイズのため、普段は絵柄が小さくしか見られませんが、チケット映写機を使うと絵柄がスクリーンに大きく映し出され、自ら映写する体験を楽しんでいただいた。



ギャラリー展示「映してみよう!! フィルムチケット展」

(5) 美術館開館日、入館者数等

【美術館開館日】 開館日数 293 日 休館日数 73 日

本年度は下記のカレンダーのように開館した。通常の休館日は毎週火曜日、但し 5 月 2 日、7 月 25 日、8 月 15 日、12 月 26 日は火曜日だが開館した。

また、5 月 16 日(火)から 5 月 26 日(金)まではメンテナンス休館とした。その他、11 月 6 日(月)～11 月 17 日(金)を展示入れ替え休館、12 月 27 日(水)～1 月 2 日(火)を年末年始休館とした。なお、9 月 30 日(土)を「三鷹市民デー」、10 月 1 日(日)を「三鷹市および近隣市民デー」として開館した。

令和 5 年度 開館日カレンダー ※網目の入った日は休館日

	日	月	火	水	木	金	土
4 月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						
5 月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
6 月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	
7 月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
8 月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
9 月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
10 月							
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
11 月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		
12 月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						
1 月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
2 月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29		
3 月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

【入館者数】

月ごとの入館者数と入館料金区分の内訳、時間ごとの平均入館者数は下記の表の通り。

月別入館者数と入館料金区分内訳

月	合計（人）	大人	中高生	小学生	幼児
4月	52,131	43,679	2,650	3,967	1,835
5月	32,393	27,681	1,178	2,297	1,237
6月	49,212	40,430	2,973	4,116	1,693
7月	57,001	43,595	4,778	6,658	1,970
8月	54,569	40,848	4,719	6,858	2,144
9月	53,498	48,374	1,559	2,230	1,335
10月	52,542	45,451	1,890	3,417	1,784
11月	32,481	28,484	848	1,933	1,216
12月	45,003	37,996	2,477	2,902	1,628
1月	46,846	38,679	2,675	3,653	1,839
2月	47,411	39,957	2,239	3,229	1,986
3月	51,868	43,087	2,724	3,745	2,312
合計	574,955	478,261	30,710	45,005	20,979
割合（%）		83.2%	5.4%	7.8%	3.6%

時間ごとの平均入館者数

月	開館 日数	1日当りの 平均入館者数 (人)※	10時回 平均入館者数	11時回 平均入館者数	12時回 平均入館者数	13時回 平均入館者数	14時回 平均入館者数	15時回 平均入館者数	16時回 平均入館者数
4月	26	2,005	432	359	232	236	265	253	228
5月	18	1,800	394	310	216	210	233	231	206
6月	26	1,893	406	340	230	208	252	247	209
7月	28	2,036	422	382	231	249	263	260	228
8月	27	2,021	410	386	238	236	270	252	228
9月	26	2,058	423	379	240	244	280	255	236
10月	26	2,021	425	369	234	233	279	267	213
11月	16	2,030	427	371	231	241	278	273	211
12月	23	1,957	407	366	237	228	262	247	209
1月	25	1,874	392	336	223	225	248	244	206
2月	25	1,896	391	338	229	231	251	251	205
3月	27	1,921	403	344	224	237	253	257	204
合計	293日	1,962	411	358	231	232	262	253	216

※入場者数合計を開館日数で割り、小数点以下を四捨五入した数

【チケットの販売について】

入館料金は以下の通り。（料金はすべて消費税込み）

- 大人・大学生…1,000円
- 中学高校生……………700円
- 小学生……………400円
- 幼児……………100円（3歳以下は無料）

当美術館では、以下の理由により、チケット販売において日時指定の予約制を導入している。

- ① 大人数が来る事による混雑の防止と安全性、快適性の確保
- ② 近隣住民への配慮
- ③ 交通渋滞の抑制
- ④ 地方顧客への配慮
- ⑤ 金銭の授受、システム故障等発生における改札の混乱防止

営業時間については、前年度はコロナ禍における臨時的な取り組みとして、開館時間を変動させるなどの取り組みを行ったが、今年度はコロナ禍以前と同様全日 10 時～18 時営業とした。

入場時間は 1 日 7 回に分け、1 時間毎の入場とした。チケットは各回 200～400 枚程度、1 日で 1,800～2,100 名入場を上限とし販売を行った。なお入場者上限数は、映像展示室の 1 日当たりの収容力と適切な館内環境を加味して算出している。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 回目 10 時 (11 時までに入場) | 5 回目 14 時 (15 時までに入場) |
| 2 回目 11 時 (12 時までに入場) | 6 回目 15 時 (16 時までに入場) |
| 3 回目 12 時 (13 時までに入場) | 7 回目 16 時 (17 時までに入場) |
| 4 回目 13 時 (14 時までに入場) | |

日本国内でのチケットの販売は、前年度と同様ローチケ WEB サイトにて、毎月 10 日に翌月入場分を一斉発売した。チケットの発券方法は電子チケットか紙チケットのいずれかを選択できる。

前年度に引き続きローチケWEBサイトでの販売、三鷹市民及び近隣市民向けの販売に加え、海外向けのJTBグループでの販売を一部再開し、3 種類の方法で販売を行った。

ローソンチケット販売実績

月	合計 (人)	大人	中高生	小学生	幼児
4 月	53,645	45,347	2,676	3,790	1,832
5 月	32,020	27,743	1,146	2,127	1,004
6 月	48,727	41,323	2,735	3,144	1,525
7 月	57,850	45,363	4,613	5,944	1,930
8 月	56,100	42,850	4,608	6,536	2,106
9 月	52,750	48,310	1,492	1,809	1,139
10 月	50,770	45,039	1,602	2,694	1,435
11 月	32,615	28,953	835	1,701	1,126
12 月	45,900	39,478	2,269	2,597	1,556
1 月	48,040	40,410	2,553	3,400	1,677
2 月	47,480	40,854	2,200	2,864	1,562
3 月	51,880	43,771	2,666	3,443	2,000
合計	577,777	489,441	29,395	40,049	18,892
割合 (%)		84.7%	5.1%	6.9%	3.3%

※上記数字はローソン販売分のみ。三鷹・近隣市民向けは含まない

【三鷹・近隣市民向けチケット販売について】

より多くの周辺地域の方々に美術館を楽しんでいただくため、今年度も三鷹市民及び近隣市民へ向けてチケットを販売した。近隣市については、武蔵野市、小金井市、西東京市、調布市、府中市を対象とした。

① 販売チケット

午前券（受付時間 10：00～12：30）、午後券（受付時間 13：00～15：30）に分けて販売。平日は 1 日合計 60 枚、土日・祝日は合計 150 枚。料金はローチケ WEB サイトで販売している電子チケットと同じ。

② 購入方法

対象者（在住・在勤・在学者）であることを証明できる書類（住民票・免許証・保険証・外国人登録証明書・社員証など）を持参のうえ、みたか観光案内所（三鷹駅南口）にて購入。1 人につき、ひと月 1 回 6 枚まで購入可。

③ 販売日

毎月 1 日（みたか観光案内所休業日の場合は翌営業日）に翌月入場分を発売。

三鷹・近隣市民向けチケット販売実績

販売月	合計（人）	大人	中高生	小学生	幼児
4 月	2,408	1,885	77	287	159
5 月	1,865	1,468	37	212	148
6 月	2,277	1,852	66	213	146
7 月	2,670	1,996	139	355	180
8 月	2,429	1,686	178	392	173
9 月	2,296	1,959	56	158	123
10 月	2,282	1,938	56	169	119
11 月	1,680	1,390	37	156	97
12 月	2,100	1,636	76	194	194
1 月	2,179	1,713	88	217	161
2 月	2,371	1,898	53	189	231
3 月	2,610	1,919	135	285	271
合計	27,167	21,340	998	2,827	2,002
割合（％）		78.5%	3.7%	10.4%	7.4%

【海外向けチケット販売について】

JTBグループが手がける海外枠は、JTB GMTが主催するサンライズツアーに限定し再開し、今年度は 3,417 枚を販売した。

(6) 三鷹市民招待日など

【三鷹市民デー並びに近隣市民デー】

9月30日(土)に「三鷹市民デー」、10月1日(日)に「三鷹市および近隣市民デー」を実施し、併せて3,405名が来館した。(前年度は3,174名来館)
当日は特別企画としてスタッフによる展示物の解説、飴細工の実演販売、昔遊び等を実施した。



【三鷹市内小学校並びに幼稚園・保育園の美術館見学】

例年同様、市内小学校3年生および、市内幼稚園・保育園児の受け入れを行なった。小学校は15校1,713名が来館、幼稚園・保育園は56園1,464名が来館した。

【団体客の来館】

今年度の貸し切りバスによる団体客は、428件13,523名だった。

【特別開館】

8月末の休館日に、毎年企画展示に協賛している株式会社日清製粉グループ本社の社員とその家族向けに特別開館し、758名が来館した。

(7) 地域活動

地域との交流を深めることと、広報・告知活動の一環として、三鷹市及び近隣市の下記イベント・行事に参加した。また、可能な場合はブースを設置し、三鷹市民枠チケットの告知及び財団の出版物等の販売を行なった。

令和5年 7月	第46回みたか商工まつり
令和5年 8月	第56回三鷹阿波おどり
令和5年 9月	八幡大神社例大祭
令和5年 10月	三鷹の森フェスティバル2023
令和5年 10月	井の頭自然文化園 ヤマネコ祭2023
令和5年 10月	みたか太陽系ウォーク2023 連携企画 親子で楽しもう!実感太陽系ミニウォークと星空観望会
令和5年 11月	三鷹消防署主催 自衛消防隊訓練審査会
令和6年 2月	第32回 三鷹市民駅伝大会
令和6年 2月	第19回 吉祥寺国際アニメーション映画祭
令和6年 3月	三鷹の森アニメフェスタ2024 ~アニメーション古今東西 その20~

2：アニメーション作品及びその資料の収集、保管及び展示並びにアニメーション文化に関する調査研究、普及啓発及び活動の奨励（2号事業関係）

(1) アニメーション美術館に収蔵する作品及び資料等の収集

本年度、新たなアニメーションに関する資料の収集（購入作品、寄贈作品、寄託作品）はない。

(2) 保有するアニメーションに関する資料の整理・保管

当美術館ではアニメーションに関する資料を現在約42,000点保有し、それらは展示、調査研究に活用されている。これら資料は保管するための処置を施し、データベースに登録して管理を行なっている。

本年度は、近藤喜文氏関連資料、並びにスタジオジブリ長編作品資料の整理を引き続き行った。また、資料貸出希望に対して、貸出先博物館への学芸員の同行を含めた展示環境の整備、向上に取り組むほか、複製制作を充実することで一次資料の保護を行なうなど、資料の活用と保護の両観点から取扱いを注視している。

① 保管のための処置

全資料は保管のための下記の処置作業を行なっている（処置作業の詳細は昨年度と同様のため、割愛する）。

- ・付着したゴミや汚れを除去する。
- ・破れた部分を補修する。
- ・資料の劣化を防ぐために中性の紙で保護する。
- ・中性紙で作られた保管箱に入れる。
- ・温湿度管理された収蔵庫内に保管する。

② 収集資料のデータベース構築

整理や検索を容易にする為に、下記の項目を定め、収集資料のデータベース化を行なっている。

- ・画像
- ・整理番号（資料を数値化し扱いやすくする）
- ・作品名（どの作品に使用されたものか）
- ・種類（作品の制作の中で何に用いられたものか）
- ・材質（どのような画材を用いているか）
- ・カット番号（作品のどの場面に用いられたものか）
- ・資料及び資料を入れている額のサイズ（大きさ）
- ・資料及び資料を入れている額の状態（劣化状態を把握し、修復の必要性を検討するため）

(3) 保有する資料の展示

当財団が企画及び展示制作協力を行なった下記展覧会に、当財団が保有する資料を貸し出し、展示した。

- | | | |
|------------------|------|----------------------------------------------------------|
| ・「高畑勲展」 | 貸出点数 | 299点 |
| ・「アニメージュとジブリ展」 | 貸出点数 | 50点（2023年4月1日～2023年10月31日）
28点（2023年11月1日～2024年3月31日） |
| ・「ジブリパークとジブリ展」 | 貸出点数 | 154点 |
| ・「金曜ロードショーとジブリ」展 | 貸出点数 | 1点 |

(4) アニメーション文化に関する調査研究

作家、作品の基礎的調査は、講演会や関連書籍の購入を通じて、日常的に行なった。今年度も展覧会及び関連イベントと合わせて、国内外における重要なアニメーション作品から収集すべき作品を検討し、調査を行なった。

また、「日本のアニメーション・スタジオ史」をテーマとした調査研究活動を先行研究とし、国内外のアニメーション作品、および、そのルーツや後世に影響を与えた作品や人物、スタジオを主な調査研究対象として、文献調査や関係者への聞き取り調査等を引き続き行なっている。

本年度は主に、『アルプスの少女ハイジ』や『母をたずねて三千里』のキャラクターデザイン・作画監督としても知られ、東映動画やテレビシリーズで活躍した小田部羊一氏のアニメーションについて、ご本人への取材を中心に調査研究を行なった。

(5) アニメーション文化調査研究活動助成制度の実施

① 令和五年度の助成対象者の募集および決定について

以下の通りの要領で、アニメーション文化に関する研究者を募集した。

1) 趣旨

公益財団法人徳間記念アニメーション文化財団は、アニメーション文化の理解及び発展のために、国内外におけるアニメーションに関する調査研究活動に対し、助成を行なう

2) 対象とする研究の領域

- ・アニメーションの理論・歴史に関する研究
- ・アニメーション制作方法およびその技術に関する研究
- ・その他、アニメーションに関し、上記の趣旨に寄与する研究

3) 調査研究計画及び助成額

調査研究計画は2025年3月31日までに調査研究が完了し、成果を取りまとめられるものとする。助成額は1調査研究あたり50万円以内とし、2024年3月31日までに支払うものとする

4) 募集の対象者

次の条件の何れかを満たす者

- ・大学院修士または博士課程に在籍する者及び調査研究期間中に進学を予定する者
- ・大学、研究機関、教育機関等において調査研究活動に従事する者
- ・博物館（相当施設を含む）及び図書館で調査研究活動に従事する学芸員・図書館司書等の職員
- ・その他、当該調査研究活動に従事できると当財団が認める者

5) その他の条件

- ・調査研究計画は申請者が主体となつて行なう調査研究とする。申請者は個人またはグループに限る
- ・他の調査研究助成制度から既に助成を受けているか、受けることが決定している調査研究は対象外とする
- ・申請者の国籍、在籍地は問わないが、申請及び調査研究発表は日本語に限る
- ・調査研究成果は完全なオリジナルであること、及び調査研究内容に含まれる第三者の著作物に関しては適法に著作権等の処理がなされていることとする

6) 申請の方法

- ・当財団の指定する助成申請書に必要事項を記入し、調査研究計画書（書式自由）とともに提出する
- ・個人（又はグループ）が応募できる調査研究計画はひとり（又は1グループ）あたり一件に限る
- ・申請の際の申請書、調査研究活動計画書、添付された資料等は返却しない

7) 研究成果の提出

当助成が決定した場合、当財団と研究成果の提出に関する誓約書を締結し、2025年3月31日までに研究成果を文書にして提出する。研究成果は当財団が行なう普及啓発活動や出版物（Web等を含む）に、財団が自由に使用できることを条件とする

8) 募集期間及びスケジュール

公募開始	2023年7月
応募締め切り	2024年1月31日
選考委員会および助成対象者の決定	2024年2月27日
助成金の交付	2024年3月31日
中間レポートの提出	2024年9月30日
研究成果の提出	2025年3月31日

9) 選考方法

事務局による書類審査により、応募要項に合致していることを認められた調査研究活動計画書について、当財団理事及び評議員、外部の学識経験者で構成する選考委員会により選考会議を開催し、審査選考と助成額の決定を行なう

(選考委員)	氷川 竜介	(アニメ特撮研究者)
	叶 精二	(東京造形大学 特任教授)
	三好 寛	(特定非営利活動法人アニメ特撮アーカイブ機構)
	イラン・グエン	(アニメーション史研究)
	西岡 純一	(公益財団法人徳間記念アニメーション文化財団 評議員)

【令和五年度の助成対象選考結果について】

本年度も、アニメーション文化に関する調査研究活動に対して助成を行なうため、前述のとおり、対象者の募集を行なった。例年11月に募集を開始していたところ、今年度は7月に募集要項を提出し、応募者に広く知ってもらえるよう努めた。また、募集要項の補足として、選考委員の所感をウェブサイトに掲出した。

1月末日の締め切りまでに6件の応募があり、2月27日(火)に選考委員会を行なった結果、下記2名に対して助成することを決定した。

中島望 「アニメーションにおける効果音について―笠松広司を例として」
明貫絃子 「椋尾篁の背景美術：りんたろう監督 SF 映画を中心に」

(6) アニメーション文化についての講演等

①アニメーション文化講座への協力

アニメーション文化の調査研究活動及び普及啓発活動の一環として、「アニメーション文化講座」(主催：三鷹ネットワーク大学)に対して、企画および運営について協力した。

本年度は、「テレビまんが雑誌とアニメブーム―テレビランド・アニメージュからスタジオジブリへ」と題し、雑誌メディアと映像作品の特別な関係が日本のアニメや特撮の進歩に大きな役割を果たしてきた事実をスポットを当てて、日本のアニメ史の最も熱かった時代の重要性などについて、有識者を講師に招いて講座を実施した。

【アニメーション文化講座開催概要】

開催日時：令和5年11月14日(火)、21日(火)、28日(火)、12月5日(火)

各日午後7時から開催

場所：NPO法人三鷹ネットワーク大学 (三鷹駅前共同ビル3階)

講師：第一回 氷川竜介、高橋望

第二回 青柳誠、氷川竜介、高橋望

第三回 渡邊隆史、氷川竜介、高橋望

第四回 氷川竜介、高橋望

【講座名】

「テレビまんが雑誌とアニメブーム—テレビランド・アニメージュからスタジオジブリへ」

【講座趣旨】

かつてアニメは特撮作品と密接に関係し、「テレビまんが」と総称されていました。そしてあくまで「子どもの観るもの」で、いつかテレビまんがから卒業するのが常識でした。しかし、1970年代末から始まったいわゆるアニメブームの時期、その常識は激変します。『宇宙戦艦ヤマト』や『機動戦士ガンダム』などの作品に多くの若者が熱狂し、アニメはティーン以上が楽しめるメディアとして社会的に認知されるようになったのです。

日本初の本格的アニメ専門誌「アニメージュ」はこんな背景を元に、1978年に誕生し、専門誌の登場によって、アニメブームはさらに加熱し、拡大します。そのひとつの果実として、高畑勲監督や宮崎駿監督の再評価が進み、「アニメージュ」での原作マンガの連載をきっかけに宮崎監督の映画『風の谷のナウシカ』が作られ、大ヒット。そしてスタジオジブリの誕生へと時代は大きく進んでいくことになります。

今回は、スタジオジブリが発行する小冊子「熱風」に「昭和アニメージュの功罪～テレビまんがの死と再生」(2022年5月号～2023年4月号)を連載した氷川竜介さんを講師に招き、特に、雑誌メディアと映像作品の特別な関係が日本のアニメや特撮の進歩に大きな役割を果たしてきた事実にスポットを当てて、日本のアニメ史の最も熱かった時代の重要性を今までにはなかった視点で語っていただきます。

【各回内容】

第一回 総論 「テレビランド」と「アニメージュ」。その誕生と、それらがもたらしたもの
テレビまんがが隆盛の1970年代初頭に誕生した専門雑誌が「テレビまんが」雑誌です。ここでは、テレビで活躍する特撮ヒーローや巨大ロボットの活躍がカラーグラビアとモノクロのマンガとで紹介され、子どもたちの熱狂を消えないものとして定着させたのです。実は、アニメ専門誌である「アニメージュ」は、同じ版元(徳間書店)から発行されていたテレビまんが雑誌「テレビランド」を母体に生まれたという背景があります。
氷川竜介氏に、2つの雑誌の誕生日前夜の状況とその出現がもたらしたものは何だったのかを語ってもらいます。

第二回 座談会1 テレビまんがと雑誌の深い関係。石森プロ作品と「テレビランド」
テレビまんがの時代、大きな役割を果たしたのがマンガ家・石ノ森章太郎です。石ノ森は、『サイボーグ009』や『仮面ライダー』シリーズなどの原作者として知られていますが、それだけではありません。石森プロは、多くのテレビまんがの企画・制作にも深くかかわり、一方で「テレビランド」などの雑誌とも様々な協力関係を築いていきました。
当時の事情に詳しい青柳誠氏を招き、テレビまんが雑誌がアニメや特撮番組と密接な関係をもっていた時代を振り返ります。

第三回 座談会2 テレビまんが第一世代が担ったアニメブーム後の出版メディア
70年代後半、アニメブームを経ることで、時代はテレビまんがとテレビまんが雑誌の時代から、アニメとアニメ専門雑誌の時代へと急速に変化していきます。その時に出版の現場を担ったのが、未就学児童の時期からアニメや特撮番組に親しんできた「テレビまんが第一世代」でした。氷川竜介氏と同世代で、「アニメージュ」と「ニュータイプ」、2大アニメ雑誌の編集長を務めた渡邊隆史氏を招き、第一世代がけん引した「僕らの時代」を熱く語ります。

第四回 まとめ テレビまんがの「死」とスタジオジブリの誕生
アニメブームの中で生まれた「アニメージュ」は、雑誌として人気作を扱う受動型に留まらず、独自の映画制作に力を入れて発信型に変化します。それが徳間書店を母体とするスタジオジブリ創設に繋がりました。テレビまんが、「テレビランド」と「アニメージュ」、そしてスタジオジブリへの流れを氷川竜介氏に総括してもらい、得られたものの大きさと同時に、「特撮」を切り捨てたことで失ってしまったかもしれないもの、もう一度着目しなければいけないことのあるのではないかと——そうした観点で、将来像を探っていきます。

② 館内イベントの実施

企画展示「未来少年コナン」展に関連して、『未来少年コナン』の初回放映から45周年となる令和5年4月4日に記念イベントを実施した。「熱きコナンファンよ 集え!」と称して、同作品のファンを公募し、抽選で168名招待して「聞こう・語ろうコナンへの想い」と題したトークショーを午前午後1回ずつ実施した。同作品に大きな影響を受けたスタジオジブリの本田雄氏、井上俊之氏、吉田昇氏、野中晋輔氏が登壇して、放送当時に視聴して感じた想い、好きなシーン、思い出などを語ってもらった。

イベント名	熱きコナンファンよ 集え!
開催日時	令和5年4月4日(火) 第1回 10:00~13:00 第2回 14:30~17:30
場 所	当館映像展示室「土星座」
登 壇 者	本田 雄 (スタジオジブリ アニメーター) 井上俊之 (スタジオジブリ アニメーター) 吉田 昇 (スタジオジブリ 背景美術担当) 野中晋輔 (スタジオジブリ 執行役員)
参加人数	第1回 80名 第2回 88名



企画展示「未来少年コナン」展 関連イベント「熱きコナンファンよ 集え!」

(7) 図書閲覧室 トライホークス

図書閲覧室トライホークスは、スタジオジブリ作品、アニメーション関連の書籍の他、宮崎駿名誉館主が推薦する創造のきっかけが詰まった絵本や児童書を揃え、来館者が自由に閲覧できる部屋である。ここでは「子どもたちに、ふしぎなものを見て、触れて、感じてほしい」という美術館の思いを「本」という形で伝えていきたいと考えている。

【季刊トライホークス】

本年度は、季刊「トライホークス」(Vol.71、72、73、74)を6月、9月、12月、3月に4回発行した。本冊子は、図書閲覧室の本を紹介するとともに、様々な分野で活躍している方に本を紹介していただき、図書閲覧室の枠を越え、「本」と出会うきっかけ作りをしていきたいと考え制作している。(2023年度4回発行、2色カラー、4ページ、無料配布)

本年度の執筆者は、池田香代子氏(翻訳家)、土橋とし子氏(イラストレーター・絵本作家)、野沢佳織氏(翻訳家)、黒井健氏(絵本画家・イラストレーター)である。

【資料】図書閲覧室 閲覧図書一覧表

令和5年度より

書名	著者・編者	絵	訳者	出版社	備考
まさかさかさ動物回文集	石津ちひろ	長 新太		河出書房新社	
青ノ果テ 花巻農芸高校地学部の夏	伊予原新			新潮社	文庫
怪人二十面相	江戸川乱歩			ポプラ社	文庫
教室二〇五号	大石真			実業之日本社	
大塚康生 道楽もの雑記帖	大塚康生／編集・構成 叶精二			玄光社	
スタジオジブリの撮影術	奥井敦／編著 野崎透			ビー・エヌ・エヌ	
歳月	鈴木敏夫			岩波書店	
スタジオジブリ物語	鈴木敏夫			集英社	新書
ジブリをめぐる冒険	鈴木敏夫、池澤夏樹			スイッチ・パブリッシング	
だんごむしのだんちゃん うまれたよ!	たけがみたえ／監修 須田研司			童心社	絵本
わたし	谷川俊太郎	長新太		福音館書店	絵本
あなた	谷川俊太郎	長新太		福音館書店	絵本
あをによし	土橋とし子			土橋氏藝店	
時をかける少女<新装版>	筒井康隆			KADOKAWA	文庫
ぼくは王さま	寺村輝夫	和田誠		理論社	
たんたのたんけん 改訂版	中川李枝子	山脇百合子		Gakken	
たんたのたんてい 改訂版	中川李枝子	山脇百合子		Gakken	
おふろやさん	西村繁男			福音館書店	絵本
海がきこえる	氷室冴子			徳間書店	文庫
海がきこえるII	氷室冴子			徳間書店	文庫
クリスマスマーケット ちいさなクロのおはなし	降矢なな			福音館書店	絵本
どんぶらどんぶら七福神	みき つきみ	柳原良平		こくま社	絵本
あかいくつ	アンデルセン	いわさきちひろ	神沢利子	偕成社	絵本
子どもだけの町	ウインターフェルト		大塚勇三	学習研究社	
星からきた少女	ウインターフェルト		関楠生	学習研究社	
西風号の遭難	オールズバーク、C・V		村上春樹	河出書房新社	絵本
急行「北極号」	オールズバーク、C・V		村上春樹	あすなる書房	絵本
紅はこべ	オルツイ、パロネス		坪香織	東京創元社	
へんなどうつぶ	ガアグ、ワンダ		渡部茂男	瑞雲舎	
笑いを売った少年	クリュス、ジェイムス		森川弘子	未知谷	
ぼくが子どもだったころ	ケストナー、エーリッヒ		池田香代子	岩波書店	文庫
ものいうほね	スタイグ、ウィリアム		せたていじ	評論社	絵本
ありのフェルダ	セコラ、オンドジェイ		関沢明子	福音館書店	
ソングジュの見た星 路上を生きぬいた少年	ソングジュ、リ / スーザン・マクレランド		野沢佳織	徳間書店	
ロンドン・アイの謎	ダウト、シヴォーン		越前敏弥	東京創元社	
失われた世界	ドイル、アーサー・コナン		中原尚哉	東京創元社	文庫
指輪物語1 旅の仲間上	トールキン、J・R・R		瀬田貞二、田中明子	評論社	文庫
指輪物語2 旅の仲間下	トールキン、J・R・R		瀬田貞二、田中明子	評論社	文庫
時をさまようタック	バビット、ナタリー		小野和子	評論社	
シチリアを征服したクマ王国の物語	ブツァーティ、ディーノ		天沢退二郎、増山暁子	福音館書店	文庫
かえりがおか農場のいちねん	プロバンセン、アリス&マーティン		岸田裕子	ほるぷ出版	絵本
黒猫 ボー傑作選1 ゴシックホラー編	ボー、エドガー・アラン		河合祥一郎	KADOKAWA	文庫
パディントンのクリスマス	ボンド、マイケル	ベギー・フォートナム	松岡享子	福音館書店	
クリスマスのまえのよる	ムーア、クレメント・C	ロジャー・デュボアザン	こみやゆう	主婦の友社	絵本
ムーミン画集 ふたつの家族	ヤンソン、トーヴェ			講談社	
けんこうだいいち	リーフ、マンロー		わたなべしげお	復刊ドットコム	
山賊のむすめローニヤ	リンドグレーン、アストリッド	イロン・ヴィークランド	ヘレン・ハルメ美德	岩波書店	
ジブリの食卓 天空の城ラピュタ	監修スタジオジブリ 編集 主婦の友社			主婦の友社	
ジブリの食卓 魔法の宅急便	監修スタジオジブリ 編集 主婦の友社			主婦の友社	
『熱風』の編集後記				冬青社	

(8) アニメーション関連展覧会への企画協力及び展示制作協力

下記の展覧会に企画・制作協力として携わり、収蔵物の貸出や展示設営作業などに協力した。

① 「アニメージュとジブリ」展

場所 松坂屋美術館（愛知）

会期 令和5年4月22日（土）～6月11日（日）

場所 鹿児島歴史・美術センター黎明館（鹿児島）

会期 令和5年8月10日（木）～10月1日（日）

場所 大丸下関店（山口）

会期 令和5年11月23日（木・祝）～12月28日（木）

場所 大丸ミュージアム〈神戸〉（兵庫）

会期 令和6年1月5日（金）～1月21日（日）

② 「金曜ロードショーとジブリ」展

場所 富山県美術館（富山）

会期 令和5年10月7日（土）～令和6年1月28日（日）

③ 「ジブリパークとジブリ展」

場所 神戸市立博物館（兵庫）

会期 令和5年4月15日（土）～6月25日（日）

場所 山口県立美術館（山口）

会期 令和5年7月15日（土）～9月24日（日）

場所 高知県立美術館（高知）

会期 令和5年12月23日（土）～令和6年3月31日（日）

④ 「高畑勲展」

場所 三重県総合博物館（三重）

会期 令和5年7月8日（土）～9月18日（月・祝）

場所 岩手県立美術館（岩手）

会期 令和5年9月30日（土）～12月17日（日）

場所 静岡市美術館（静岡）

会期 令和5年12月27日（水）～令和6年3月31日（日）

⑤ 企画展示「食べるを描く。」増補改訂版

場所 ジブリパーク（愛知）

会期 令和5年4月1日（土）～令和7年5月（予定）

(9) アニメーション作品の普及啓発活動

世界の優れたアニメーション作品を広く普及していくという趣旨のもと、映画館での上映やビデオグラムで作品を紹介するため、「三鷹の森ジブリ美術館ライブラリー」の活動を引き続き行なった。

【資料】基本財産一覧

◆基本財産概要(絵画など)

作品名	合計	イメージボード	セル画	背景付セル画	美術ボード	背景	映画宣伝用素材	絵画	その他
雪の女王	2	2	0	0	0	0	0	0	0
外套	1	1	0	0	0	0	0	0	0
風の谷のナウシカ	3	0	1	0	0	2	0	0	0
天空の城ラピュタ	12	0	1	8	0	3	0	0	0
となりのトトロ	11	0	0	11	0	0	0	0	0
火垂るの墓	11	11	0	0	0	0	0	0	0
魔女の宅急便	19	14	0	4	0	1	0	0	0
おもひでぼろぼろ	19	0	0	6	3	10	0	0	0
紅の豚	18	0	0	18	0	0	0	0	0
そらいろのたね	1	0	1	0	0	0	0	0	0
海がきこえる	10	0	0	10	0	0	0	0	0
平成狸合戦ぽんぽこ	20	0	0	17	0	3	0	0	0
耳をすませば	29	0	0	16	0	0	0	13	0
On Your Mark	8	0	0	8	0	0	0	0	0
もののけ姫	24	0	0	9	0	10	1	0	4
ホーホケキョ となりの山田くん	10	0	0	0	0	0	0	0	10
合計	198	28	3	107	3	29	1	13	14

※原画、動画、背景付セル画、背景は、映画の1カットを最小単位とし、同一カットで複数点数存在しても1点として扱っている。

◆基本財産(絵画など/フィルム)

【絵画など】

番号	種別	作品名・資料名	制作者 (もしくは監督)	サイズ H(mm)	サイズ W(mm)	技法	材質	備考
1	イメージボード	「雪の女王」イメージボード	アレクサント・グイノーロフ イスラエル・シュヴァルツマン	174	220	ポスターカラー	画用紙	
2	イメージボード	「雪の女王」イメージボード	アレクサント・グイノーロフ イスラエル・シュヴァルツマン	188	210	ポスターカラー	画用紙	
3	イメージボード	「外套」イメージボード	ユーリ・ノルシュテイン	965	2570	ガッシュ及び木炭	紙	2枚組
4	絵画	耳をすませば 小さな家の惑星	井上直久	290	284	アクリル絵の具	セル	
5	絵画	耳をすませば 十字路の小惑星	井上直久	365	373	アクリル絵の具	セル	
6	絵画	耳をすませば 新月と丘(2点重ね)	井上直久	256	379	アクリル絵の具	画用紙及びセル	
7	絵画	耳をすませば 工房	井上直久	232	380	アクリル絵の具	画用紙及びセル	
8	絵画	耳をすませば あかりのもれる店	井上直久	233	382	アクリル絵の具	画用紙	
9	絵画	耳をすませば 星6種(6点組合せ)	井上直久	175	163	アクリル絵の具	セル	
10	絵画	耳をすませば 塔の街(2点重ね)	井上直久	233	554	アクリル絵の具	画用紙及びセル	
11	絵画	耳をすませば 図書館のある街	井上直久	594	331	アクリル絵の具	画用紙及びセル	背景画は 男鹿和雄筆
12	絵画	耳をすませば イバラード遠望II	井上直久	232	771	アクリル絵の具	画用紙	
13	絵画	耳をすませば 3段重ねの丘(3点重ね)	井上直久	460	656	アクリル絵の具	セル	
14	絵画	耳をすませば 巨大な建築のような雲	井上直久	510	655	アクリル絵の具	セル	
15	絵画	耳をすませば 雲の群	井上直久	481	533	アクリル絵の具	セル	
16	絵画	耳をすませば 壁	井上直久	230	385	アクリル絵の具	画用紙	
17	背景画	風の谷のナウシカ 怒りをしずめた王蟲	スタジオジブリ	282	383	ポスターカラー	画用紙	
18	背景画	風の谷のナウシカ 腐海の内部	スタジオジブリ	270	384	ポスターカラー	画用紙	
19	セル画	風の谷のナウシカ 月刊「アニメージュ」1984年4月号表紙	スタジオジブリ	375	275	セル絵の具	セル	
20	背景付セル画	天空の城ラピュタ オープニング・タイトルバック	スタジオジブリ	290	550	ポスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
21	背景付セル画	天空の城ラピュタ オープニング・タイトルバック	スタジオジブリ	270	461	ポスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
22	背景付セル画	天空の城ラピュタ オープニング・タイトルバック	スタジオジブリ	320	490	ポスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
23	背景付セル画	天空の城ラピュタ オープニング・タイトルバック	スタジオジブリ	390	580	ポスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
24	背景画	天空の城ラピュタ ラピュタの中心部に位置する巨木	スタジオジブリ	903	385	ポスターカラー	画用紙	
25	背景画	天空の城ラピュタ ラピュタの宮殿と空中庭園	スタジオジブリ	730	455	ポスターカラー	画用紙	

番号	種別	作品名・資料名		制作者 (もしくは監督)	サイズ H(mm)	サイズ W(mm)	技法	材質	備考
26	背景画	天空の城ラピュタ	シータの住んでいたゴンドアの谷	スタジオジブリ	585	389	ホスターカラー	画用紙	
27	背景付セル画	天空の城ラピュタ	シータを助けるために、ランチャーをムスカに向けてるバズー	スタジオジブリ	271	378	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
28	背景付セル画	天空の城ラピュタ	ラピュタを守るため、ある決意をするシータとバズー	スタジオジブリ	261	377	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
29	背景付セル画	天空の城ラピュタ	空中海賊ドローラー味の乗るタイガーモス号	スタジオジブリ	445	904	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
30	背景付セル画	天空の城ラピュタ	ラピュタを手に入れんとするムスカの乗ったゴリアテ	スタジオジブリ	276	860	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
31	セル画	天空の城ラピュタ	空に昇っていくラピュタ	スタジオジブリ	815	387	ホスターカラー及びセル絵の具	セル	背景用ブック
32	背景付セル画	となりのトトロ	見えているとも知らずにメイの前を通りすぎようとするチビトトロ	スタジオジブリ	267	393	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
33	背景付セル画	となりのトトロ	トトロの腹の上ではしゃぐメイ	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
34	背景付セル画	となりのトトロ	バス停前で一緒にバスを待つトトロとサツキ	スタジオジブリ	255	360	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
35	背景付セル画	となりのトトロ	傘を貸してくれたお礼に何やら包みを渡すトトロ	スタジオジブリ	255	360	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
36	背景付セル画	となりのトトロ	ネコバスに家まで送ってもらうサツキとメイ	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
37	背景付セル画	となりのトトロ	松の木の上からお母さんの元気そうな様子を見て安心するサツキとメイ	スタジオジブリ	481	753	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
38	背景付セル画	となりのトトロ	お地蔵さんの屋根の下で雨宿り	スタジオジブリ	417	358	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
39	背景付セル画	となりのトトロ	ネコバスに乗って去っていくトトロをサツキとメイは呆然と見送る	スタジオジブリ	423	390	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
40	背景付セル画	となりのトトロ	サツキは近況を知らせる手紙をお母さんに書く	スタジオジブリ	274	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
41	背景付セル画	となりのトトロ	慌てて逃げる中トトロ・チビトトロ、追いかけるメイ	スタジオジブリ	302	375	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
42	背景付セル画	となりのトトロ	「あれっ、何だろう」と目の前を通りすぎていく不思議なものを目で追うメイ	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
43	イメージボード	火垂るの墓	蛍の灯す淡い光に囲まれて、草むらに立つ節子の亡霊	スタジオジブリ	138	193	水彩	画用紙	
44	イメージボード	火垂るの墓	お婆さんの家でお風呂に入る清太と節子	スタジオジブリ	135	192	水彩	画用紙	
45	イメージボード	火垂るの墓	横穴塚の外で	スタジオジブリ	135	202	水彩	画用紙	
46	イメージボード	火垂るの墓	蛍を追いかける清太と節子	スタジオジブリ	135	189	水彩	画用紙	
47	イメージボード	火垂るの墓	束の間の日常	スタジオジブリ	136	193	水彩	画用紙	
48	イメージボード	火垂るの墓	清太を待つ節子の前を親子連れが通り過ぎる	スタジオジブリ	134	190	水彩	画用紙	
49	イメージボード	火垂るの墓	夏の思い出	スタジオジブリ	136	192	水彩	画用紙	
50	イメージボード	火垂るの墓	リヤカーに荷物を積んで横穴塚へ引越す	スタジオジブリ	137	194	水彩	画用紙	
51	イメージボード	火垂るの墓	捕まえてきた蛍を蚊帳の中で放つ	スタジオジブリ	135	190	水彩	画用紙	
52	イメージボード	火垂るの墓	節子の身体にわいた風をとる清太	スタジオジブリ	136	193	水彩	画用紙	
53	イメージボード	火垂るの墓	栄養失調で日に日に弱っていく節子	スタジオジブリ	135	193	水彩	画用紙	
54	イメージボード	魔女の宅急便	満月の夜、屋根の上に立つキキ	スタジオジブリ	181	127	水彩	画用紙	
55	イメージボード	魔女の宅急便	ドアから顔を出し外の様子をうかがうキキとジジ	スタジオジブリ	255	181	水彩	画用紙	
56	イメージボード	魔女の宅急便	コリコの街-公園の銅像の下に座るキキ	スタジオジブリ	361	255	水彩	画用紙	
57	イメージボード	魔女の宅急便	坂の下から見たグーチョコキパン店	スタジオジブリ	255	362	水彩	画用紙	
58	イメージボード	魔女の宅急便	オキノ邸	スタジオジブリ	127	180	水彩	画用紙	
59	イメージボード	魔女の宅急便	グーチョコキパン店の前を通るキキ	スタジオジブリ	255	361	水彩	画用紙	
60	背景付セル画	魔女の宅急便	旅立ちの夜、星空に昇っていくキキ	スタジオジブリ	255	366	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
61	イメージボード	魔女の宅急便	制作の初期段階に描かれたイメージボード	スタジオジブリ	255	214	水彩	画用紙	
62	イメージボード	魔女の宅急便	おソノさんに頼まれて、おしゃぶりを忘れた客に届けるキキ	スタジオジブリ	181	127	水彩	画用紙	
63	イメージボード	魔女の宅急便	コリコの街、メインストリートを飛行するキキ	スタジオジブリ	180	255	水彩	画用紙	
64	イメージボード	魔女の宅急便	トンボを尻目に飛行するキキ	スタジオジブリ	255	361	水彩	画用紙	
65	背景画	魔女の宅急便	パン屋の前から見おろした夕暮れの町	スタジオジブリ	292	467	ホスターカラー	画用紙	

番号	種別	作品名・資料名		制作者 (もしくは 監督)	サイズ H(mm)	サイズ W(mm)	技法	材質	備考
66	背景付きセル画	魔女の宅急便	低空飛行のまま歩道に突っ込むキキ	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
67	背景付きセル画	魔女の宅急便	パン屋の台所、お茶をいれるおソノさん	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
68	背景付きセル画	魔女の宅急便	ウルスラの小屋、ネコのぬいぐるみを返してもらいにきたキキ	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
69	イメージボード	魔女の宅急便	出発の準備をするキキ	スタジオジブリ	128	182	水彩	画用紙	
70	イメージボード	魔女の宅急便	旅立ちの前のキキとお父さんとの触れ合い	スタジオジブリ	128	181	水彩	画用紙	
71	イメージボード	魔女の宅急便	旅立ちの前のキキ、オープニングのイメージボード	スタジオジブリ	127	181	水彩	画用紙	
72	イメージボード	魔女の宅急便	旅立つキキに自分のホウキを手渡すお母さん	スタジオジブリ	128	180	水彩	画用紙	
73	背景画	おもひでぼろぼろ	校舎／校庭から見た昇降口あたり(おもひで編)	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー	画用紙	
74	背景画	おもひでぼろぼろ	夕暮れの路地裏風景(おもひで編)	スタジオジブリ	484	380	ホスターカラー	画用紙	
75	背景画	おもひでぼろぼろ	冬の路地裏風景(おもひで編)	スタジオジブリ	427	394	ホスターカラー	画用紙	
76	背景画	おもひでぼろぼろ	タエ子の子供時代の商店街の風景(おもひで編)	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー	画用紙	
77	背景画	おもひでぼろぼろ	近所の文房具店(おもひで編)	スタジオジブリ	257	363	ホスターカラー	画用紙	
78	背景画	おもひでぼろぼろ	教室／学級会の風景(おもひで編)	スタジオジブリ	271	382	ホスターカラー	画用紙	
79	美術ボード	おもひでぼろぼろ	岡島家・居間(おもひで編)	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー	画用紙	
80	背景画	おもひでぼろぼろ	タエ子が滞在した本家・裏庭	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー	画用紙	
81	美術ボード	おもひでぼろぼろ	朝霧のけむる紅花畑の夜明け	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー	画用紙	
82	美術ボード	おもひでぼろぼろ	紅花畑へ向かう途中の山形県、高瀬の風景	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー	画用紙	
83	背景画	おもひでぼろぼろ	里の風景／山形県、相の原分校	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー	画用紙	
84	背景付セル画	おもひでぼろぼろ	エンディングー再会したタエ子とトシオを見送る 10 歳のタエ子と子供たち	スタジオジブリ	256	674	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
85	背景付セル画	おもひでぼろぼろ	初恋の人"広田君"と夕日を浴びて立ち尽くすタエ子	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
86	背景付セル画	おもひでぼろぼろ	岡島家の夕食風景	スタジオジブリ	275	436	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
87	背景付セル画	おもひでぼろぼろ	10 歳のタエ子に導かれあとにして来たばかりの山形県高瀬に戻る 27 歳のタエ子	スタジオジブリ	250	765	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
88	背景付セル画	おもひでぼろぼろ	紅花畑で朝日に向かって手をあわせるタエ子	スタジオジブリ	271	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
89	背景付セル画	おもひでぼろぼろ	乾し草を積んだ荷馬車に揺られるタエ子とトシオ	スタジオジブリ	271	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
90	背景画	おもひでぼろぼろ	本家／玄関	スタジオジブリ	310	715	ホスターカラー	画用紙	
91	背景画	おもひでぼろぼろ	山形の風景	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー	画用紙	
92	背景付セル画	紅の豚	ホテル・アドリアーノに飾られたボルコたちの少年時代の写真	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
93	背景付セル画	紅の豚	ボルコの隠れ家ー白い石灰岩の洞窟	スタジオジブリ	651	431	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
94	背景付セル画	紅の豚	カーチスに墜落させられた愛機とボルコ	スタジオジブリ	303	678	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
95	背景付セル画	紅の豚	ボルコの類に、不意打ちでキスをするフィオ	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
96	背景付セル画	紅の豚	カーチスとの決闘の勝利に喜ぶボルコとフィオ	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
97	背景付セル画	紅の豚	フィオとツーショットをきめるマンムート団のボス	スタジオジブリ	400	623	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
98	背景付セル画	紅の豚	決闘の準備をするボルコとカーチス	スタジオジブリ	285	691	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
99	背景付セル画	紅の豚	一生懸命働くピッコロ社の女たち	スタジオジブリ	254	750	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
100	背景付セル画	紅の豚	飛行艇の上ではしゃぐおちびさんたちに太刀打ちできないボルコ	スタジオジブリ	270	384	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
101	背景付セル画	紅の豚	壊れた愛機を直しにミラノへ向かう船上のボルコ	スタジオジブリ	276	415	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
102	背景付セル画	紅の豚	『さくらんぼの実る頃』を歌うジーナ	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
103	背景付セル画	紅の豚	ボルコの回想ー雲の平原を流れていく墜落した飛行機群	スタジオジブリ	411	640	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
104	背景付セル画	紅の豚	黄昏の空を飛ぶサボイア S-21	スタジオジブリ	308	415	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
105	背景付セル画	紅の豚	愛機の体勢を立て直そうとするボルコ	スタジオジブリ	250	387	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	

番号	種別	作品名・資料名		制作者 (もしくは 監督)	サイズ H(mm)	サイズ W(mm)	技法	材質	備考
106	背景付セル画	紅の豚	次々に増える愛機の修理代の請求書にうんざり顔のポルコ	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
107	背景付セル画	紅の豚	旋回するポルコの飛行艇を見て、幼い頃の日々を思い出すジューナ	スタジオジブリ	325	498	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
108	背景付セル画	紅の豚	水面ギリギリを旋回してカーチスの攻撃をかかわすポルコ	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
109	背景付セル画	紅の豚	機関砲でポルコに勝負を挑むマンムート団のボス	スタジオジブリ	430	360	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
110	背景付セル画	海がきこえる	吉祥寺駅で電車を待つ里伽子	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
111	背景付セル画	海がきこえる	夏休み、親友の松野の待つ学校へ向かう拓	スタジオジブリ	240	331	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
112	背景付セル画	海がきこえる	父のいる東京へ向かう飛行機の中で微笑む里伽子	スタジオジブリ	270	410	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
113	背景付セル画	海がきこえる	東京・成城の町並み。父の住むマンションへ向かう里伽子と付きそう拓	スタジオジブリ	260	354	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
114	背景付セル画	海がきこえる	再会した父に裏切られたと泣きながら拓の泊まるホテルへきた里伽子	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
115	背景付セル画	海がきこえる	拓の胸に顔をうずめて泣きじゃくる里伽子	スタジオジブリ	250	340	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
116	背景付セル画	海がきこえる	里伽子のふるまいがもとでケンカになる二人、里伽子はおもわず拓の頬を平手打ちする	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
117	背景付セル画	海がきこえる	里伽子をめぐって気まずい思いをした松野と拓。しかし、卒業後また再会して…	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
118	背景付セル画	海がきこえる	同窓会風景	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
119	背景付セル画	海がきこえる	吉祥寺駅ホームで拓を見つめる里伽子	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
120	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	すすき原で毬つきをする正吉とおキヨ	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
121	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	多摩丘陵の雑木林	スタジオジブリ	255	746	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
122	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	多摩丘陵の農家のたたずまい一柿を見上げる狸	スタジオジブリ	250	720	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
123	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	万福寺で化け学の講義を受ける狸たち	スタジオジブリ	265	880	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
124	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	族長会議で、化け学の復興と人間研究に取り組むことを決議	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
125	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	空き家となった農家の前で	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
126	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	春一狸たちに恋の季節がめぐってきた	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
127	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	雛の節句の様子を数陰から見ている幼い頃の正吉たち	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
128	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	万福寺の庭での鶴亀和尚	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
129	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	春は深まり、子狸たちが誕生した	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
130	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	春に誕生したばかりの子狸たち	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
131	背景画	平成狸合戦 ぽんぽこ	多摩丘陵一万福寺周辺の風景、梅はまだ七分咲き	スタジオジブリ	243	664	ホスターカラー	画用紙	
132	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	狸たちの術によって蘇ったむかしの多摩丘陵の風景。お地蔵さんにお祈りをする親子の姿	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
133	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	変わりはてた自分たちの住処、多摩丘陵を見て愕然とする狸たち	スタジオジブリ	241	707	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
134	背景画	平成狸合戦 ぽんぽこ	開発が進んでいく途中の造成地風景	スタジオジブリ	250	704	ホスターカラー	画用紙	
135	背景画	平成狸合戦 ぽんぽこ	アケビ、秋の多摩丘陵	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	ハーモニ ー処理
136	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	空き家となった家をねぐらにする狸たち	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
137	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	農家は取り壊しとなり住処を追われる狸たち	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
138	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	秋の夕暮れ。少なくなった餌を奪い合う狸たち	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
139	背景付セル画	平成狸合戦 ぽんぽこ	沢の水辺で餌を探す狸たち	スタジオジブリ	270	384	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
140	背景付セル画	On Your Mark	連れ去られた天使を、呆然と見送る二人の警官	スタジオジブリ	270	381	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	

番号	種別	作品名・資料名		制作者 (もしくは 監督)	サイズ H(mm)	サイズ W(mm)	技法	材質	備考
141	背景付セル画	On Your Mark	夜の地下都市をヘリバトが降下していく	スタジオジブリ	285	500	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
142	背景付セル画	On Your Mark	放置された住宅の家並みの中に建つ、奇妙で巨大な建造物	スタジオジブリ	265	690	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
143	背景付セル画	On Your Mark	陽炎が立ちこめる中、荒地を進む黄色い大型トレーラー	スタジオジブリ	259	380	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
144	背景付セル画	On Your Mark	再度、天使の救出に挑む二人	スタジオジブリ	308	429	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
145	背景付セル画	On Your Mark	天使を助け出そうとして攻撃を受ける二人の警官。それでも何とか天使を空へ逃そうとする。	スタジオジブリ	346	387	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
146	背景付セル画	On Your Mark	田園を疾走する“アルファロメオ・ジュリエッタ”。風に向かい翼を広げる天使	スタジオジブリ	250	363	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
147	背景付セル画	On Your Mark	天使が飛び去る(6枚を1枚組として)	スタジオジブリ	740	860	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
148	セル画	そらいろのたね	さらに大きくなった家に、ゆうじと友だちの子どもたちや動物がどんどん入っていく	スタジオジブリ	299	371	セル絵の具	セル	
149	背景付セル画	耳をすませば	地球屋にあった人形“パロン”	スタジオジブリ	427	318	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
150	背景付セル画	耳をすませば	奇妙な猫“ムーン”との出会い	スタジオジブリ	264	354	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
151	背景付セル画	耳をすませば	図書カードに“天沢聖司”の名前を見つける雫	スタジオジブリ	271	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
152	背景付セル画	耳をすませば	杉本から「好きだ」と告白され、動揺する雫	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
153	背景付セル画	耳をすませば	落ち込んで地球屋の前に座り込む雫	スタジオジブリ	255	362	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
154	背景付セル画	耳をすませば	夏の朝、ペランダから空を見上げる雫	スタジオジブリ	271	381	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
155	背景付セル画	耳をすませば	聖司の伴奏で恥ずかしそうに『カントリーロード』を歌う雫	スタジオジブリ	254	360	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
156	背景付セル画	耳をすませば	聖司がイタリアへ発つ前夜、図書館の前で	スタジオジブリ	557	355	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
157	背景付セル画	耳をすませば	多摩川の上空より見た夜景	スタジオジブリ	576	395	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
158	背景付セル画	耳をすませば	「試験のヤマがあたった」と自慢する杉村に皮肉で答える雫と、杉村を意識してあとずさる夕子	スタジオジブリ	254	360	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
159	背景付セル画	耳をすませば	杉村を見て顔を赤くする夕子、それを横目で見て微笑む雫	スタジオジブリ	342	486	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
160	背景付セル画	耳をすませば	「イタリアへ行けるようになった」と屋上で雫に話す聖司	スタジオジブリ	255	360	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
161	背景付セル画	耳をすませば	物語を書き終え、いろいろな思いが込み上げてきた雫は、泣き出してしまふ	スタジオジブリ	253	360	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
162	背景付セル画	耳をすませば	自分の書いた物語を西老人に読んでもらっている間の雫。どう評価されるか不安な表情	スタジオジブリ	265	630	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
163	背景付セル画	耳をすませば	自転車で朝日を見に行く途中、聖司の背にそっと顔を埋める雫	スタジオジブリ	314	481	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
164	背景付セル画	耳をすませば	出来上がった物語を持って地球屋を訪ねる雫	スタジオジブリ	474	345	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
165	背景付セル画	もののけ姫	森の精霊コダマたち	スタジオジブリ	270	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
166	背景画	もののけ姫	太古の森	スタジオジブリ	995	753	ホスターカラー	画用紙	
167	背景画	もののけ姫	アシタカが住むエミシー族の里の見張り台	スタジオジブリ	605	364	ホスターカラー	画用紙	
168	背景画	もののけ姫	シン神の池の水面に浮かぶ小島	スタジオジブリ	637	383	ホスターカラー	画用紙	
169	背景画	もののけ姫	タタラ場を上から見おろす	スタジオジブリ	470	747	ホスターカラー	画用紙	
170	背景画	もののけ姫	タタラ場全景	スタジオジブリ	270	562	ホスターカラー	画用紙	
171	背景画	もののけ姫	シン神が消えた後、蘇った森の風景	スタジオジブリ	264	1051	ホスターカラー	画用紙	
172	背景画	もののけ姫	シン神が消えた後、崩壊したタタラ場跡	スタジオジブリ	436	707	ホスターカラー	画用紙	
173	背景画	もののけ姫	西を目指し、旅を続けるアシタカが通ったとある町はずれの風景	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー	画用紙	
174	背景画	もののけ姫	町はずれの風景	スタジオジブリ	298	507	ホスターカラー	画用紙	
175	背景付セル画	もののけ姫	山犬の背に乗り、人間との戦いとのかくサン	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	

番号	種別	作品名・資料名		制作者 (もしくは 監督)	サイズ H(mm)	サイズ W(mm)	技法	材質	備考
176	背景付セル画	もののけ姫	コダマたち	スタジオジブリ	271	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
177	背景付セル画	もののけ姫	シシ神の森のコダマたち	スタジオジブリ	270	382	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
178	背景付セル画	もののけ姫	山刀をつきつけられながらも、アシタカは言う「そなたは美しい」と	スタジオジブリ	273	480	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
179	背景付セル画	もののけ姫	アシタカにとどめを刺そうと山刀を喉元につきつけるサン	スタジオジブリ	276	385	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
180	背景付セル画	もののけ姫	シシ神の池	スタジオジブリ	272	1009	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
181	背景付セル画	もののけ姫	サン	スタジオジブリ	271	392	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
182	背景付セル画	もののけ姫	タタラ場の大屋根の上に立つサン	スタジオジブリ	271	383	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
183	背景画	もののけ姫	シシ神の消滅後、森に再び緑が芽ぶき出した	スタジオジブリ	815	390	ホスターカラー	画用紙	
184	映画宣伝素材	もののけ姫	映画用第1弾ポスターの絵柄。矢をつがえる主人公アシタカ	スタジオジブリ	592	419	ホスターカラー及びセル絵の具	画用紙及びセル	
185	美術ボード	もののけ姫	太古の森	スタジオジブリ	257	364	ホスターカラー	画用紙	
186	美術ボード	もののけ姫	森には真昼間でも太陽光線の届かない暗闇がある	スタジオジブリ	257	364	ホスターカラー	画用紙	
187	美術ボード	もののけ姫	樹齢何千年、何万年の木々	スタジオジブリ	257	364	ホスターカラー	画用紙	
188	美術ボード	もののけ姫	太古の森	スタジオジブリ	257	364	ホスターカラー	画用紙	
189	着彩ボード	ホーホケキョとなりの山田くん	運動会	スタジオジブリ	251	315	その他	その他	
190	着彩ボード	ホーホケキョとなりの山田くん	TVに熱中している家族に初雪を知らせ、家族写真を撮ろうとする父・たかし	スタジオジブリ	251	315	その他	その他	
191	着彩ボード	ホーホケキョとなりの山田くん	たかしが、新聞を読みたがっているのを知っていても、「私が読んでから」を平然のまつ子	スタジオジブリ	251	315	その他	その他	
192	着彩ボード	ホーホケキョとなりの山田くん	年賀状の仕分け競争をする山田一家	スタジオジブリ	251	315	その他	その他	
193	着彩ボード	ホーホケキョとなりの山田くん	「この桜も、あと何回見られるやらか…」としみじみするしげ	スタジオジブリ	251	315	その他	その他	
194	着彩ボード	ホーホケキョとなりの山田くん	のぼるに振られ、一人でキャッチボールをする父・たかし	スタジオジブリ	251	315	その他	その他	
195	着彩ボード	ホーホケキョとなりの山田くん	注文をまつ子に決めさせ、それに便乗するたかし	スタジオジブリ	251	315	その他	その他	
196	着彩ボード	ホーホケキョとなりの山田くん	仕事の封筒を家に置き忘れたの思い込むたかしだったが...	スタジオジブリ	251	315	その他	その他	
197	着彩ボード	ホーホケキョとなりの山田くん	山田家のポチ	スタジオジブリ	251	315	その他	その他	
198	着彩ボード	ホーホケキョとなりの山田くん	七五三	スタジオジブリ	251	315	その他	その他	

【フィルム】

番号	種別	作品名・資料名		制作者 (もしくは監督)	時間 (分)	カラー	画面サイズ	音質	備考
199	フィルム	アリとキリギリス	The Grasshopper and the Ant	ウラジスワフ・ステレーヴィチ	5	モノクロ	スタンダード	サイレント	
200	フィルム	ベルギーの百合	The Lily of Belgium	ウラジスワフ・ステレーヴィチ	11	モノクロ	スタンダード	サイレント	
201	フィルム	惑星間革命	The Interplanetary Revolution	ゼノ・コミッサレンコ、ユーリー・メルクーロフ、ニコライ・ホダターエフ	8	モノクロ	スタンダード	サイレント	
202	フィルム	ソビエトのおもちゃ	Soviet Toys	ジガ・ウエルトフ	13	モノクロ	スタンダード	サイレント	
203	フィルム	スケート	Skate	ユーリー・ジャリヤーフ・シスキー	7	モノクロ	スタンダード	サイレント	
204	フィルム	中国っ子の冒険	The Adventures of Chinese Kids	M.V.ヘンデルスカヤ、S.A.ヘンデルスキー	19	モノクロ	スタンダード	サイレント	
205	フィルム	郵便	The Post	ミハイル・ツィハノフスキー	16	モノクロ	スタンダード	サイレント	
206	フィルム	生活の支配者	The Ruler of Lifestyle	アレクサンドル・ブトウシコ	17	モノクロ	スタンダード	モラル	
207	フィルム	泥棒	The Thief	アレクサンドル・イワノフ、バンテレイモン・サザーノフ	10	モノクロ	スタンダード	モラル	
208	フィルム	自動オルガン	The Musical Box	ニコライ・ホダターエフ	20	モノクロ	スタンダード	モラル	
209	フィルム	皇帝ドランダイの話	Czar Durandai	イワン・イワノフ・ワノフ、ワレンチナ・ブルムベルグ、ジナイダ・ブルムベルグ	22	モノクロ	スタンダード	モラル	
210	フィルム	新ガリヴァー	The New Gulliver	アレクサンドル・ブトウシコ	78	モノクロ	スタンダード	モラル	
211	フィルム	にぎやかな航海	The Noisy Voyage	ウラジミール・ステエフ	14	モノクロ	スタンダード	モラル	
212	フィルム	イワシコとバーバ・ヤーガ	Ivashko and Baba-Yaga	ワレンチナ・ブルムベルグ、ジナイダ・ブルムベルグ	11	モノクロ	スタンダード	モラル	
213	フィルム	おろかな子ネズミの話	The Tale of the Silly Little Mouse	ミハイル・ツィハノフスキー	11	カラー	スタンダード	モラル	
214	フィルム	船乗りシンドバット	Sindbad the Sailor	ワレンチナ・ブルムベルグ、ジナイダ・ブルムベルグ	21	モノクロ	スタンダード	モラル	
215	フィルム	雪の女王	The Snow Queen	レフ・アタマノフ	65	カラー	スタンダード	モラル	

番号	種別	作品名・資料名		制作者 (もしくは監督)	時間 (分)	カラー	画面サイズ	音質	備考
216	フィルム	話の話	Tale of Tales	ユリー・ルシュティン	33	カラー	スタンダード	モノラル	
217	フィルム	あおさぎと鶴	The Heron and the Crane	ユリー・ルシュティン	11	カラー	スタンダード	モノラル	
218	フィルム	霧につつまれたハリネズミ	The Hedgehog in the Fog	ユリー・ルシュティン	11	カラー	スタンダード	モノラル	
219	フィルム	25日、最初の日	25 October, the First Day	ユリー・ルシュティン	10	カラー	スタンダード	モノラル	
220	フィルム	ケルジエネツの戦い	The Battle of Kerzhenets	イワン・ワノフ＝ワノ ユリー・ルシュティン	11	カラー	シネスコ	モノラル	
221	フィルム	せむしのこうま	Konyok-Gorbunok	イワン・ワノフ＝ワノ	60	カラー	スタンダード	モノラル	
222	フィルム	キツネとウサギ	The Fox and the Hare	ユリー・ルシュティン	13	カラー	スタンダード	モノラル	
223	フィルム	風の谷のナウシカ		スタジオジブリ	116	カラー	ピスタ	ステレオ	
224	フィルム	天空の城ラピュタ		スタジオジブリ	124	カラー	ピスタ	ステレオ	
225	フィルム	となりのトトロ		スタジオジブリ	86	カラー	ピスタ	ステレオ	
226	フィルム	火垂るの墓		スタジオジブリ	88	カラー	ピスタ	ステレオ	
227	フィルム	魔女の宅急便		スタジオジブリ	102	カラー	ピスタ	ステレオ	
228	フィルム	おもひでぽろぽろ		スタジオジブリ	118	カラー	ピスタ	ステレオ	
229	フィルム	紅の豚		スタジオジブリ	93	カラー	ピスタ	ステレオ	
230	フィルム	海がきこえる		スタジオジブリ	72	カラー	ピスタ	ステレオ	
231	フィルム	平成狸合戦ぽんぽこ		スタジオジブリ	118	カラー	ピスタ	ステレオ	
232	フィルム	耳をすませば		スタジオジブリ	111	カラー	ピスタ	ステレオ	
233	フィルム	もののけ姫		スタジオジブリ	133	カラー	ピスタ	ステレオ	
234	フィルム	もののけ姫(英語版)	Princess Mononoke	スタジオジブリ	133	カラー	ピスタ	ステレオ	
235	フィルム	ホーホケキョ となりの山田くん		スタジオジブリ	103	カラー	ピスタ	ステレオ	
236	フィルム	On Your Mark		スタジオジブリ	7	カラー	ピスタ	ステレオ	
237	フィルム	草原の子テングリ		桜映画社	20	カラー	スタンダード	モノラル	
238	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第1話「アルムの山へ」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
239	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第2話「おじいさんの山小屋」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
240	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第3話「牧場で」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
241	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第4話「もう一人の家族」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
242	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第5話「燃えた手紙」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
243	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第6話「ひびけ口笛」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
244	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第7話「樅の木の音」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
245	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第8話「ピッチーよどこへ」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
246	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第9話「白銀のアルム」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
247	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第10話「おばあさんの家へ」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
248	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第11話「吹雪の日に」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
249	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第12話「春の音」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
250	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第13話「再び牧場へ」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
251	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第14話「悲しい知らせ」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
252	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第15話「ユキちゃん」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
253	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第16話「デルフリ村」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
254	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第17話「二人のお客さま」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
255	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第18話「離ればなれに」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
256	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第19話「フランクフルトへ」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
257	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第20話「新しい生活」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
258	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第21話「自由に飛びたい」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
259	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第22話「遠いアルム」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
260	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第23話「大騒動」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
261	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第24話「捨てられたミーちゃん」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
262	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第25話「白バン」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
263	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第26話「ゼーゼンさんのお祭り」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
264	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第27話「おばあさま」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
265	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第28話「森へ行こう」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
266	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第29話「ふたつのこころ」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
267	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第30話「お陽さまをつかまえない」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
268	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第31話「さようならおばあさま」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
269	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第32話「あらしの夜」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
270	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第33話「ゆうれい騒動」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
271	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第34話「なつかしの山へ」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
272	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第35話「アルムの星空」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
273	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第36話「そして牧場へ」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
274	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第37話「山羊のあかちゃん」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
275	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第38話「新しい家で」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
276	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第39話「がんばれベーター」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
277	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第40話「アルムへ行きたい」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
278	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第41話「お医者さまの約束」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
279	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第42話「クララとの再会」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
280	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第43話「クララの願い」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
281	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第44話「小さな計画」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
282	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第45話「山の子たち」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
283	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第46話「クララのしあわせ」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
284	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第47話「こんにちわおばあさま」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
285	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第48話「小さな希望」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
286	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第49話「ひとつの誓い」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
287	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第50話「立つてごらん」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
288	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第51話「クララが歩いた」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	
289	フィルム	アルプスの少女ハイジ	第52話「また会う日まで」	ズイヨー	25	カラー	スタンダード	モノラル	

3：三鷹市の公の施設に係る指定管理者の指定を受けて行なうアニメーション美術館の管理運営（3号事業関係）

三鷹市の委託を受けて、三鷹市立アニメーション美術館の運営を行なうとともに、下記のとおり施設維持管理を行なった。

【建物保安警備】

セコム株式会社に保安警備を委託し、24時間の警備員常駐による警備を行なった。

【建物設備保守】

常駐管理及び設備保守については、三井不動産ファシリティーズ株式会社に業務委託し、開館日及び休館日における日常監視業務のほか、建築物や什器・備品の簡易修繕、定期的な消耗部品交換を実施した。また、各所の経年劣化や突発的な故障においても、応急処置や修理など、適宜対応した。

通常休館日のほか、5月・11月の長期休館においても、木部修繕、設備部品交換などを実施し、美観と安全を考慮しながら、施設全体の維持・保全に努めた。

5月の春季休館中には、屋外木製階段での転倒予防対策として、手摺りの追加取付工事を行なった。また、故障した屋外用監視カメラの更新も実施した。館内においては、排煙設備・段差解消機設備における経年劣化部品交換を予防保全の観点から実施した。

11月の秋季休館中には、部品供給が終了となったため中央監視システムの更新、屋外デッキにおける腐食劣化した床板や下地材の部材交換、経年により表面が摩耗した床石に、歩行時の転倒予防対策として防滑処置を行ない、安全性を確保した。

その他、美術館建物における日常的な清掃、保守点検、及び定期作業による各種施設の維持管理は、滞りなく実施した。

【植栽管理】

植栽管理では、パップス、株式会社苑友造園に植栽ゾーンの定期作業を委託し、高木・中低木剪定や草刈・除草などを計画的に実施した。また、東和ランドテック株式会社にデッキ・パティオの草花類の植替え作業を委託し、季節感のある環境・景観維持に努めた。

【建物清掃】

三井不動産ファシリティーズ株式会社に建物清掃業務を委託し、開館日の日常清掃と共に、休館日毎の定期清掃を行なった。11月の長期休館を利用して、北側の外塀や建物外壁の高圧洗浄を実施した。その他、美術館より排出される廃棄物は志賀興業株式会社に処理を委託した。

【防災・防犯関連】

スタッフに対して以下の総合訓練を実施した。

- ・防災行政無線通信訓練 令和5年7月、11月、令和6年2月（三鷹市主体）
- ・安否確認訓練 令和5年9月、令和6年3月
- ・救護訓練 令和5年5月（杏林大学医学部附属病院指導）
- ・防災訓練 令和5年11月（消防庁三鷹消防指導）

4：三鷹市の委託を受けて行なうアニメーションに関する事業（4号事業関係）

【三鷹の森アニメフェスタへの協力】

3月2日(土)に、三鷹市が主催する「三鷹の森アニメフェスタ 2024」に企画協力として参画し、「アニメーション古今東西 その20」と題した上映イベントを開催した。

三鷹の森アニメフェスタ「アニメーション古今東西 その20」

日時：令和6年3月2日(土) 10時30分～17時

会場：三鷹市芸術文化センター「星のホール」

主催：三鷹市

入場料：無料（抽選）

入場者数：365名

プログラム：第1部「アニメーションで世界旅行」

短編7作品上映

第2部『カラミティ』上映 並びにトークショー

ゲスト ライムスター 宇多丸

司会 小島一宏

第一部では、「アニメーションで世界旅行」と題し、世界各国の様々な風土、文化が色濃く投影された優れたアニメーション7本の短編作品を選定し、解説を付して上映した。

第二部では、2020年に劇場公開されたレミ・シャイエ監督作品『カラミティ』を特別上映した。上映後には、ヒップホップ・グループ「ライムスター」のラッパーでありラジオパーソナリティとしても活躍されている宇多丸氏を招いてトークショーを実施した。

<上映作品>

第一部（午前10時30分～午後1時00分）

『Sound of Light』（ESMAの卒業制作/2022年/5分/フランス）

フランスの芸術職業高等学校の生徒たちが制作。舞台はアメリカ。ジャズ発祥の地ニューオリンズに、サクソの演奏が得意な少年が引っ越してくるが、町はマルディグラという祭りで賑わっていて、臆病な彼はなかなか外に出かけられずにいる。そこへ、音楽の精霊がやってきて少年を外へ連れ出そうとして…。細やかな絵作りや美しい配色、表情豊かなキャラクターなど、高校生同士で作ったとは思えない、クオリティの高い作品。

『TOKRI』（監督：スレッシュ・エリヤット/2017年/15分/インド）

8年の歳月をかけて制作されたクレイアニメ。インドのアニメーション界の巨匠と言われているエリヤット氏が、自身の実体験を元に作り上げた、大都市ムンバイのスラム街に生きる貧しい父と娘の物語。徹底した観察により、街並みや道路を走る自動車、行き交う人々が驚くべきリアリティで作り込まれている。

『Oktapodi』（制作：ゴブランの学生/2007年/2分/フランス）

ギリシャの港町が舞台。仲睦まじいタコのカップルの彼女を、漁師が捌いて売りに出そうとしたことから始まる、タコと漁師の果てしない戦いを描いた3DCGアニメーション。息もつかせぬアクションと、立体的に繰り広げられるチェイスシーンが見どころで、短い時間に多くの要素が描かれている。これも学生たちが作った作品だが、仏映画祭アヌシーやCG世界会議シーグラフで受賞したほか、2009年米アカデミー賞短編アニメ賞にノミネートされるなど、世界各国で高い評価を得た。

『おたまじゃくしがお母さんを探す』（特偉 /1960年/15分/中国）

水墨画に特有の淡く繊細な筆のタッチで描かれた「水墨アニメーション」と呼ばれる手法で作られている。主人公のおたまじゃくしたちやひよこ、金魚、エビやカニを、墨のにじみやぼかしを上手く生かして、生き物たちの質感や動きを巧みに表現している。門外不出の技術で、どのように作ったのか今も謎となっている。

『飲み過ぎた一杯』（監督：ブジェチスラフ・ポヤル/1953年/18分/チェコスロバキア）

人形アニメーションの傑作として名高い。当時チェコスロバキアで社会問題となっていた飲酒運転の防止のために制作されたものだが、バイクの暴走シーンのスピード感は凄まじく、ストップモーションアニメであることを忘れるほど。美術監督もまたイジー・トルンカという東欧を代表する人形アニメの巨匠であり、道路脇の標識や信号機、機関車や鉄橋、途中立ち寄るバーで結婚式を挙げているカップル、店内の調度品、酒瓶やグラスまで、一瞬しか映らないものも緻密に作られている。カンヌ国際映画祭をはじめ、8つの賞を受賞。

『HIDARI』（監督：川村真司、小川育/2023年/6分/日本）

人、動物、装置すべて木で作られたストップモーション時代劇。実在したとも言われている江戸時代の伝説の彫刻職人、左甚五郎を主人公に、斬新な構図と勢いのあるカメラワークで殺陣を表現。迫力あふれる映像が次々に繰り広げられる。小川育氏と共同監督を務め、原案・脚本も担当した川村真司氏は、アメリカの雑誌「Creativity」で「世界のクリエイター50人」に選ばれた気鋭のアニメーション作家。川村氏が所属するクリエイティブスタジオ「Whatever」に、優れたコマ撮り作品を世に送り出してきたアニメーションスタジオ、「ドワーフ」と「TECARAT」の2社が参画して、現在長編映画として制作中。

『ファラオ』（監督：ミッシェル・オスロ/2022年/20分/フランス・ベルギー）

映画「古の王子と3つの花」の中の一編。ある小さな王国の王子が愛し合う女性と結婚するために、自らの力を信じ、知恵と勇気で、暴力を用いずにエジプトを統一しようとする物語。監督は「アズールとアスマール」や「夜のとばりの物語」で知られるフランスのアニメーション制作者ミッシェル・オスロ。異国情緒あふれる独特で美しい映像と魅力的なストーリーが特徴で、“色と影の魔術師”とも呼ばれる。故・高畑勲監督は生前、オスロ氏の「キリクと魔女」に惚れ込み、以降の作品でも自ら日本語版監修を務めるなどしていた。

第二部

『カリミティ』（監督：レミ・シャイエ/2020年/82分/フランス・デンマーク合作）

前作『ロング・ウェイ・ノース』で故・高畑勲監督から惜しみない称賛を受けたレミ・シャイエ監督の最新作。輪郭線のない美しく個性的な映像表現にはより磨きがかかり、またジェンダーという難しい問題を描きながらも観客をグイグイとひっぱっていくエンタテインメント性も増した本作は、アヌシー国際アニメーション映画祭で最高賞となるクリスタル賞（グランプリ）を受賞した。



三鷹の森アニメフェスタ 2024

5：展覧会事業に付帯する図録その他の印刷物並びにアニメーション文化に関する出版物、映像及び音楽に関する製品の製作及び販売（5号事業関係）

(1) 出版物の制作販売

以下の印刷物を当美術館の図書閲覧室や中央ホールの案内所等にて販売した。

- ・美術館パンフレット 日本語（2010年改訂版）
- ・美術館パンフレット 英語（2010年改訂版）
- ・美術館図録改訂版（2023年増補改訂版）
- ・映画パンフレット 10種類
（「くじらとり」「コロの大さんぽ」「めいとこねこバス」「星をかった日」「水グモもんもん」「やどさがし」「ちゅうずもう」「パン種とタマゴ姫」「たからさがし」「毛虫のボロ」）
- ・展示パンフレット 「アードマン展」
「小さなルーヴル美術館展」
「崖の上のポニョ展」
「ジブリの森のレンズ展」
「映画を塗る仕事展」
「手描き、ひらめき、おもいつき展」
「アーヤと魔女展」
- ・美術館絵葉書セット（12枚）
- ・美術館写真ポストカードセット（写真 kanyada）4種
- ・美術館ポストカード（画 吉田昇） 11種類
- ・展示ポスター「ユーリー・ノルシュテイン展～ノルシュテインとヤールブソワの仕事」
- ・展示ポストカード 「クルミわり人形とネズミの王さま展」6種類
「幽霊塔へようこそ展」2種
「猫バスによってジブリの森へ展」1種
「天空の城ラピュタと空想科学の機械達展」3種類
- ・宮崎敬介氏 木口木版画ポストカード6種類
- ・宮崎敬介氏 木口木版画 7種
- ・しおり6種類
- ・木のしおり2種類
- ・星のノート4種類

(2) アニメーション映画のライブラリー事業

アニメーション映画の普及啓発活動として取り組んでいる三鷹の森ジブリ美術館ライブラリー事業は、非劇場公開、放映権販売は終了し、ウォルト・ディズニー・ジャパンから発売されるビデオグラム販売を中心に継続している。

今期は従来からの取り扱い作品にミッシェル・オスロ監督新作の『古の王子と3つの花』を加えて販売を行なった。

① 非劇場公開

今期、新規公開作品はなく、過去作の上映依頼に対する配給業務もなかった。

② ビデオグラム販売

上記の新作に加えて、従来からの取り扱い作品の販売を行なった。

③ 放映権販売

今期、新作の販売はない。

6：その他この法人の目的を達成するために必要な事業（6号事業関係）

特になし。

7：広報活動報告

今年度は、令和4年5月28日(土)から令和5年11月5日まで続いた企画展示「未来少年コナン」展、および、令和5年11月18日(土)より開催した企画展示「君たちはどう生きるか」展 第一部イメージボード編の広報活動を中心に活動した。また、公式ホームページ、YouTube 公式チャンネルや公式Xの運用とともに、オンラインショップ「マンマユート」の広報宣伝活動に協力し、Web、SNSを積極的に活用し告知を行なった。

(1) 広報宣伝活動

- ① 年度を通じて取材対応期間とし、国内外問わず美術館取材を受けた。
- ② 年度を通じて新聞/web/TV 媒体を中心に写真等の広報素材の貸出や情報確認を行なった。
- ③ 年度を通じてX、YouTube 公式チャンネルを運用した。
- ④ 企画展示「君たちはどう生きるか」展の開催にあわせて、下記のような広報活動を行なった。
 - 1) 10月3日(火)より美術館ホームページにて新展示のポスター画像と展示紹介を掲載したのを機に、広報活動を開始した。
 - 2) マスコミ、及び関係者向け内覧会を実施した。

日 時：令和5年11月17日(金)13:00～16:30
参加者：マスコミ・関係者約82名

映像展示室「土星座」にて、ジブリ美術館館長の安西香月、協賛の日清製粉グループ本社総務本部広報部長の安達令子氏のご挨拶し、その後、展示の企画・監修をつとめた宮崎吾朗による会見を行ない、個別取材(新聞/web/TV/雑誌各1媒体)を実施した。
マスコミは、web 媒体を中心に、武蔵野記者クラブなどの地元メディアや、日本テレビなどのテレビ媒体、読売新聞や朝日新聞など新聞/雑誌などが来場した。日清製粉グループ関係の食品業界関連マスコミも来場した。会見終了後は企画展示室を中心に館内撮影を実施した。
 - 3) マスコミ・関係各社を中心に、ポスター画像使用の招待状約1600枚を制作し、配布した。
- ⑤ 美術館公式サイトの管理運営および一部改訂を行なった。
 - 1) 最新情報や美術館日誌を更新し、定期的に新しい情報を提供するホームページ作りに取り組んだ。
 - 2) 企画展示、ギャラリー展示、映像展示室上映スケジュールなどの情報を適宜掲載した。
 - 3) 本を紹介する季刊紙「トライホークス」の記事掲載と、ミュージアムショップの最新情報、カフェの新メニューなどを紹介する記事制作と掲載を行なった。
 - 4) 「財団年報2022-2023(令和5年度)」、「令和6年度事業計画」「令和6年度収支予算」を全ページ掲載した。
 - 5) 4月21日(金)から、「金曜ロードショーとジブリ展」とのセット券発売の告知に協力し告知を行なった。
 - 6) 11月27日(月)から、正社員募集に関する告知を行った。
 - 7) その他、イベント募集やアニメーション文化調査研究活動助成の告知などを行なった。
- ⑥ バンコクで開催された“THE WORLD OF STUDIO GHIBLI’S ANIMATION” EXHIBITIONの宣伝に協力した。
- ⑦ コンビニエンスストア「ローソン」が展開するジブリ美術館のチケット発売告知に年度を通じて協力した。
 - 1) ローソン店内で掲示される店内ポスター(毎月上旬掲示)、POSレジ画面(毎月10日前後)、Loppiグッズカタログ(毎月1日発行)、月刊ローチケ(毎月15日発行)の制作に協力した。
 - 2) ローソンおよびローソンエンタテインメントの企業ホームページやSNS(X/Facebook)でのチケット販売告知や最新情報告知に協力した。

- 3) ローソンのラジオスポット（TOKYO FM 毎週日曜 23:00～「鈴木敏夫のジブリ汗まみれ」内）の制作に協力した。
- 4) 令和6年1月1日 AM0:00 から実施のシステムメンテナンスのお知らせを告知した。
- ⑧ 美術館の海外向けチケットを販売している JTB のパンフレットおよび HP 制作、チケット販売国メディアへの広報対応を行なった。
- ⑨ スタジオジブリ発行の小冊子『熱風』にて、企画展示「未来少年コナン」展、「君たちはどう生きるか」展、オリジナル短編アニメーション映画、チケット販売のお知らせ等の広告を掲載した。
- ⑩ 年度を通じてスタジオジブリ公式 LINE アカウントの運用に協力した。

(2) イベント活動

令和5年4月4日(土)に開催した、ご招待イベント<熱きコナンファンよ 集え！>の告知、および3月2日(日)に武蔵野公会堂にて開催された「三鷹の森アニメフェスタ 2024 ～アニメーション古今東西 その20～」に参加した。

(3) 印刷物・CM 等の制作・制作協力

- ① 館内案内用の「利用のごあんない」日本語版の改訂を行った。
- ② 協賛各社（日清製粉グループ、ローソンエンタテインメント）の告知物の制作に協力した。
- ③ 『君たちはどう生きるか』主題歌「地球儀」（作詞・作曲・プロデュース 米津玄師）のシングル CD 写真撮影に協力した。
- ④ 「ジブリパークとジブリ展」公式パンフレット制作に協力した。

【資料】 広報資料媒体一覧表

掲載・放映日	媒体名	記事の形態または放送時間	記事タイトルまたは内容
令和5年			
4月1日	公園めぐりデジタルスタンプラリー	4c	都立公園開園150周年記念事業 井の頭自然文化園が掲載
	Cookbiz(カフェスタッフ求人ページ)	4c	カフェ「麦わらぼうし」紹介
	Loppiグッズカタログ4月号	4c	企画展示「未来少年コナン」展
	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」 kakurenbo TOTORO egg bag/uzura bag
4月7日	イベントおでかけ情報サイト「Walkerプラス」 (web)	4c	未来少年コナン展紹介
	イオンクレジットサービス会員誌「mom」5月号	4c	美術館施設紹介
	東洋大学 社会調査	1c	運営・展示からみるミュージアムの独自性インタビュー内にて美術館施設紹介
4月9日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」短編映画『やどさがし』特集
4月15日	月刊ローチケ	4c1p	出会いと別れの春の季節にかわいい贈りものはいかが？
	ローソンHPジブリポータルサイト(web)	4c	出会いと別れの春の季節にかわいい贈りものはいかが？
	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」王蟲フィギュア
4月20日	昭文社『color+東京』	4c	美術館施設紹介
4月22日	風の谷新聞 特別版第8号	1c	島本須美さんが語る『ナウシカ』のころ ジブリ美術館にて行われたインタビューを掲載
	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」文庫革小物
4月28日	三鷹の森ジブリ美術館チャンネル(YouTube)	4c	動画日誌「未来少年コナン「聞こう・語ろう コナンへの想い」トークショー総集編」
	三鷹の森ジブリ美術館チャンネル(YouTube)	4c	動画日誌「<熱きコナンファンよ 集え！>イベントの一日を大公開」
4月29日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」アウトドアブランド『Foxfire(フォックスファイア)』とのコラボレーションアイテム
5月1日	Loppiグッズカタログ5月号	4c	企画展示「未来少年コナン」展
	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	『未来少年コナン』ファンイベントYouTube動画日誌公開のお知らせ
	「MOM」5月号	4c	美術館施設紹介
5月6日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」短編映画『コロの大さんぼ』特集
5月7日	学校法人細谷学園 日商簿記三鷹福祉専門学校	4c	美術館施設紹介
5月10日	書籍「スタジオジブリ物語」	4c	美術館施設紹介
5月13日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」オリジナルTシャツ特集
5月13日	書籍『住んだら手帳』	4c	美術館施設紹介
5月15日	月刊ローチケ	4c	端から端までいろいろな視点で探検してみよう
	ローソンHPジブリポータルサイト(web)	4c	端から端までいろいろな視点で探検してみよう
5月27日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」舞台『千と千尋の神隠し』Blu-ray予約受付開始
	トラベルjp (web)	4c	美術館施設紹介
6月1日	Loppiグッズカタログ6月号	4c	企画展示「未来少年コナン」展
	杏林大学病院 (web)	4c	三鷹の森ジブリ美術館スタッフに医学部付属病院看護師が教護訓練を指導
6月3日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」短編映画『めいとこねこバス』特集
6月4日	テレビ朝日「相場マナブ！旬の産地ごはん」	18:00～	(三鷹特集内にて) 美術館施設紹介
6月7日	東京都立大学 講座告知	4c	講座紹介内にて美術館施設紹介
6月8日	The ROYAL	4c	美術館施設紹介
6月10日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」真鍮風鈴 大トトロ
6月15日	月刊ローチケ	4c	カラフルに塗り分けられた外壁に注目
	ローソンHPジブリポータルサイト(web)	4c	カラフルに塗り分けられた外壁に注目
6月24日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」forest parade(2005→s/sコレクション)
7月	「Charle CAFÉ」7月号	4c1p	美術館施設紹介
7月1日	Loppiグッズカタログ7月号	4c	企画展示「未来少年コナン」展
	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」ちいぼうしシリーズ
7月10日	まっふるマガジン「東京観光2024」	4c	美術館施設紹介
7月15日	月刊ローチケ	4c	あっちにも、こっちにもある“空舞うものたち”
	ローソンHPジブリポータルサイト(web)	4c	あっちにも、こっちにもある“空舞うものたち”
	るぶ 東京観光'24	4c	美術館施設紹介
	ロケーションジャパン8月号	4c	企画展示「未来少年コナン」展紹介

掲載・放映日	媒体名	記事の形態または放送時間	記事タイトルまたは内容
7月20日	REISSUE RECORDS (X)	4c	リイシューねこちゃん来館 (米津玄師「地球儀」協力)
7月21日	REISSUE RECORDS (X)	4c	リイシューねこちゃん来館 (米津玄師「地球儀」協力)
7月22日	REISSUE RECORDS (X)	4c	リイシューねこちゃん来館 (米津玄師「地球儀」協力)
7月23日	REISSUE RECORDS (X)	4c	リイシューねこちゃん来館 (米津玄師「地球儀」協力)
7月24日	REISSUE RECORDS (X)	4c	リイシューねこちゃん来館 (米津玄師「地球儀」協力)
7月25日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」シングルCD「地球儀」発送日のお知らせ
7月26日	書籍「世界の美しい美術館」	4c	美術館施設紹介
8月	市民便利帳 三鷹くらしのガイド 2023-2024	4c	美術館施設紹介
8月1日	Loppiグッズカタログ8月号	4c	企画展示「未来少年コナン」展ポスタービジュアル+「水グモもんもん」
	井の頭自然文化園 水生生物園	4c	水生生物館でミズグモの展示に短編アニメーション『水グモもんもん』パネル紹介
8月3日	日本テレビ「ZIP」	5:50～	(米津玄師さん出演内にて) 展示物「地球儀」出品
8月5日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」短編映画「水グモもんもん」特集
8月15日	月刊ローチケ	4c	「世界をつくる所」には素敵なものがいっぱい
	ローソンHPジブリポータルサイト(web)	4c	「世界をつくる所」には素敵なものがいっぱい
	まっぷる 東京観光24	4c	美術館施設紹介
8月20日	広報みたか	4c	三鷹市・近隣市民デー告知
9月1日	Loppiグッズカタログ9月号	4c	企画展示「未来少年コナン」展ポスタービジュアル+「星をかった日」
	読売新聞 (武蔵野版)	4c	POKI4コマ漫画にあわせ誕生内容確認など
	市報「こがねい」	4c	三鷹市・近隣市民デー告知
9月3日	広報みたか	2c	アニメーション文化研究費助成について
9月4日	リビングむさしの (web)	4c	三鷹市・近隣市民デー告知
9月7日	書籍『ハレ旅 東京』(改訂3版)	4c	美術館施設紹介
9月15日	月刊ローチケ	4c	「未来少年コナン」展は11月5日まで“乗りもの”の魅力を楽しもう
	ローソンHPジブリポータルサイト(web)	4c	「未来少年コナン」展は11月5日まで“乗りもの”の魅力を楽しもう
9月16日	日本テレビ「ぶらり途中下車の旅」	9:25～	戸次重幸さん中央線の旅で美術館来訪
	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」オリジナルTシャツ特集
9月28日	月刊「Hanako」	4c4p	(パン特集内にて)「パン種とタマゴ姫」紹介
10月	ちょっとおでかけ秋の夜長の自然文化園	4c	井の頭自然文化園イベントチラシ山瀬理桜コンサート内にて「水グモもんもん」紹介
10月1日	Loppiグッズカタログ10月号	4c	企画展示「君たちはどう生きるか」展
	Let's ENJOY TOKYO (web)	4c	美術館施設紹介
10月3日	映画ナタリー	4c	ジブリ美術館で「君たちはどう生きるか」展が開催、“手描きの豊かさ”に迫る
	シネマカフェ	4c	「君たちはどう生きるか」展、三鷹の森ジブリ美術館にて11月18日より開催
	コミックナタリー	4c	「君たちはどう生きるか」展11月からジブリ美術館で、鉛筆と絵の具による手描きの絵を
	アニメージュプラス	4c	【三鷹の森ジブリ美術館】「君たちはどう生きるか」の貴重な資料を楽しむ新企画展示
	Yahoo!ニュース (アニメージュプラス転載)	4c	【三鷹の森ジブリ美術館】「君たちはどう生きるか」の貴重な資料を楽しむ新企画展示
	ファッションプレス	4c	三鷹の森ジブリ美術館「君たちはどう生きるか」展-制作過程の絵を展示、“手描きアニメの力”に迫る
	クランクイン!	4c	ジブリ美術館「君たちはどう生きるか」展 制作過程の絵を3期にわたって展示
	シネマトゥデイ	4c	「君たちはどう生きるか」展、ジブリ美術館で開催決定 宮崎吾朗が企画&監修
	モデルプレス	4c	「君たちはどう生きるか」展、ジブリ美術館で開催決定 宮崎吾朗が企画&監修
	47NEWS	4c	「君たちはどう生きるか」展開催決定 制作過程において描かれた絵を展示
	ヨメルバ (Web)	4c	美術館紹介
	ウーマンエキサイト (シネマカフェ転載)	4c	「君たちはどう生きるか」展、三鷹の森ジブリ美術館にて11月18日より開催
	中日新聞 (Web) (47NEWS転載)	4c	「君たちはどう生きるか」展、三鷹の森ジブリ美術館にて11月18日より開催
	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」新企画展示「君たちはどう生きるか」展
10月4日	アニメハック (Web)	4c	「君たちはどう生きるか」の手描きの豊かさ”に迫る ジブリ美術館の新企画展示が11月18日から開催
10月5日	タイムアウト東京 (Web)	4c	美術館施設紹介
	JR東海ツアーズ	4c	美術館施設紹介
	「ソトコト」11月号別冊「タマコト」	4c	(多摩東京移管130周年記念イベントスタンプラリー)にて美術館施設紹介
	Tokyo Weekender (Web)	4c	美術館施設紹介

掲載・放映日	媒体名	記事の形態または放送時間	記事タイトルまたは内容
10月6日	書籍「日本 旅大事典1500」	4c	美術館施設紹介
	杉並区産業振興センター「訪日外国人向け観光ガイドマップ」	4c	美術館施設紹介
	日清だより 秋号	4c	「日清製粉グループDAY」を開催
10月7日	北日本新聞	4c	宮崎駿監督の「地球儀」初登場、身近な風景描き込む 「金曜ロードショーとジブリ展」(安西館長インタビュー)
10月8日	『東京のちいさな美術館・博物館・文学館』(増補改訂版)	4c	美術館施設紹介
10月10日	船細工 花輪茶之介氏HP	4c	三鷹市・近隣市民デーの活動報告
10月13日	住んだら手帳	4c	美術館施設紹介
10月15日	月刊ローチケ	4c	カフェ「麦わらぼうし」によるこそ
	ローソンHPジブリポータルサイト(web)	4c	カフェ「麦わらぼうし」によるこそ
	テレビ東京「開運!なんでも鑑定団」	20:54~	山瀬理桜さん出演「水グモもんもん」紹介
10月21日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」ジブリ美術館ミニチュアグッズ
11月	連雀学園CS広報誌「JOIN US!」Vol.2	4c	三鷹市立第一中学校生徒撮影画像表紙掲載
11月1日	Loppiグッズカタログ11月号	4c	企画展示「君たちはどう生きるか」展
	ティチャーズログノート	4c	美術館施設紹介
11月2日	月刊誌『MOE』12月号	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	ヨメルバ (web)	4c	美術館施設紹介
11月3日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」絵コンテ特集
11月6日	NAVITIME Travel	4c	美術館施設紹介
11月9日	多摩美術大学校友会	4c	助成対象研究者募集(調査研究活動助成制度)
11月15日	月刊ローチケ	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	ローソンHPジブリポータルサイト(web)	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
11月17日	北日本放送「ワンフェア」	19:00~	(金曜ロードショーとジブリ内にて) 展示物「地球儀」出品/安西館長インタビュー
	シネマトゥデイ (web)	4c	ジブリ「君たちはどう生きるか」展は“普通の美術館”目指す 宮崎吾朗「絵を一点一点見てほしい」
	ORICON NEWS (web)	4c	宮崎吾朗氏、圧倒的な「君たちはどう生きるか」にぼやき「誰も後に続けない」
	映画ナタリー (web)	4c	「君たちはどう生きるか」展、56点の手描きイメージボードに宮崎駿「悪夢がよみがえる」
	食品産業新聞社ニュース	4c	日清製粉G、三鷹の森ジブリ美術館「君たちはどう生きるか」展に協賛
	ライブドアニュース (web)	4c	日清製粉G、三鷹の森ジブリ美術館「君たちはどう生きるか」展に協賛
	朝日新聞デジタル (web)	4c	あの名作は、こう生まれた ジブリ美術館「君たちはどう生きるか」展
	シネマカフェ (web)	4c	宮崎吾朗監督「絵を一点一点見てほしい」「君たちはどう生きるか」展、三鷹の森ジブリ美術館にて11月18日よりスタート
	紀伊民報 (web)	4c	宮崎吾朗氏、圧倒的な『君たちはどう生きるか』にぼやき「誰も後に続けない」- 紀伊民報
	Yahoo!ニュース (web)	4c	ジブリ「君たちはどう生きるか」展は“普通の美術館”目指す 宮崎吾朗「絵を一点一点見てほしい」
	GAME WATCH (web)	4c	すべて宮崎駿氏直筆! ジブリ美術館「君たちはどう生きるか」展レポート
	GAME WATCH (web)	4c	「君たちはどう生きるか」の企画展示が「三鷹の森ジブリ美術館」にて本日11月18日より開催
	GAME WATCH (web)	4c	宮崎駿氏描き下ろしのパノラマボックス「黄金の門」も。「君たちはどう生きるか」展の展示内容が公開
	コミックナタリー (web)	4c	“普通の美術館”を目指した「君たちはどう生きるか」展、宮崎駿の手描きの絵がズラリ
マイナビニュース (web) (コミックナタリー転載)	4c	“普通の美術館”を目指した「君たちはどう生きるか」展、宮崎駿の手描きの絵がズラリ	
11月18日	金曜ロードショーとジブリ展公式HP	4c	展示物「地球儀」紹介
	日清製粉グループ社内報記事	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	ウーマンエキサイト (web) (シネマカフェ転載)	4c	宮崎吾朗監督「絵を一点一点見てほしい」「君たちはどう生きるか」展、三鷹の森ジブリ美術館にて11月18日よりスタート
	47NEWS	4c	宮崎駿監督 7年の思い 映画「君たちはどう生きるか」ジブリ美術館できょうから企画展
	日本テレビ「news every.」	16:45~	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	朝日新聞(東京版)	4c	あの名作は、こう生まれた ジブリ美術館「君たちはどう生きるか」展
	読売新聞(都民版)	4c	宮崎監督は どう描いたか
	東京新聞	4c	宮崎駿監督 7年の思い 映画「君たちはどう生きるか」ジブリ美術館できょうから企画展
	アニメージュ+ (web)	4c	【ジブリ美術館】「君たちはどう生きるか」展で宮崎駿の想像力を目で味わう
エキサイト (web) (アニメージュ+転載)	4c	【ジブリ美術館】「君たちはどう生きるか」展で宮崎駿の想像力を目で味わう	
11月19日	フードウィークリー	4c	宮崎駿監督最新作「君たちはどう生きるか」を企画展示/三鷹の森ジブリ美術館
	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」LOOPWHEELER (ループウィラー)

掲載・放映日	媒体名	記事の形態または放送時間	記事タイトルまたは内容
11月20日	シネマカフェ (web)	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	DVD&動画配信でーた	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	日本テレビ「ZIP!」	5:50～	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	日本テレビ「DayDay」	9:00～	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	「アニメージュ」1月号	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	「大樹ライフ」12月号	4c	美術館施設紹介
	Rese Mam (web)	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展開幕
11月21日	レッツエンジョイ東京 (web)	4c	美術館施設紹介
	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」LOOPWHEELER (ループウィラー)
11月25日	シネマトゥデイ (web)	4c	宮崎吾朗、映画制作よりパーク建設の方が楽しい 『君たちはどう生きるか』で感じた父・宮崎駿との距離
11月27日	朝日新聞デジタル (小原篤のアニメゲ井)	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展「宮崎駿はまだ絵本版「もののけ姫」をアニメ化したい?」
11月25日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」マンマユート団のボス特集
11月29日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	ジブリ美術館正社員募集告知
12月1日	Loppiグッズカタログ12月号	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	東京消防庁「ウィークリー東京消防」	4c	三鷹消防 防災訓練の様子
12月2日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」短編映画『パン種とタマゴ姫』特集
12月3日	広報みたか	2C	正社員募集/新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	Jスポーツ	4c	「THE ROAD RACE TOKYO TAMA 2023」YouTube三鷹市紹介内での美術館紹介
	杏林大学広報誌「あんず」	4c	ジブリ美術館のスタッフおよそ120人に救護指導を行いました
12月15日	月刊ローチケ	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	ローソンHPジブリポータルサイト(web)	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
12月18日	日本経済新聞	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
12月25日	日清だより 2024新年号	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	三鷹の森ジブリ美術館チャンネル(YouTube)	4c	動画日誌「2023クリスマス 三鷹の森ジブリ美術館のハンドベル」
令和6年			
1月1日	Loppiグッズカタログ1月号	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	Filmmarks (Web)	4c	金土星座作品紹介
1月10日	東京消防庁月刊誌「東京消防」	4c	三鷹消防 防災訓練の様子
1月12日	るるぶ こどもとあそび首都圏	4c	美術館施設紹介
1月15日	月刊ローチケ	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	ローソンHPジブリポータルサイト(web)	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	パンニュース	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展に協賛 日清製粉グループ
1月20日	読売新聞	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	「SWITCH」2月号	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展 宮崎吾朗インタビュー
1月25日	東京トレンドランキング2024年2月号	4c	美術館施設紹介
	2月 TRAVEL東京 (web)	4c	美術館施設紹介
2月1日	Loppiグッズカタログ2月号	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	広報東京都	4c	美術館施設紹介
	武蔵野大学 大学案内2025	4c	美術館施設紹介
2月2日	「MOE」3月号	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
2月4日	ことりっぶ (web)	4c	美術館施設紹介
2月15日	月刊ローチケ	4c	ワクワクいっぱい「パノラマボックス」
	ローソンHPジブリポータルサイト(web)	4c	ワクワクいっぱい「パノラマボックス」
2月28日	公明新聞	1c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	こどもとおでかけ365日 2024-2025 首都圏版	4c	美術館施設紹介
3月	TOKYO Besties (web)	4c	東京観光PR隊による美術館紹介
	新潟大学工学部工学科	4c	美術館施設紹介
	吉祥寺アニメーション映画祭チラシ	4c	美術館協力
3月1日	Loppiグッズカタログ3月号	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
	るるぶ東京25	4c	美術館施設紹介
3月2日	スタジオジブリLINE公式アカウント (LINE)	4c	オンラインショップ「マンマユート便り」短編映画『ちゅうずもう』特集
3月5日	リビングむさしの (web)	4c	新企画展示「君たちはどう生きるか」展
3月15日	月刊ローチケ	4c	あそびどころがいろいろのディスプレイ
	ローソンHPジブリポータルサイト(web)	4c	あそびどころがいろいろのディスプレイ
3月17日	日本テレビ「スクール革命！」	11:45～	街を空から眺めよう！クイズ空中散歩にて、三鷹市内紹介内にて美術館施設紹介
3月28日	まっふる東京25	4c	美術館施設紹介

8 : 令和5年度決算報告

貸借対照表
令和6年3月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1.流動資産	307,684,523	305,868,008	1,816,515
2.固定資産			
(1)基本財産	533,161,337	533,161,337	0
(2)特定資産	1,064,054,000	964,054,000	100,000,000
(3)その他固定資産	121,016,876	124,495,744	△3,478,868
固定資産合計	1,718,232,213	1,621,711,081	96,521,132
資産合計	2,025,916,736	1,927,579,089	98,337,647
II 負債の部			
1.流動負債	49,888,193	45,607,613	4,280,580
負債合計	49,888,193	45,607,613	4,280,580
III 正味財産の部			
1.指定正味財産	1,184,957,337	1,184,957,337	0
2.一般正味財産	791,071,206	697,014,139	94,057,067
正味財産合計	1,976,028,543	1,881,971,476	94,057,067
負債及び正味財産合計	2,025,916,736	1,927,579,089	98,337,647

正 味 財 産 増 減 計 算 書
令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
基本財産運用益	197,097	195,525	1,572
事業収益	799,544,077	734,181,381	65,362,696
受取補助金等	0	1,330,000	△1,330,000
受取寄付金	40,000,000	42,800,000	△2,800,000
雑収益	46,095,081	24,383,866	21,711,215
経常収益計	885,836,255	802,890,772	82,945,483
(2)経常費用			
事業費	777,283,126	724,430,634	52,852,492
管理費	5,856,462	6,169,992	△313,530
経常費用計	783,139,588	730,600,626	52,538,962
当期経常増減額	102,696,667	72,290,146	30,406,521
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
固定資産除却損失	0	1	△1
経常外費用計	0	1	△1
当期経常外増減額	0	△1	1
他会計振替繰入額	31,989,419	22,652,781	9,336,638
他会計振替繰出額	31,989,419	22,652,781	9,336,638
税引前当期一般正味財産増減額	102,696,667	72,290,145	30,406,522
法人税、住民税及び事業税	8,639,600	5,931,600	2,708,000
当期一般正味財産増減額	94,057,067	66,358,545	27,698,522
一般正味財産期首残高	697,014,139	630,655,594	66,358,545
一般正味財産期末残高	791,071,206	697,014,139	94,057,067
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	0	7,796,000	△7,796,000
基本財産運用益	197,097	195,525	1,572
一般正味財産への振替額	△197,097	△195,525	△1,572
当期指定正味財産増減額	0	7,796,000	△7,796,000
指定正味財産期首残高	1,184,957,337	1,177,161,337	7,796,000
指定正味財産期末残高	1,184,957,337	1,184,957,337	0
III 正味財産期末残高	1,976,028,543	1,881,971,476	94,057,067

【巻末】

アニメーション文化に関する調査研究報告

アニメーションの作画に関する調査研究

アニメーションの中の線描とデザイン～小田部羊一氏の作画

第一部「小田部氏の線描」

事業課 学芸員 伊藤望

趣旨

今回は2年に亘り、日本のアニメーションの作画において大塚康生氏が与えた影響と、革新的な表現の数々を挙げながら、今ある特徴を形成した諸要素をご紹介します。

東映動画という日本初の本格的なアニメーション工房において、同社の作画監督を務めていた二人のアニメーター森康二氏と大工原章氏の指導により、その後開花する日本のアニメーションの土台が築かれた。両氏は異なる性質の作画の追求であったため、大塚氏など多くの個性豊かなアニメーターの出現へと繋がっていったが、そこに日本画をベースとして学んだ新人が入ってきた。小田部羊一氏である。

前田青邨^{せいそん}に師事し、習得した線描を強みに、小田部氏はアニメーターとして独自のスタイルを確立させ、またキャラクターデザインの先駆けとして活躍の場を広げていく。

《アルプスの少女ハイジ》や《母をたずねて三千里》を演出した高畑勲氏は、小田部氏の線描について「その描線は美しく、彼のしなやかで簡潔な描画にはほれほれする魅力があった」とし、キャラクターデザインは「ごく簡潔でありながら人間的な温かみと柔軟性を持ち、アニメーションで血を通わせることのできるものである」と評して、「アニメーションの表現を深めたい、新しい表現を生み出したいと願う同志だった^{注1}」と高畑氏の作品の中での重要性を認めている。

小田部氏の線描や作画、またキャラクターデザインはどのようなものなのか。また日本画が同氏の絵画やアニメーションに何をもたらしたのだろうか。

第一部の今回は同氏の線描の成り立ちについて明らかにしたいと考え、直接聞き取りをさせて頂きながら調べ、また線描を見ながら、日本画との比較や描線のはたらきを考察した。

構成

第一章 小田部氏の絵画史

略歴

一. 絵を描くはじまり

1. 日本画を学ぶ
2. 日本画の線描の理論
3. アニメーションへの憧憬

二. アニメーターとして

1. 東映動画

- (一) わんぱく王子の大蛇退治
- (二) テレビアニメーション時代の到来

- (三) 太陽の王子ホルスの大冒険
- (四) 長靴をはいた猫
- (五) 空飛ぶゆうれい船
- (六) どうぶつ宝島
- 2. テレビアニメーションの世界に
 - (一) 長くつ下のピッピとパンダコパンダ
 - (二) アルプスの少女ハイジ
 - (三) 母をたずねて三千里
- 三. アトリエ羚
 - 1. 龍の子太郎
 - 2. じゃりん子チエ
- 四. 任天堂へ

第二章 日本画の中の線描

- 一. 絵巻物（平安時代～鎌倉時代）
 - 1. 鳥獣人物戯画
- 二. 土佐派・狩野派・琳派
 - 1. 土佐派
 - 2. 狩野派
 - (一) 狩野永徳
 - (二) 長谷川等伯
 - 3. 琳派
 - (一) 俵屋宗達
 - (二) 尾形光琳
 - (三) 酒井抱一
- 三. 浮世絵
 - 1. 歌川広重
 - 2. 歌川国貞
- 四. 近代の日本画

第三章 前田青邨

- 一. 線描の達人
 - 1. バラエティに富んだ線描
 - (一) 京名所八題
 - 2. 幅広いモチーフ
 - (一) 猫
 - (二) ペンギン
 - 3. 漫画のような姿態描写

- (一) 西遊記
- (二) かちかち山
- 二. 前田青邨の時代の線描と流派

第四章 線描とアニメーション

- 一. 欧米と異なる線の観念
- 二. アニメーションの線描
- 三. 線の抑揚とセル
- 四. デジタル移行と線の均一化

第五章 小田部氏の線描に関する考察

- 一. 前田青邨との共通点
- 二. 太陽の王子ホルスの大冒険
- 三. 長くつ下のピッピ
- 四. アルプスの少女ハイジ
 - 1. ハイジ
 - 2. ヨーゼフ
 - 3. アルムおんじ
- 五. 龍の子太郎
 - 1. 太郎
 - 2. あや
 - 3. 動物たち

第六章 まとめ

第一章. 小田部氏の絵画史

本章では、小田部氏の略歴を示した上で、絵画を志すようになるまでと、その後の日本画科への進学、アニメーターとしての活動、任天堂入社に至るまでを時系列でまとめた。

略歴

1936年9月15日台湾台北市生まれ。幼少期を台湾で過ごす。1945年帰国。1954年、東京藝術大学美術学部日本画科に入学。

1959年、東映動画に入社。《わんぱく王子の大蛇退治》(1963年/原画)、《狼少年ケン》(1963年/作画監督、原画)、《わんわん忠臣蔵》(1963年/原画)、《少年忍者 風のフジ丸》(1964年/作画監督、原画)《ハッスルパンチ》(1965年/作画監督、原画)、《太陽の王子ホルスの大冒険》(1968年/原画)、《長靴をはいた猫》(1969年/原画)、《空飛ぶゆうれい船》(1969年/作画監督)、《どうぶつ宝島》(1971年/原画)、《アリババと40匹の盗賊》(1971年/原画)などに参加後、Aプロに移籍。高畑勲氏、宮崎駿氏、大塚康生氏らと共に《パンダコパンダ》(1972年/作画監督※大塚氏と共同、原画)、《パンダコパンダ 雨ふりサーカス》(1973年/作画監督※大塚氏と共同、原画)を制作。

日本アニメーションに移籍し、《アルプスの少女ハイジ》(1974年/作画監督、キャラクターデザイン)、《母をたずねて三千里》(1976年/作画監督、キャラクターデザイン)を手がけた後、フリーに。

《龍の子太郎》(1979年/キャラクターデザイン、作画監督)、《じゃりん子チエ》(1981年/作画監督※大塚氏と共同)、《名犬ジョリイ》(1981年/作画監督、原画)「子鹿物語」(1983年～1985年/作画監督、原画)、《サンゴ礁伝説 青い海のエルフィ》(1986年/キャラクターデザイン、原画)などに参加。

1985年、開発アドバイザーとして任天堂に入社。《スーパーマリオ》シリーズ、《ゼルダの伝説》シリーズ、《ポケットモンスター》シリーズで、アートワークやキャラクター監修、アニメーション監修などを歴任。

2015年度第19回文化庁メディア芸術祭で功労賞受賞。

2019年、日本アカデミー賞協会特別賞受賞。

同年、NHK連続テレビ小説《なつぞら》でアニメーション時代考証を担当。

一. 絵を描くはじまり

小田部氏自身の生い立ちから大学進学までの話を伺うと、同氏がなぜ絵を描くようになったのか、なぜ日本画の道に進んだのかがよくわかる。

小田部氏は1936年、台湾台北市に生まれ、幼少期を過ごしている。父親は本業ではないが洋画を嗜んでおり、個展も開いていた。戦後、日本に引き揚げた後、青山学院大学にウェスレー司祭^{註2}の肖像画を描いたこともある。そのため、自宅には日常的に絵があり、同氏を大いに刺激していたことは確かで、台湾での父親の絵の記憶も鮮明である。

「父は主に風景を描きました。台湾時代に描いた絵をいまだに覚えているけど、台北

の淡水^{註3}という港、異国的な感じ、家並みと教会、中国の船が見えて、印象的でした。」

本土に引き揚げて来た後、小田部氏の一家は貧しかったため、読みたい漫画があると、友達の家に行ってみせてもらい、見ながら繰り返し登場人物を真似て絵に描いたという。

また、小田部氏は子ども時代、父親に道具を借りて、弟と庭の花を油絵で描いたことがあった。

「木の板に綿布を張ったキャンバスをもらって、弟と一緒に庭の花を描いたんです。すると、弟のほうがお絵に見えた。僕は油絵具の練り方がわからなくて、水彩のように描いたら薄くて良くなかった。弟のほうがお筋が良かったんです。『自分は油絵には向いていないんだ、水彩で行こう』と決心して、以降は油絵具には触っていません。」

その決心は成長してからもずっと続き、迷うことが無かった。

また、高校に入ってから小田部氏はふと自分が描くものが主に模写であることに気づき、近所の絵描きをしている人に自分の絵を見せながら尋ねたことがあった。

『僕は絵を描く道に行きたいんだ』ということを書いて、『自分の好きな漫画や挿絵の真似ばかりしているんだけどだめでしょうか』というようなことを聞いたんですよ。そうしたら『真似でいいんだ。真似しているうちに自分のものが出てくるんだよ』って。その時、真似をしていた絵に自分で動きをつけたりしていた絵を見せたら、『そうして自分が出てくるんだ』と言われて、『ああ、このまま行ってもいいんだな』と思うようになりました。」

高校では美術部に所属。絵を描く事に積極的になっていく。

1. 日本画を学ぶ

小田部氏が日本画を専攻した理由は「漫画も日本画も線で捉えて表現するという点は似ている」「漫画の修行のために日本画を勉強する」などいくつかあるが、クラスメートの一人に東京藝術大学の受験を勧められたことが直接のきっかけである。

しかも、小田部氏が水彩をやっていたことを知っていて、「試験内容は水彩だから日本画科が良い」と具体的だった。

「クラスメートで日本画をやっていた友達がいたんです。芸大の日本画科の受験に誘ってくれたが、お母さんが日本画家。絵も色使いも大人びていてね。僕は屏風絵などは見ていたけど、当時は日本画のことをよく知らなかったんです。芸大の入試は鉛筆画と水彩で良かったから受けました。絵の勉強ができるならと思って。そうしたら誘ってくれた友人は落ちて僕だけが受かってしまった。友人は多摩美に進学しました。」

現役で合格したものの、小田部氏はまだこの時日本画について学習する前だった。入学後、本格的に日本画を始める事になるが、技法習得すら難しくする大きな壁が存在していた。

「芸大では何も教えてもらえませんでした。定員 20 人のうち、ほとんどが画家に絵を習っていて、学校でしか絵を描いたことがなかったのは僕ともう一人だけでした。膠の使い方すらわからず、紙を画版に貼っても翌日には剥がれてしまったりしましたし、絹張りも知らなかったんです。」

この当時の院展の画派には「教師無し、先輩有り^{註4}」という決まりがあり、主任教授の前田青邨からも、直接的に学んだ先生の須田 瑛^{註5}からも、掛けてもらった言葉は数える程しかなかったという。高価で扱いに慎重を要する箔の貼り方さえも同科の友人から教わったという徹底ぶりから、厳格な掟であったと言っている。狩野派は御用絵師として絵師たちの技術の水準を保つため、後進の指導に粉本^{註6}を用いていたが、次第に画一的で創造性に乏しい作品しか生み出せなくなり、衰退していったと言われている。しかしそれが決まりを作った要因だとすれば、過度に慎重だったと考えるほかない。

小田部氏はそうしてごく基礎的な技術から同科の学生たちに教えてもらいつつ、あるいは見様見真似で少しずつ日本画の描き方や技術を身に付けて行った。

最終学年で小田部氏は須田氏から「専攻科（大学院）に残っても良い」と言われた。大学院は当時、学部生 20 人中 3 名という定員であり、本人が希望してなれるようなものではない。つまり画家に成り得るといって高い評価を受けていることを意味したが、この頃、小田部氏はアニメーションへと気持ちが動いていた。

2. 日本画の線描の理論

大学での普通の教えがそうであるから、いかにして線描を描くかという論理についても同じだった。そもそも、画家は「このようにすれば描ける」といった虎の巻があって描いている訳ではない。だが、線と調子で対象を平面的に描く日本画には、特殊な概念がある筈である。描く対象は西洋絵画と変わらないのに、なぜ全く違うものが生まれるのか。立体や奥行を線で表現できるのは、線のはたらきと効果的な使い方があるからであり、それらについて理屈が全く存在しない筈はないが、見つけることはできなかった。

あるいは、小田部氏の他の学生は皆ほとんどが受験に向けて画家に絵を習っていたことから、一部の学生は線描を論理的に学んでいた可能性も考えられるが、理論があったとすれば、20 名の同期と先輩後輩と、四年の間に少なからず親交があった事を考慮すると、小田部氏も耳にすることはあったと思われる。

3. アニメーションへの憧憬

小田部氏がアニメーションを見始めたのはごく小さい頃である。台湾に住んでいる時に《ポパイ^{註7}》を博物館の地下映写室のような場所で見たとしたが、印象的だったのは《桃太郎の海鷲^{註8}》だった。これを見て、「戦意高揚のために作られた映画だけど、僕はそんな影響は受けなくて。動くキャラクターの柔らかさと、血の通って生きているものを感じた」という。また、《バンビ^{註9}》は公開が終了するのを待って、最終日に映画館にポスターを貰えないか頼みに行ったほどのファンだった。



図1. ディズニー《バンビ》^{註10}1942年

いつかはアニメーション制作に携わりたいという気持ちがこの時生まれていても不思議ではない。藝大 4 年時にほとんど就職先が無い中で、「東映動画」が募集をかけていたのを知った小田部氏は、「居ても立っても居られず」応募したという。

小田部氏は台湾から引き揚げ後、日本で最初に見たのが《くもとちゅうりっぷ^{注11}》、それからディズニーの《白雪姫^{注12}》、ソビエトの《せむしの仔馬^{注13}》、フランスの《やぶにらみの暴君^{注14}》なども映画館で見ていることから、子ども時代からアニメーションをかなり熱心に見る方だったと考えられる。

小田部氏自身は「アニメーションと言ったら絵を描いて動かすもんだと思っていたので、当然のように」アニメーターを志望し、同級生で背景美術志望の女性 2 人と受験している。この時の結果は小田部氏は不合格だったが、二次募集で入ることになった。1959 年のことである。

二. アニメーターとして

小田部氏の特徴、特に線画を独特なものにしているのは、東映動画に入社して日本画で鍛えた絵筆を鉛筆に持ち替えている事である。

アニメーターになってから、小田部氏にどのような刺激があり、成長があったのか。また、どんなアニメーターになろうとしていたのだろうか。

1. 東映動画

東映動画ではアニメーターは当時 35 人ほどいた。その一人となった小田部氏は、楠部大吉郎氏の班に入り、《少年猿飛佐助》(1959 年) や《西遊記》(1960 年) の動画を担当。《安寿と厨子王丸》(1961 年) では原画補の奥山玲子氏のセカンド(第二原画)になった。奥山氏はその後、小田部氏の生涯のパートナーとなる人であり、東映動画では“結婚して子どもを産んで働き続けた”女性スタッフの最初のケースとなった人である。

小田部氏は《わんぱく王子の大蛇退治》(1963 年) で森康二氏の原画補になり、アメノハヤコマのキャラクター設計を担当。同年冬、《わんわん忠臣蔵》で原画に昇格している。

東映動画は、教師に教わってはならないという厳しい制約があった大学時代とは打って変わって、誰にでも気兼ねなく教えてもらえる環境であった。仕事で初めて見るものでも、すぐそばにいる先輩に聞けば良く、まるで学校だったという。

小田部氏の絵はここでどのように影響を受け、変化したのだろうか。アニメーションの描画について、インタビューの中で同氏は次のように語っている。

「よくムーブメントっていうじゃないですか。絵でもただ単に止まって見える絵は死んでいて、動きを感じるムーブメントを出すのが画の本質だと言いますね。それを捉えられるかが一番アニメーションに必要なことだとは思いますが^{注15}。」

また、アニメーションの線描についてはこのように語る。

「実写のフィルムはボケたり、陰影がついて動きが見えている。でも、実写の動きをそのままアニメーションにすると実写ではスムーズに見えたものが硬くて、いい動きにならないんですよ。アニメは線ではっきりさせるから誇張とかデフォルメをしないと硬

いものになってしまう。だから、フィルムだと自然に見えたものをアニメーションに直す時には、どうしたら自然に見えるのかということを考えないと、その動きを表現できないなんてこともありますね^{注16}。」

幼少期から絵に親しみ、大学で線描を磨いてきた小田部氏でも、アニメーションの作画に適応するにはまた別種の描画と思考を身に付けなければならなかった。

(一) 《わんぱく王子の大蛇退治》(1963年3月公開)

この作品で、小田部氏は森康二氏の原画補になる。多くの人はこの時、森氏から薫陶を受けたのではないかと想像すると思われるが、小田部氏はこのように話す。

「それまで、森さんや大工原さんに直接教わった事はないんです。《わんぱく》で初めて森さんの下について、いきなりアメノハヤコマのデザインを任されました。どういうわけか森さんはぼくの絵を直してくれない。修正を入れてくれないことが逆につらかったですね。後年、よく森さんの絵柄に似ていると言われましたが、森さんの絵は完璧で、どこか固い芯が通っている感じがします。ぼくの絵は雰囲気描いてしまうので、もっといい加減です^{注17}。」



図2. 《わんぱく王子の大蛇退治》
のアメノハヤコマ^{注18}

絵の直しや指導をくれたりしたことは無かったそうだが、森氏が作画を直す時は、家に持ち帰ってでも徹底的に手を入れると言われていた厳しいアニメーターであり、このエピソードから森氏は小田部氏の作画の良さを認めていたものと思われる。

(二) テレビアニメーション時代の到来

1963年にテレビシリーズ《鉄腕アトム》(～1966年)の放送が開始されると、それまでの動画枚数に糸目をつけず、クオリティの高い作品を目指すフルアニメーションの制作から、動画枚数もフィルムの尺数も予算も削減するという、悪い意味でのリミテッドアニメーションの時代へと移ってゆく。

「《狼少年ケン》(1963～1965年)の頃から“テレビアニメはなんて楽なんだ”っていう思いしかなかったんですよ。一中略一手伝いをしている間も“どうしたら面白くできるか”“どうしたら省略できるか”というアニメーションの実験をしているような気持ちでした。多分、宮崎駿なんかもそうだと思います。そのなかで、どう動かすかというようなアニメーションの技法を考えたりもできたんです^{注19}。」

(三) 《太陽の王子ホルスの大冒険》(1968年7月公開)

1965年、高畑勲氏初演出の長編《ホルス》の制作が始まる。高畑氏は労働組合を中心にしてスタッフ全体での映画作りを目指し、準備段階からセクションの区別なく物語や

舞台背景のアイデアやキャラクター案を募った。

小田部氏はリスのチロ（図 18）、白フクロウのトト、ポトムのデザインが採用された。原画は序盤のホルスが船で旅立つ時の海、結婚式の群衆シーンなどを担当した。

《ホルス》は当初8か月で完成することが予定されていたが、スケジュールの大幅な遅れで会社は1966年10月に制作を中断。作画監督の大塚康生氏をはじめとするスタッフは署名活動や会社との交渉を行い、翌年1月に再開される。世間はテレビアニメーションの波が押し寄せてきており、もうフルアニメーションは作れなくなるかも知れないという考えから、スタッフは皆クオリティを落とさず、完成させることを望んでいた^{注20}。



図 3. 《太陽の王子ホルスの大冒険》^{注21}

小田部氏は、自身が作画を担当したシーンの印象を次のように述懐している。

「《ホルス》は登場人物がちゃんと自分の意思をもって動いている、会話している、演技をしているんですよ。だからその心理的なものまで描かなきゃならなかった^{注22}。」

《ホルス》制作の難しさについてはこう語る。

「あと僕が大変だったのは自然現象。お父さんが亡くなって、船ごと火葬して海に乗り出して別の村に行くっていうシーンがあるんですけど、今みたいに波の動きの資料もなければビデオなんていうものもない。だから実際に海を見に行くしかなかった^{注23}。」

この頃、影響を受けたアニメーターの先輩が大塚康生氏である。

「本当にアニメーターの申し子とも言える人で、描き方も教えてくれるんですよ。それも教え方のコツが上手で、描ける気にしてくれるんです。一中略—大塚さんの描く絵は、本当にチャーミングで質感の出し方が素敵でね。絵がうまいだけでなく、絵そのものに魅力があるんです^{注24}。」

《ホルス》で個人的にもスキルを積み、全員で取り組んで作品を作り上げたことは大きな自信に繋がり、小田部氏は以降の作品でさらに大きな役割を担っていく。

(四) 《長靴をはいた猫》(1969年3月公開)

東映動画を代表する人気作品であり、森康二氏のキャラクターデザインで長く会社のマスコットとしても活躍してきた“ペロ”が誕生したこの作品で、小田部氏は王様の城に招かれたピエールとローザ姫がデートするシーン、水鏡や噴水のシーン、ネズミたちの合唱シーン、ペロと殺し屋3匹の乱闘など、難しいシーンの数々を担当した^{注25}。

(五) 《空飛ぶゆうれい船》(1969年7月公開)

小田部氏は初めて劇場作品の作画監督を務める。総尺約60分で、低予算、3コマ作画が基準の“B作”と呼ばれる作品であり、4か月間という短期制作だった。

「演出の池田（宏）さんは、手間のかかるフルサイズを避けて、アップ中心の設計で進めて行きました。意図的に過程を見せない演出で“結果芝居”と言っていました。落ちかける自動車を見せて、次のカットは真下。落ちる過程は面倒なので省くという具合ですね。今のテレビシリーズはこれが主流ですが、当時は違和感がありました^{注26}。」

テレビアニメーションの波は東映動画も呑み込もうとしており、長編の制作もコストを削減されていく中で、小田部氏は《ホルス》以前の、動画枚数を気にせず存分に絵を動かしていた時の事を思っただけで危機感を募らせていく。

（六）《どうぶつ宝島》（1971年3月公開）

この作品はそうした同じ考えを持ったスタッフたちによって、もう一度長靴をはいた猫のような手間暇をかけた長編をやろうと企画された作品だった^{注27}。小田部氏は再び船出のシーンを担当し、新たな海の表現を作り出した。

この頃、Aプロの楠部大吉郎氏から「《長くつ下のピッピ》を作るので来ないか」と誘いを受けて、小田部氏は高畑勲氏、宮崎駿氏と共に1971年9月に東映動画を退社。新たな挑戦が始まる。



図4. 《どうぶつ宝島》^{注28}

2. テレビアニメーションの世界に

小田部氏がAプロダクションへの移籍に前向きになったのには強い動機があった。一足先にAプロに移籍した大塚康生氏が《ムーミン》を制作していたのである。

「東映動画からAプロに行く、私たちのきっかけが《ムーミン》なんです。高畑勲と私が少なくともそうなんです。アニメーションがどんどんコストダウンして、自主制作などの作品ができにくくなっていた時代に《ムーミン》を見たんですよ。タイトルに波打ち際があったと思うんですが、その波を見ただけで、凄い、こんな事がテレビでできるんだ、こんな事ができる場所に行きたい。東映動画じゃできない。そう思うほどショックだったんです^{注29}。」

（一）《長くつ下のピッピ》と《パンダコパンダ》（1972年12月公開）

Aプロで小田部氏は《長くつ下のピッピ》のメインスタッフに就任した。著作権交渉は東京ムービーの藤岡豊社長と宮崎氏とで行ったが、原作者から断られて実現しなかった。

「パクさん（高畑勲氏）がシナリオを構成し、宮さん（宮崎駿氏）が美術設定とイメージボードを描き、ぼくがキャラクターを作り、期待は大きく膨らんでいました。当時ドイツで実写版が作られていたので、それに負けない自分たちの《ピッピ》を作るぞ！と意気込んでいたものです^{注30}。」

小田部氏らは失意を隠し切れなかったが、そこへ当時ブームになっていたパンダの中

編映画企画が持ち込まれ、高畑勲氏と宮崎駿氏で絵コンテを一気に書き上げたのが《パンダコパンダ》である。

「すぐに宮さんがシナリオを作る、パクさんが監督を。キャラクターは僕と大塚（康生）さんが分担して、パンダは大塚さんで、僕はミミ子。ミミ子は《ピッピ》の三つ編みの女の子がヒントになっていたり、『パンダコパンダ』は《ピッピ》の世界観をベースに猛スピードで作りに上げていったんです^{註31}。」

作品は「東宝チャンピオンまつり」でゴジラなどの特撮怪獣映画と併映されたが、反響は大きかった。映画館に観に行った際、子どもたちが初めて見た映画のエンディングで主題歌を一緒に歌い出すのを見て、小田部氏は感激したという。

(二) 《アルプスの少女ハイジ》(1974年1月6日～12月29日放送)

《アルプスの少女ハイジ》が初めて放送された時分は、漫画原作に《巨人の星》や《エースをねらえ!》などスポ根アニメの全盛期であり、劇画タッチで描かれる作品がほとんどだったため、視聴者にとって《ハイジ》の絵作りはむしろ異質なものとして捉えられていたにちががなく、アニメで日常を描いたこともかなり変わった趣向に見えていたものと思われる。

《ホルス》以来の、高畑氏が演出、宮崎氏が世界観を作り、小田部氏がキャラクターを作るという役割で、《ハイジ》でも小田部氏はキャラクターの設計と作画監督を担当することになった。

外国の、しかも当時日本人にはあまり馴染みのない風土と文化をバックグラウンドにした《ハイジ》の制作に先立ち、日本初の本格的なロケーションハンティングが行われた。小田部氏は高畑勲氏、宮崎駿氏らと共にスイスに2週間滞在。マイエンフェルトやデルフリ村、フランクフルトなどを訪れ、小田部氏は登場人物を想定しつつ、スケッチを重ねた。その収穫は人物や舞台、モチーフの設定に大いに活かされることになった。

制作が始まると、本放送までにストックされていた数話の完成品は無くなっていき、スケジュールはすぐに逼迫した。作画監督として小田部氏が全カットに手を入れるにはかなりの時間を割かなければならず、1年全52話の放送期間は長く過酷なものとなった。

小田部氏は“作画監督”と“キャラクターデザイン”としてクレジットされた。自身は本放送を見た時に初めて知ったため驚いたそうだが、演出の高畑氏にとって、小田部氏が全編に亘って人物を作り上げたことは無くてはならないものだったと思われる。

(三) 《母をたずねて三千里》(1976年1月4日～12月26日放送)

《ハイジ》と同じく海外でロケーションハンティングを行うことになり、イタリアとアルゼンチンへ向かうことになったが、小田部氏は過労で腰を痛め、同行できなかった。

小田部氏は高畑氏が持っていた外国の俳優年鑑などの資料や画集を参考にキャラクターを作った。原作はデ・アミーチス作《クオレ》に出てくるごく短いエピソードであり、ほとんどが高畑氏の構成で生み出された新しいキャラクターだった。

「最初にまとめたのはマルコと、その家族の猿のアメデオ。ペッピーノー一座に、最初の



図 5. 《母をたずねて三千里》^{注 32}

ジェノヴァでお世話になる人などですね。そこから脚本が出来上がった段階で増えていくから、その都度考えながらどんどん描いていって^{注 33}。」

主要人物だけで110人を数え、小田部氏は始終キャラクター作りをしながら作画監督、原画も担当。《ハイジ》の頃のようにまた時間に追われる日々になった。

共働きで子どももいて、1年52話のテレビシリーズのメインスタ

ッフを務めるには、夫婦が協力し合うことが不可欠だった。奥山玲子氏は、小田部氏の要望で22話から作画監督補として入っているが、その頃のこをこう語る。

「私はこれをきっかけに運転免許を取りました。家政婦さんが帰ってから息子が一人で寝ているので、次の朝までにはどちらかが帰って、学校に送り出してやらなければならない。日本アニメーションの多摩市から自宅の所沢まで、徹夜明けで帰るのに運転者が一人だと危ないということで、免許を取って、私が運転している間に小田部が横で寝ているという状態でした^{注 34}。」

東映動画でアニメーション制作を始めた人と、東映動画以外の人、特にテレビシリーズでアニメーション制作を身に付けた人とは、作画の概念が大きく違っている。前者はフルアニメーションであるのに対し、後者は3コマ作画を基本にしたアニメーションである。《アルプスの少女ハイジ》《母をたずねて三千里》両作で原画を多数手がけたアニメーターに、才田俊次氏がいる。

オープロダクションで50年にも亘り第一線でアニメーターを続けている才田俊次氏にとっては、小田部氏は“東映長編の人”だったという。小田部氏が作画監督を務めた作品では、上がってきた原画を修正するだけでなく、絵と絵の中間の動作、ポーズを示す“間の絵を入れる”ことが多かった。テレビシリーズで慣らしてきたアニメーターにとっては贅沢なことであり、その分自分の仕事が増えることも意味した。

しかし作画について小田部氏から才田氏に話をしたことは特に無かったそうである。外注先のオープロダクション所属で小田部氏と接点が少なかったことも関係しているが、作画打合せでも具体的な指示や要望があった訳ではなかった。

自分のポジションの仕事に専念していたという見方もできるが、テレビシリーズの現場はあまりにも時間が無く、効率良く作業できていれば対話が無くても問題とされなかったのだろう。外部スタッフだった才田氏だが、途切れることなく仕事を依頼された。

三. “アトリエ羚”

《三千里》を終えた後、小田部氏はフリーになり、奥山氏と共に“アトリエ羚”を立

ち上げて、二人で共通のペンネーム「あんでいろ一ふ」で活動を始める。自宅作業になって家事子育てとの両立もできる反面、制作に主体的に関われず、一部の参加に留まることが多くなった。

「作品のメインスタッフとして、作品作りから関わるというのを奥山も僕もやってきたから、そういった作り出す現場に参加していないっていうのが、つまらなくて、つまさがありましたね^{注35}。」

1. 《龍の子太郎》(1979年3月公開)

東映動画で童話《龍の子太郎》^{注36}を長編映画化することになり、奥山氏と共に作画監督・キャラクターデザインとして仕事を受けたのは1978年のことである。久々のメインスタッフとしての参加に、創作意欲も湧き上がった。折悪しく、宮崎氏から《未来少年コナン》作画の、高畑氏から《赤毛のアン》作画の要請があったが断っている。

《龍の子太郎》は《ホルス》が制作に入る前、次の長編の作画監督をやってほしいと会社から依頼された大塚康生氏が、最初に提案した作品でもある^{注37}。

小田部氏は監督に高畑氏を勧めたが受け入れられず、実写畑から《キューポラのある街》の監督で知られた浦山桐郎氏が就任。どのようにドラマを描くか、人間を描くかについて、監督とスタッフは意見がぶつかり合いながら、これまでに無い作品が生まれるのではと予感させつつ、短期間で膨大な作業を遂行し完成させた。

この作品で小田部氏は日本的に描くことを主眼に制作することを決め、監督の意に染まないことを承知で、写実ではなく様式をもって進めた。美術監督の土田勇氏は、小田部氏と同じ日本画科出身であり、背景を水墨画的に重厚に描いた。

小田部氏は民話を原作に日本的なアニメーションを作る事について考えを巡らせた。

「《龍の子太郎》では、絵本とか、古典の絵画、彫刻、それこそ鳥獣人物戯画や絵巻物、そんなものからヒントを得ています。一中略一森（康二）さんのキャラクターは擬人化していてももちろんかわいらしいけど、今回はそこからはずれた形をやろうと。動物に限らず、民話の《龍の子太郎》をやるにはもっと日本の文化から取り入れていきたいと。劇中に登場する赤鬼は仏像の下に組み敷かれている邪鬼とか。邪鬼ってどこか漫画っぽくてあまり怖くないイメージでしょ？そういうのをヒントにしたり^{注38}。」

小田部氏の作画は、土田氏の美術と調和して美しい日本の物語の世界を作り上げた。

2. 《じゃりん子チエ》(1981年4月公開)

漫画原作のアニメーション化は数多くあるとは言え、ほぼ正面と横から見た頭部しか描かれていないこの作品のイメージの通りに作るのは困難にちがいがなかった。

本編を見るとその指摘の通り、人物のポーズはアニメーター各人の自己流にならないよう細心の注意を払い、原作そのままに動いて見えるアニメーションになっている。

「ぼくもパクさんも大塚（康生）さんも、はるき悦巳さんの原作をとことん尊重することで一致していました。骨太で、しかも表情豊かな原作の味を何とか生かそうとしました。テツは大塚さんが専門で、チエちゃんやネコの小鉄たちをぼくが描くことが多か

ったですね。アニメーターは役にのめり込むことで、違った傾向の絵を描く楽しさも倍増するんです^{注39}。」

小田部氏はオリジナルのキャラクター造形が評価される一方で、高畑氏演出の下、自己流を封じて原作の素晴らしさを最大限に活かすアニメーション作りに取り組み、小田部氏の仕事にそれまでにない新たな魅力を作り出すことになった。

四. 任天堂へ

その後、アニメーションの潮流はますます“リミテッド”になり、動かしたくても動かせないフラストレーションと自宅作業のつまらなさで行き詰まっていた時、小田部氏は東映動画で同期だった池田宏氏から任天堂への誘いを受けた。

小田部氏は《スーパーマリオブラザーズ》のゲーム画面を見て、キャラクターが予備動作を取って走り出したり、跳躍や着地をしたり、キャラクターの移動に合わせて背景がスクロールしたりするのを「アニメーションが本来やるべきことをゲームがやっていた」と驚き、「これだったら自分にも何かできるんじゃないか」と考え、入社を決意する。

以後、開発アドバイザーとして《スーパーマリオ》シリーズ（公式イラスト、キャラクター、アニメーション映像監修など）、《ゼルダの伝説》シリーズ（公式イラスト、アートワーク、プロモーションビデオ監修など）《ポケットモンスター》シリーズ（キャラクター監修、アニメーション監修など）を手掛け、アニメーションで培った“動かす楽しさ”をゲームにもたらしていった。

第二章. 日本絵画の中の線描

小田部氏の絵を形作った日本画と線描はどのようなものなのか。ここで、その歴史と変化について、小田部氏の師・前田青邨への影響とともに触れておきたい。

平安時代の絵巻物から近代の日本画まで、日本の絵画の歴史は線描の歴史そのものである。日本人と線描は余程馬が合ったのか、描く者も見る者も線描を好み、絵巻物が誕生してから約 900 年もの長期に亘って進化させてきた。

一. 絵巻物（平安時代～鎌倉時代）

絵巻物は最古のものでは奈良時代にすでに制作されており、装置として出来つつあった。それが平安時代後期（12 世紀）に四大絵巻（《源氏物語絵巻》、《信貴山縁起絵巻》、《伴大納言絵詞》、《鳥獣人物戯画》）をはじめとする傑作を生み出し、装置・絵画とも完成したことで、現代の漫画家も含めた後の世の絵描き全体に決定的な影響を残した。

絵巻とは横長の紙・絹を支持体として、軸を中心にして巻き収める書物であり、絵画が連続して描かれている日本固有の絵画形式だが、簡潔な線画だからこそ出来た手法である。美術が発展し、文字と共に日本文化の一部を構成するようになったのも、線画を描き続けた事と大いに関係していると考えられる。

以前の調査研究「日本のアニメーションと大塚康生氏が作ったもの」でも絵巻物に触れ、絵画としての完成度の高さと共に、高畑勲氏曰く「時間的視覚芸術」であり、“見進む”装置として作られている^{註 40} 事もご紹介したので、ここでは多くを取り上げないが、すでにかかなりの水準にあった《鳥獣人物戯画》の線描を例に挙げる。

1. 《鳥獣人物戯画》

漫画の始祖とも言われる^{かくゆう}覚猷^{註 41}の作とされているが詳しい事はわかっていない。

構成は甲・乙・丙・丁と呼ばれる全 4 巻からなり、図 6 は甲巻いわゆる《鳥獣戯画》は、墨のみで描かれている白描^{註 42}である。擬人化された兎と蛙、猿が人間の遊びや祭りの真似をしているが、その所作は抜群のセンスで描かれている。兎の後ろ足の骨格や蛙の手足の先など、生き物をつぶさに観察した上で、簡潔で漫画的な絵への置き換えが行われているのがわかり、腕利きの絵師による丁寧な仕事であったことは確かである。

漫画や絵本の原画を見たことのある人はお分かりだと思うが、原版は大抵、修正液無しにはまず完成しないものであり、しかも鉛筆も消しゴムも無い時代のことである。

相撲の場面は鳥獣戯画の特に代表的な絵だが、蛙が兎の耳を口に咥えつつ、右足で大外刈りを仕掛けている絵に至っては、下描きらしい線もなく、墨の一発描きにもかかわらず見事に描かれている。習作を繰り返してから本紙に描いたとしても優れた画力を持っていたと考えるべきである。

兎の後ろ足は膝の関節が曲がったままになっており、踵は浮いて後ろに大きくせり出している。蛙は腹と胸が分かれておらず、臀部もない。解剖学的に矛盾がない。

しかもこれは長大な絵巻の一枚絵であり、個々の絵にいちいち時間をかけてはこのような心地よいリズムで描けない。素朴な線でまるで呼吸をするように自然に描かれ

て見えるが、そこには絵師の徹底した生き物の観察と途轍もない研鑽が隠されているように思える。遊び心たっぷりに楽しんで描かれているようでいて、その実、完成されたスタイルであり、生き物の観察に基づく繊細な描写が施され、それぞれに普遍的な魅力がある。



図6. 《鳥獣戯画甲巻》平安末期～鎌倉時代 高山寺所蔵^{注43}

二. 土佐派・狩野派・琳派

鎌倉時代から室町、安土桃山時代に至る戦乱期に、時の権力者に仕えて城や仏閣に豪華な障壁画を描いた絵師たちがいた。彼らは工房を持ち、画工を多く抱えて一度に大量の屏風絵をこなし、他派と御用絵師の座を巡って政治的な戦いも演じた。

また、桃山時代から江戸時代には、自由な粹人の美術が数十年もの間を置いて遺風を受け継ぐ流派も存在した。

1. 土佐派

14世紀南北朝時代の藤原行光を祖とし、室町時代のおよそ200年の長きにわたって朝廷の絵所^{注44}を世襲し、伝統と権勢を誇った一大画派である。室町時代末期に狩野派の台頭によって地位を失うが、江戸時代に入って土佐光起が絵所領に復帰。以後幕末まで御用絵師の座を保った。

この時代の線描の特徴はそれまでのパターンを逸脱した人物描写である。図7は藤原隆信^{注45}による《伝源頼朝像》^{注46}である。平安時代に主流だった定型的な引目鉤鼻の“やまと絵”とは違う、繊細な線で個性を表現する目的で描かれており、時代の移り変わりをはっきりと感じさせる絵の一つである。これは似絵^{にせえ}^{注47}と呼ばれ、細い淡墨線を何本も重ねることで対象となる人物の特徴を捉える画法である。同作では人物の顔立ちに似せつつ、情報を整理して、可能な限り1本の線に集約している。耳の周辺に僅かな調子が着けられている他は陰影も無く、黒地の装束と烏帽子、背景の濃い茶色に白い顔が良く映えて、否が応でもまず頭部に視線が向かうようにできており、特に目元に注目が集まる絵作りになっている。



図7. 藤原隆信《伝源頼朝像》(一部拡大) 鎌倉時代^{注48}、神護寺

2. 狩野派

室町幕府の御用絵師として始まり、多数の画工を育てて、交代する将軍家を渡り歩きながら代々で作画活動を独占的に引き受け、400年もの期間に亘り画壇の中心にあった日本美術史上類を見ない最大画派である。

(一) 狩野永徳

中でも狩野永納によって作られた画人伝『本朝画史』で「祖先の絵を超えた」と記された天才絵師狩野永徳^{注49}は、金箔金泥をふんだんに用いて金碧画を描き、持って生まれた政治感覚で織田信長、豊臣秀吉に仕え、朝廷とも関係を築いて大成、安土桃山期の文化を代表する障壁画の数々を手がけた。

図8は永徳が29歳で描いたとされている《洛中洛外図》、いわゆる《上杉本》の一部である。160.5×323.5cmの大作で緻密に描かれた細画で、絵全体で2485人も的人物が描き込まれているが、市井の人々も多く描かれている。一人一人の暮らしを素朴な線で実に生き生きと描いており、飽きが来ない。その描写は絵巻物に通じる魅力がある。

しかし時の幕府、即ち戦国の武将たちに気に入られたのは、それまでにない描線の勢いだった。

図9の狩野永徳の代表作《唐獅子図屏風》について、日本美術史学者の安村敏信氏は「陣屋屏風にしろ大広間の障壁画にしろ、見る者を威圧するのに十分な迫力がある。その源は唐獅子の軀や岩と輪郭づける暴れ廻るような極太の線であろう。実物に接すれば、

岩の峻に施された荒々しい線は乱暴と言って良いほどに雑である。力でねじ伏せるような線とってよい。これだけ粗雑で力強い線はかつてなかった^{注51}」と評している。



図9. 狩野永徳《唐獅子図屏風》六曲一隻^{注52} 宮内庁 三の丸尚蔵館

(二) 長谷川等伯

永徳について記述する際、避けて通れないのが長谷川等伯の存在である。等伯は狩野派に属さず、一代で町絵師から法眼^{注53}にまで上り詰めた。当時の画壇を支配していた



図8. 狩野永徳《洛中洛外図屏風》^{注50}
(一部拡大) 1574年 米沢市上杉博物館

永徳率いる全盛の狩野派に一人で対抗し、卓抜のセンスと進取の気性で優れた絵画を描いた。

絵仏師として画業を開始し、^{もっけい}牧谿の画跡に倣ったため漢画の影響も大きく、水墨画や金碧画も描きこなすなど幅広く絵修行を経て、《法華経本尊曼荼羅図》、《松に秋草図屏風》、《柳橋水車図屏風》、《千利休像》など、多彩で傑作の数々を遺した。特定の作域に縛られず、画風は至って自由であり、独特に詩的である。



図 10. 長谷川等伯《松林図屏風》六曲一双（左隻）^{注54} 東京国立博物館

図 10 は等伯の傑作右奥には遠く山の稜線が見え、靄でうっすらと見え隠れしながら手前の松までの広大な空間を表現している。しかし細部は描き込むのとは真逆で、奥の松林は手数を極限まで控えており、淡墨の筆跡が幾らかあるばかりである。水墨画の線と余白の表現を独創的に用いた傑作であり、その巧みさは筆跡が無いところにも描かれているかのような錯覚を起こすほどで、等伯の達人ぶりを示す怪作である。

3. 琳派

桃山時代後期から江戸、近現代まで活躍した、土佐派や狩野派とは全く違う特徴を持つ、書画を含む美術家・工芸家の一大流派である。

琳派が繰り広げられた3つの時代、江戸初期、中期、後期の間には画塾が無く、師弟や血縁による相伝も無く、私淑によって後世の絵師が傾倒し、勝手に模範として学ぶことで継続された。祖とされる俵屋宗達と尾形光琳、また光琳と酒井抱一は、それぞれ会ったことがなく、場所も身分も違う^{注55}。

先達のスタイルの丸写しではなく、それぞれの視座とセンスで学ぶべき部分を選び取り、独自の新しい画風を作り上げ発展している。このような画派は他にない。

金銀箔を背景に用いた大作や、装飾的にデフォルメされた花鳥画が多く、また型紙によるミニマルなパターンの造形を用いるなど、自由な^{すきしや}数寄者^{注56}たちの流派であり、パリ万博で浮世絵とともに欧州に渡った際、印象派やモダニズム、アールヌーボー、アール・デコ、ウイーン分離派に至るまで深い影響を及ぼした。

そして琳派は前田青邨にとっての師であり、学びの場であり、新たな発想の源だった。特に宗達は青邨が尊敬してやまなかった絵師である。

(一) 俵屋宗達 (生年不詳～1643年)

本阿弥光悦と共に琳派の祖とされる^{注57}。《風神雷神図》と言えば真っ先に思い浮かぶのが図11の宗達の作だろう。尾形光琳が私淑してこれを模写したことにより、光琳を師と仰いだ抱一も光琳の絵を模写したため、ほぼ同じ図版の絵が3つ生まれることになった。

宗達の線描には勢いがあり、伸びやかで、絵柄も屈託の無い意匠である。

前田青邨は好んで宗達の大膽な構図や意匠、技法をふんだんに取り込んだ。金箔の背景に、線描を基調にして対象を簡潔に描き、先に塗布した絵具が乾かないうちに別の濃い色の絵具を差してにじませる「たらしこみ」を使って豊かな色面にするなどは、いかにも宗達の好んだ画風とわかる。画学生時代、小田部氏も好んで参考にした絵師である。



図11. 俵屋宗達《風神雷神》二曲一双 17世紀 建仁寺 国宝^{注58}

(二) 尾形光琳 (1658年～1716年)

宗達に私淑し、さらなるデザインの追求を行った。相続した莫大な資産を一代で食い潰すような放埒な遊興人ながら、絵画のセンスと技術は抜群だった。代表作《燕子花図》では、花を群青と緑青の単純化された絵柄で律動的に描いた。

前田青邨が描いた梅の木の前には、ダイナミックに伸び屈曲する枝ぶりであることが多く、また“たらしこみ”を使っていることから、図12の光琳の《紅白梅図屏風》との類似点を見出すことができる。



図12. 尾形光琳《紅白梅図屏風》二曲一双 18世紀 MOA美術館 国宝^{注59}

(三) 酒井抱一 (1761年～1829年)

光琳に私淑し、生まれ育った江戸の文化と、俳人らしい詩情を絵画に加え、「江戸琳派」を作り上げた。図 13 の《夏秋草図屏風》のように、きめ細やかな描き方で多くの花鳥画を遺している。描線には切れがあり、洒脱でスタイリッシュな抱一の絵画に、「光琳の再来」という賛辞が相次いだという。

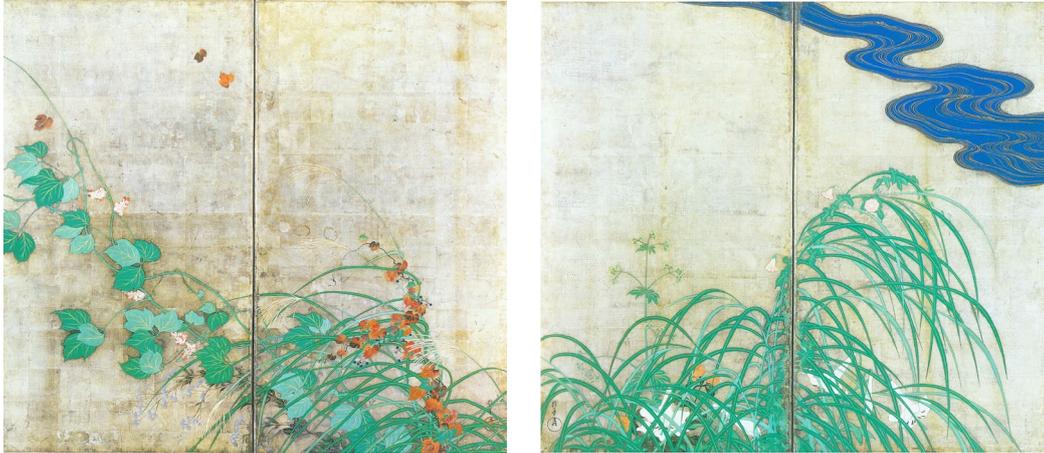


図 13. 酒井抱一《夏秋草図屏風》二曲一双 1821年頃 東京国立博物館 重文^{注60}

三. 浮世絵

過去の作画研究でも触れたが、江戸時代以前は絵画と言えば狩野派や土佐派が大名の城や寺に描くものであり、支配階級だけが所有し鑑賞するものだった。それが江戸時代に入ると版画形式が産業として成立したことにより、地本が生まれて絵画をごく一般的なものにすると同時に、浮世絵もまた大量生産と低価格化が可能になったため、急速に市民の間で普及した。

1. 歌川広重

歌川広重の晩年の作《名所江戸百景》^{注61}は、大胆な構図と遠景と近景の組み合わせでも知られる代表作である。図 14 はその一つ「深川万年橋」で、手前におかもちに括りつけられた亀、橋の欄干があり、その奥に小名木川、富士が描かれて、同作の中でも一際極端な遠景近景の構図である。

絵では最も遠い富士に視点を合わせると、おかもちと亀がぶつかりそうなほどに近く感じるが、それは線による効果が大い。三辺をくっきりと縁取っているおかもちは、思い切った線の太さ、濃さで描かれており、最も近くにあることがわかる。これに対してその向こうにある運河と渡し船、遠くの富士山が繊細な線で描かれる。さらに亀や欄干との色調の強い対比によって増幅され、平面絵画ながら奥行を十二分に表現している。

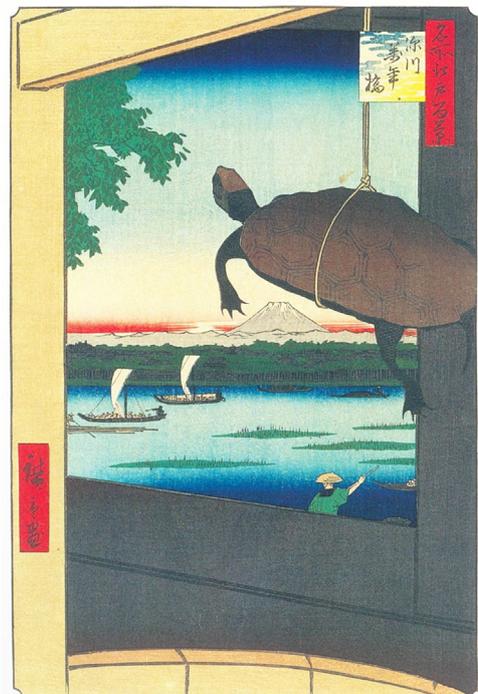


図 14. 歌川広重《名所江戸百景》より第五十一景《深川万年橋》^{注62}
1857年 シカゴ美術館

普段絵を見ない人にも、噛んで含めるようなわかりやすい空間表現である。

2. 歌川国貞

浮世絵の華とされもてはやされた役者絵や美人画にも、線を巧みに使い、念入りに描かれたものが多い。

図 15 は歌川国貞の作の一部を拡大したもののだが、線の種類の豊富さで言えば驚くべきものがある。

豪快に太く強く描かれた衣紋線^{えもんせん}^{注63}、櫛や髪飾りの硬質な線、顔や耳鼻の細い曲線、髪の毛の生え際はさらに細い線で描かれ、線の使い分けで様々な感触を表現しようとした跡が窺える。

大判錦絵とは言え、全体でも縦 36.8cm × 横 28.3cm しかなく、生え際の線は針の先のような驚異的な細さである。浮世絵は凸版版画であり、彫師は線の部分のみ残してそれ以外の部分を彫るため、凄まじい超絶技巧によって表現されていると考えていい。



図 15. 歌川国貞
《当世三十式相 よくうれ相》^{注64}
(部分拡大) 1821~1822年頃 ポストン美術館

四. 近代の日本画

そもそも“日本画”という呼び名が使われるようになったのは、明治時代に入って西洋絵画が怒涛のごとく流入してきて、西洋絵画に転向または志す者が増え、日本の画壇における日本画が低調になったため、日本古来の伝統的な技法と様式を守り、後進を育てようと啓蒙を図るために生み出された、言わば概念である。

これは 1876 年、工部美術学校の創立に端を発する。明治政府がイタリアからアントニオ・フォンタネージを招いて画学生に西洋画法を学ばせたのである。フォンタネージは優れた画家を育てたため、洋画の勢いに日本画は押され気味になった。そこで日本画を零落から救ったのは、“日本画”の名付け親であり、洋画と比較して日本古来の絵画の優秀性を説いたフェノロサ^{注65}と、日本画を“対抗勢力”洋画に地位を奪われない図画にすべく、岡倉天心^{注66}が狩野芳崖、橋本雅邦らとともに立ち上げた東京美術学校^{注67}だった。

フェノロサの通訳兼助手だった岡倉は、東京美術学校設立のためフェノロサと共にアメリカを視察したが、その際当地で日本美術に触発されたアールヌーヴォー運動の高まりを見て、日本画推進の意をさらに強くする。東京美術学校では横山大観、下村観山、菱田春草などその後の日本画を牽引する優れた画家を次々に輩出。東京美術学校を辞した後、連帯辞職した大観らとともに日本美術院を発足させた。院展のはじまりである。

“日本画”と“洋画”とを分けた特徴は、何といたっても西洋絵画が緻密で立体的、写

実的表現であったことだろう。事実、西洋絵画は衝撃と共に受け入れられ、西洋絵画に鞍替えをした若い画家たちは少なくなかった。

しかし、フェノロサの出現で日本画を見つめ直し、魅力について検証する動きが起こった。“洋画”の側から見た視点が、“日本画”の特徴を明快に示したのである。それは次のようなものだった。

- (1) 写真のように実物に似せない。
- (2) 陰影が無い。有っても苦心して度合いを計って塗る。
- (3) 鉤勒（輪郭線）がある。油彩画には色彩の輪郭があるのみ。
- (4) 色彩が淡白だが、秩序があり調和している。
- (5) 描写が簡潔である^{注68}。

まさに“日本画”の輪郭がはっきりと浮かび上がった瞬間であり、定義と言い換えてもいい。横山大観、下村観山など、フェノロサと岡倉を敬愛して集った画家たちはこれに沿って傑作の数々を発表した。再び興隆を取り戻した日本画壇は、優れた画才を次々に誕生させてゆく。

その一人が前田青邨である。

第三章. 前田青邨

一. 線描の達人

前田青邨は、梶田半古の画塾に内弟子として住み込み、僅か 17 歳で雅号を得て、92 歳で亡くなるまで描き続け^{注 69}、歴史画、肖像画、花鳥画などで名を成した。小林古径・安田靉彦らと共に院展三羽鳥と呼ばれ、優れた描画技術と魅力ある画風で一時代を築く。

線の時代とも言うべき線描を重視したスタイルで、主流と呼ぶに相応しい傑作を多数生み出した大家である。特に人物を描き出す線の、簡潔で抑揚のある表現は人気があり、今もってなお多くのファンを楽しませている。

師匠の半古は、弟子にほとんど干渉しない人であったため、青邨は古画を研究し、写生を繰り返す事で画力を高めて、自身の線描を多彩で洗練されたものにした。

小田部氏は前田青邨の絵を敬意を持って観察し、大いに学んだという。その線描とはどのようなものだったのだろう。

1. バリエティに富んだ線描

前田青邨の絵には、幾つかの際立った特徴がある。前田青邨と聞くと、精緻な歴史画のくっきりとした描画線を思い浮かべる人も多いと思われるが、実に多様な線を使いこなした画家である。

(一) 図 16 の《京名所八題》では、ほとんど同じ色の墨線を、濃淡とタッチの違いで様々に使い分け、そのどれもが各々のモチーフを巧みに表現している。墨線は巨大な木々が並ぶ夜の森を描き、別の風景画では人が踏み固めた雪の道を示している。青邨は調子と筆運びで作られたバリエーションにより、様々な材質を描き分けた。中でもこれらは豊富な線質が最大限に発揮された作品群である。

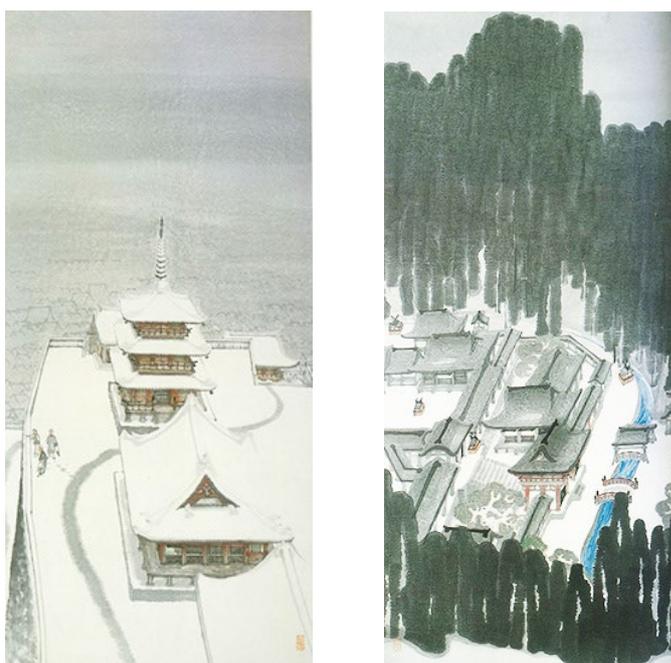


図 16. 《京名所八題》より左《清水寺》、
右《上賀茂神社》^{注 71} 1916 年 東京国立博物館

一見してドローン撮影など無い時代に一体どこから見て描いたものなのかと不思議になる作品である。

梶田半古の指導方針は、先人の古画を研究することと合わせて、写生を非常に重視していた^{注 70}。

そのため、青邨自身も写生に熱心で、写生によって対象を隅々まで理解し、構図を大胆に変えても紙面で再構成ができたのではないかと考えられる。

また、作品から青邨が自由な発想で伸び伸びと描く画家であった事がわかる。

2. 幅広いモチーフ

前田氏が描いたものは歴史画だけでなく、女性画、風景画、動植物、想像上の生き物まで多岐に亘った。《猫》、《ペンギン》などを見ると、青邨が選ぶ画題にはこだわりが無く、自由奔放であったことがわかる。描き方もまた、青邨がモチーフから受けた新鮮な印象が込められている。

(一) 《猫》は頭部以外は淡いクリーム色の線で縁取られている。アニメーションで言うところの色トレスで、ふさふさとした毛並みと共に暖かいリビングのカーペット上で我が物顔にくつろぐ姿態が描かれ、仕草や身体の柔軟な感じが猫そのものである。

(二) 《ペンギン》もまたホワイトに近い色の滑らかな線できっきりと輪郭が描かれ、大きくてつやつやした身体であることが表現されている。瞳が体色に隠されて何を考えているかわからない感じがよく表現されており、おっとりとした佇む静けさまで伝わってくるかのようである。

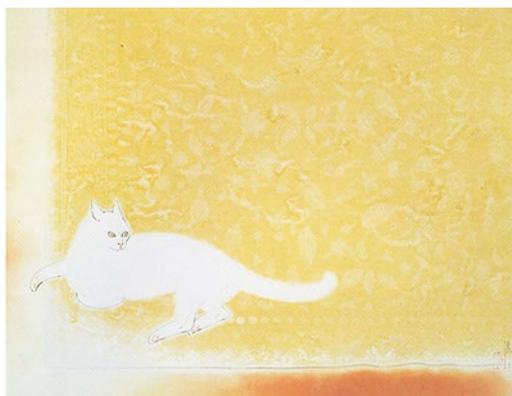


図 17. 《猫》^{注72}1949年
滋賀県立近代美術館

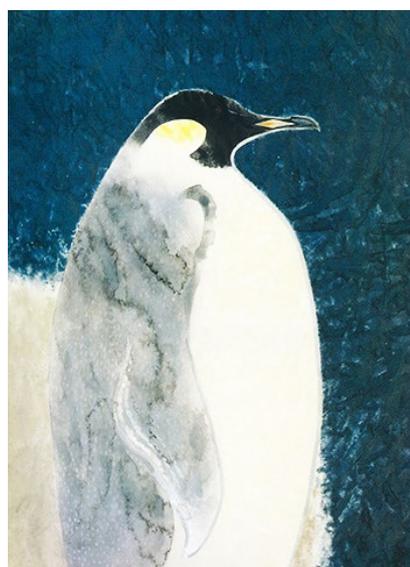


図 18. 《ペンギン》^{注73} (部分) 1966年

3. 漫画のような姿態描写

描きこまれた大作がある一方で、《西遊記》などの墨画は、前田氏が絵巻物をはじめとする大和絵から多くを学び、人や動物の動きを少ない線でユーモラスに描く画家でもあった事を示す良い例である。

(一) 図 19 《西遊記》は全長 23 メートルにもなる画卷で、青邨はこれを描くために動物園に通い詰めたという。淡い色彩の線で軽妙に描かれた猿の姿は、架空の生き物ながら骨格や筋肉も猿ならではのリアリティをも感じさせ、見応えのある絵画でありながら、続きが見たくなる漫画のような面白さも併せ持っている。

(二) 図 20 の《かちかち山》は少ない線ながら、泥船が沈んで溺れかけている狸の様子や、狸を懲らしめようとする兎の一撃の瞬間が軽快に描かれている。《西遊記》とはタッチも違って簡素でさえあるが、絵画空間と形態の描写が的確であり、描かないことで余



図 19. 《西遊記》^{注74} (部分)
1927年 MOA 美術館



図 20. 《かちかち山》^{注75} (部分)
制作年不詳 個人

白にも物質の存在が感じられる。説明的に多くを描かなくても、絵を見る人に想像させる力が線にはあるのだと改めて思い知らされる作品である。

画学生時代の小田部氏は、奇しくも自らが志した日本画の中に、しかも師の作品で、思いがけず漫画的側面があることを見出し、絵画が一層楽しくなったに違いない。

前田青邨は絵を描くことに関する限り、テーマもモチーフも描き方も実に自由であった。同時に必要とあらば絵巻物からも学び、果敢に挑戦して取り込んだ貪欲な研究者でもあった。前田青邨の随筆『作画三昧』では、自身が描き上げた絵への悔いや常に学びの姿勢であった事が随所に見て取れ、日本画の大家と評価されてからも尚、描けたか描けなかったかを問い直し、もっと描きたいという意思に溢れた画家だったことがわかる。

二. 前田青邨の時代の線描と流派

ごく古い時代から近代まで、前田青邨が参考とした絵画は幅広かった。

今回、青邨についての調査で分かったことの多くは、青邨の作品を多数収蔵する岐阜県美術館で青邨の研究や展覧会の企画をされている学芸課長の青山訓子氏のご協力と同氏が書かれた資料のお蔭である。

青山氏によれば、師匠の梶田半古は弟子に細かく教えるより、写生や古画の模写を勧めたという。それは半古が当時売れっ子で時間が無かったためでもあったが、流派にこだわらず様々な絵画から学び取り入れる青邨のスタイルにつながったものと考えられる。

だが、小田部氏と結びつきもある、“線描を追求した流派”について、そのルーツを探ることはできない。前田青邨や安田靉彦らの系譜にあると考えられる画家は今、存在しないからである。琳派の祖とされている俵屋宗達のように、前田青邨もまた、後継が真似できない程の高度な領域に達したため、受け継がれることなく一旦画派が終結してしまったのだろうか。

青山氏は、それは青邨が生きた時代と今との違いにあるのではないかと指摘する。

青邨から直接学んだ作家は既に鬼籍に入っている。さらに戦後の日本画表現は、線描よりも塗り重ねに重点が置かれた時代があり、それによって線の表現はいったん衰退を余儀なくされたと言わざるを得ない。

第四章. 線描とアニメーション

一. 欧米と異なる線の観念

西洋絵画と日本画の違いは、過去の調査研究でも述べたが、“立体と平面、緻密と簡潔”という対照的なものであり、そもそも求めるものが異なる。



図 21. フラ・アンジェリコ《コルトーナの受胎告知》^{註 76}
1433 年～1434 年

では西洋絵画における“線”とは何だろうか。

クロッキーで人や物の形を描く時、西洋絵画でも輪郭を素早く線で捉え、表現する。しかし描きこむ段階に入ると、あくまで色面で表現しようとする。

西洋絵画にとって線とは、回り込む面が重なって出来るものであり、描きこむほど線は消えていく。自然界に線は存在しないという強固な観念があったからである。

1867 年のパリ万博で日本が初出展し、ジャポニズムというスタイルがロートレックやミュシャ、ウィーン分離派などに取り込まれるまで、西洋絵画は線画を主体にすることはなかった。図 21 はフラ・アンジェリコのフレスコ画だが、線を用いず、色彩のグラデーションと陰影で立体、空間を表現していることがわかる。

一方、日本人は大方の物は線で描けるものと考えて、まず線画で表現しようとする。それが最も簡単で便利だからである。漫画や絵画、デザインなど周囲にある絵のほとんどが線画であるせいなのか、幼児期から色面でなく、線を主体にして絵を描き始めることが多い。日本人は、人類の線画の発明により最も恩恵を受けてきた民族と言っていい。

二. アニメーションの線描

漫画がそうであるように、日本のアニメーションもまた、簡潔だが有機的な、感じの良い記号化によって人や物を描いてきた。その代わりに枚数をかけてより多く動かしたので、ダイナミズム溢れるアニメーション作品を作ることができた。

それらは先達のアメリカで作られたアニメーション作品と同じように思えるが実はそうではない。長編アニメーション制作を目的に立ち上げられた東映動画は、最初こそ視察したアメリカの手法に倣って作ろうとしたが、日本で入手できる資材や、日本人が慣れ親しんだ画法や道具、または概念を取り込んでいくうちに、日本特有の手法になって

いったのである。

作画もまた、大塚康生氏が翻訳、写本して配布したプレストン・ブレアの教本は根付かず⁷⁷、東映動画のアニメーターたちが自ら選び昇華した画法を追求したものだ。

三. 線の抑揚とセル

東映動画では、仕上部門には動画セルの彩色だけでなく、“トレース”という職名があった。作画の線をセルに転写する機械がまだ無く、仕上スタッフが手作業で作画の線を写し取っていたのである。ハンドトレスと呼ばれる技術である。

1961年《101匹わんちゃん》が公開されると、セル画に動画の線を転写できるゼロックスという機械が知られるようになる。これは、ディズニー社のアニメーターであるアブ・アイワークスがゼロックス社と共同開発した、セルに作画の線を“コピー”する機械であり、関係者の中で“ゼロックス”と呼ばれるようになったものである。

東映動画は導入を決めたが、ゼロックスは余りに手間と費用がかかり過ぎる機械であったため、城西デュプロ（現・デュプロシステム株式会社）という印刷会社に制作を依頼して完成したのが所謂トレスマシンである⁷⁸。ゼロックスと違い、鉛筆線をカーボン紙と重ねて熱転写させる仕組みであり、ゼロックスが表面に転写するのに対して、トレスマシンは裏面への転写である。

どちらも作画の線をそのまま生かして動画セルを作り出すことができ、薄い線やかすれもある程度は拾う性能があった。

四. デジタル移行と線の均一化

1997年頃までのセルアニメーションの時代は、トレスマシンが鉛筆線の抑揚を上手く拾い、且つ仕上でセルに絵具を手塗りしていたので、線が繋がっていない部分もはみ出すことなく彩色できていた。

だが現代ではコンピューターグラフィックスで仕上、撮影を行い、動画が完成した段階でスキャニングしてデータ化し、モニター上で彩色、撮影で合成するようになったため、かすれの無い均一な濃い線で完全に囲まないと色を塗ることができなくなった。線が少しでも途切れると、色が流れ出してしまうからである。

過去の仕上に関する調査研究でも述べたが、日本のアニメーション制作のデジタル化が進むのと同時に、セル絵具のメーカーが生産を辞めてしまい、それまでの手作りのアニメーション制作を続ける事が難しくなったため、デジタルに移行していったのであり、作画のやり方にも改変を求められるのは仕方のない事だったと思われる。

しかし、線を均一にする事は仕上の作業を助けた一方で、作画が線描で表現し得る絵画的要素のいくつかを確実に失うことを意味しており、良い面ばかりではなかった。

第五章. 小田部氏の線描に関する考察

前田青邨から能動的に絵画を学んだ小田部氏は、4年間という時間の中で大きな技能を身に着けた。特に線描はアニメーターになってから同氏の持ち味になった。

小田部氏が青邨の絵から学んだのは、毛筆の線描を通じてであったが、線描でありとあらゆるものが描写可能な事だったと思われる。それはアニメーターになって絵筆から鉛筆に持ち替えてからも活かされ、発展した。

一. 前田青邨との共通点

小田部氏と前田青邨の線描の共通点については、青邨が、「天地万物、それぞれの持つ美しさ、独自のかたち、特質を、見つめてゆき、ぬきさしならぬただ一本にして表現すること。私のスケッチの眼目はそこにある^{注79}」と、いみじくも語っている通り、一本の線に集約されるところにある。日本画では線をさらに効果的に用いて、輪郭を描く以外にも力、重心、緊張、空間、立体、位置感、光の方向性にいたるまで、線で表現できるものへと進化させてきた。

図 22. 《太陽の王子ホルスの大冒険》より
チロのキャラクタースケッチ^{注80}



二. 《太陽の王子ホルスの大冒険》(1968年7月21日公開)

例えば図 22 は《太陽の王子ホルスの大冒険》のチロを描いた小田部氏のデッサンだが、少ない線ながら多くの絵画的要素がある。まず視線誘導らしき意図が見て取れる。最初に顔が見えて、頭部の丸い塊を感じ、そこから四肢、大きな尾へと順に焦点を移す。また、線は所々途切れ、あるいはかすれているが、それが奥に尾があることや向こう側の腕の付け根が隠れていることを示している。また線質は、筆圧や送筆が常に均等な鉄線描ではなく、線に太さや濃淡の緩急がある^{ひそう}肥瘦線であることがわかる。

三. 《長くつ下のピッピ》

テレビアニメーションを手がけるようになると、小田部氏の線描はますますアニメーションと調和し、独自の魅力をキャラクターにもたらしめてゆく。

テレビシリーズの企画として立ち上がった《長くつ下のピッピ》への参加依頼は、小田部氏が東映動画を辞めてAプロに行くことを決意するのに十分な理由だった。

折しも小田部氏は大塚康生氏が作画監督を担当したテレビシリーズ「ムーミン」を観て大いに触発されていた時期であり、意気込みをもってキャラクター作りに入っている。

企画は原作者の意向で残念なことに実現しなかったが、画集にも掲載されたピッピの絵はほとんどが背景の無い人物のみのスケッチながら、動作の途中の一瞬のような絶妙

な五体のバランスと緊張により、今にも動き出しそうな雰囲気と存在感がある。

《長くつ下のピッピ》のキャラクター作りに際して、小田部氏はドイツで作られた実写版を参考にした^{註81} そうだが、デッサンの段階の絵にも動きや奥行、立体が表現されており、実在を感じさせる絵になっている。

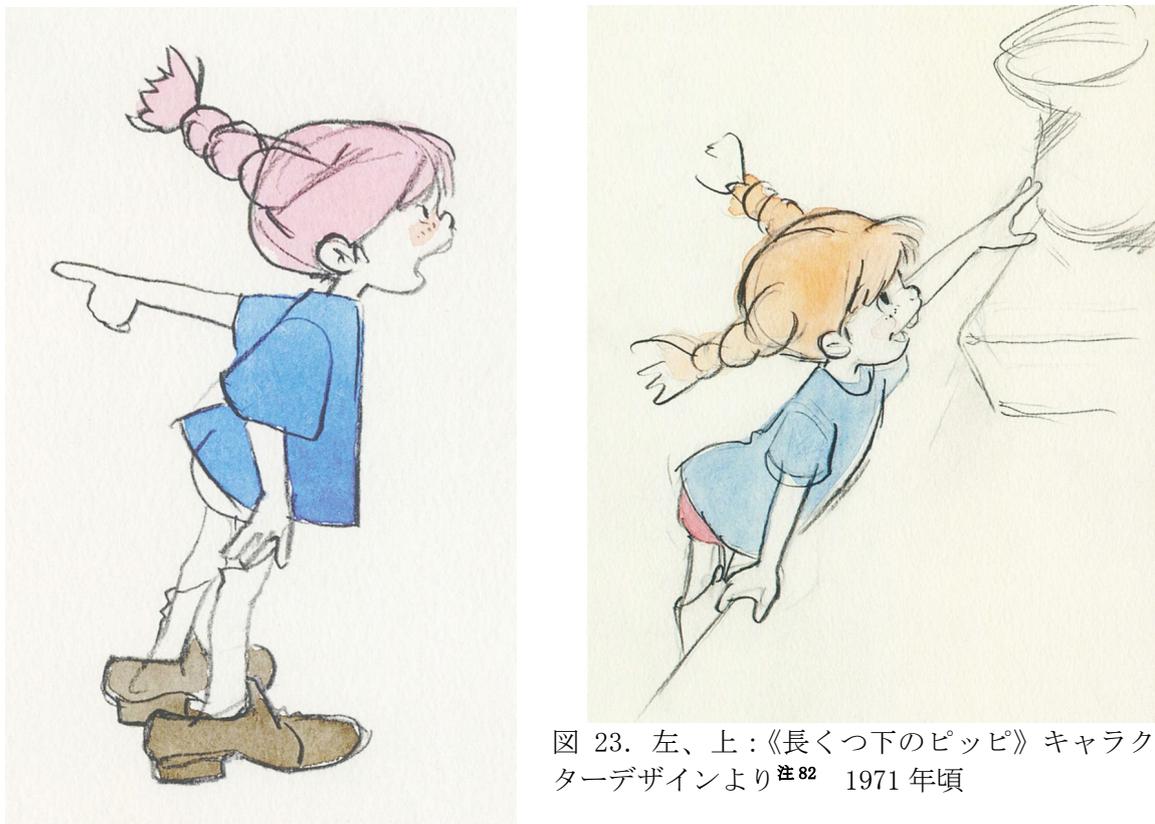


図 23. 左、上：《長くつ下のピッピ》キャラクターデザインより^{註82} 1971年頃

図 23 は小田部氏による《ピッピ》のキャラクタースケッチだが、線の強弱が立体感だけでなく、身体各所の緊張や重心の位置、空間を生み出しているのがわかる。

左図のピッピは、右手の先が最も手前で、右足がその向こうにあり、さらに左足が奥に位置して、空間の広がりを感じられる。その右手の肘にアクセントがあることにより、後ろを指さす左腕が胴体を挟んで向こうにあるものと捉えることができる。ほぼ真横からの構図の人物画に、さりげなく十分な空間をもたらしている。

右図のピッピはやや俯瞰気味の角度で見ている構図だが、それとわかるのは、頭部と前のめりの身体を支える右腕が手前にあり、力が入って反っている上体から、さらにその奥にある腰へと、線の強さが少しずつ抜けていっているためだと考えられる。

上にある水差しに伸ばした左腕は思い切って薄い線で描かれているが、身体を支えている右腕との対比と、頭部の向こう側にあって腕の付け根が隠れていることを表現されている。

またこの絵からは、今ピッピが水差しを取ろうとしている一連の動きの途中であることがわかる。線の強弱と組み合わせによって、位置関係だけでなく、どのような運動かも伝わってくる。

四. 《アルプスの少女ハイジ》(1974年1月6日～12月29日放送)

小田部氏のキャラクターデザインには際立った特徴が無いように見えるが、実は全く逆である。《ハイジ》が人気を博して長期的に視聴され、名作シリーズとして《ハイジ》に続く作品が作られたため定着、一般化したのである。

線を極力少なくし、可能な限り動かしてアニメーションで生活を描写する。その目的のために、《ハイジ》の衣服には衣紋線が限定されており、顔の表情で出来るしわも描かれない。見ている人は、風になびいたり、歩きや走りの描写で出現する数少ない線をよすがにして、質感や衣服の中に隠された人体の動きを知る。逆に言えば、そうした事を想像させる絵として描けなければいけないのである。

誤解されがちだが、線を少なくしてキャラクターを描くのは楽になることばかりではない。少なくした分、多くのリスクと不自由さが伴うのである。

図 24. はその時小田部氏が描いたスケッチである。速描であり、まだアニメーション化のための簡略化、記号化は行われておらず、顔のしわや跳ねた髪の毛なども描かれているが、少ない線で描こうという意識が見られる。しかし、細部を描き出すための細かいタッチや影は見られない。

右の横向きの男性の絵は、顔の輪郭線は抑揚をつけて一息に引かれ、腕や背中線の強弱で身体の厚みが表現されている。顎のくっきりとした線は頭部の立体感と同時に、顎の下の空間を作り出して、向こうへ抜けるような広がりを感じさせている。そして何より動きを感じさせる。一瞬の動作を捉えるカメラマンのスナップショットの様な、小田部氏独特の線描である。

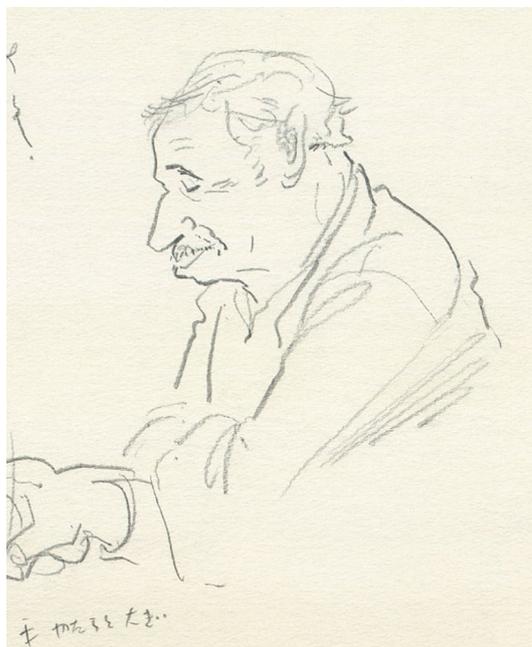


図 24. 人物スケッチ^{注83} 1973年

1. ハイジ

主人公のハイジは、第1話で叔母のデーテに連れられて、アルプスの山深くに住む祖父アルムおんじへと預けられる。見ている人は、一人称視点映画のようにハイジと共に始めて見るものを見、体験する。明るく利発で、年齢の割に言葉で言い表すことを得意とする少女であり、ペーターの祖母やクララを思いやって果敢に行動し、人を繋ぐ。

図 25、図 26 は小田部氏によるハイジのデッサンである。

同氏によれば、これらはキャラクター設定表で使用される前段階の線であり、まだ整理されていないということだが、すでに選択された一本の線が見えるようである。

図 25 はおんじから見たハイジなのだろう、横向きに寝ているハイジをやや上から見た構図で描いているが、薄掛けの下に隠れている部分は布のしわ以外には線が描かれていないにもかかわらず、腰骨の位置と角度、そこから伸びる足の存在を感じさせる。



図 25. 《アルプスの少女ハイジ》キャラクターボード^{注84}
1973年

大きな枕は右腕と頭部に柔らかく馴染んで、後ろのほうに続いているように見えるが、薄い一本の線のみで描かれており、空間の広がり表現している。

説明的な描線が無いのに自然と形や空間が見えるのは、線の数を制限しつつ、それらがさりげなく、適切に隠れた部分の存在を表すものになっているからだと思われる。

図 26 の絵もデッサンだが、頭部や四肢に補助線が多く残っていて、小田部氏がどのような手順で作画していたかが垣間見える絵である。

ハイジというキャラクター作りを模索しながら、立っている時の重心や身体全体の緊張のバランスも線の強弱で描かれており、動きが想像できるような絵になっている。



図 26. 《アルプスの少女ハイジ》キャラクターボード^{注85}
1973年

例えば、中央の絵は向かって右足の線がより強く引かれ、直立ではなく、重心が偏っていることで、動きが生じている。目が自然と引き付けられるように描かれているのであろう、顔には明るく柔らかい表情があり、何かを見て喜びを感じているのか、澁刺として今にも何か話し出しそうである。また、右側の横向きの絵は山羊を見ているのか、やや下向きの姿勢のバラ

ンスで描かれている。顔は中央の絵とはまた違った表情を浮かべており、目元は思慮深く、前方に伸ばしかけた手はぎっくりと描かれているが、あたかも何かにそっと触れようとしている動作の途中のポーズにも見える。

いずれの絵も動かすことを主眼にした簡潔な線画で描かれているが、単なる設定ではなく、むしろ今そこにいるような感じを目指した絵画であり、少ない線でもこれだけの情報を盛り込むことが可能である事を示す好例である。

2. ヨーゼフ

ヨーゼフはアルムおんじとハイジが山の上で暮らす上で無くてはならない重要なキャ

ラクターだが、図 27 の小田部氏のスケッチは、実在を大いに感じさせるものである。

絵にはヨーゼフの大きな身体の量感や回り込むような空間、そして向こうへ突き抜けるような奥行が生じている。額から鼻先の線は、後頭部から背中中の線や頬の毛色の境目と相まって、立体感を適切に出しており、同時に胸部のアクセントと後頭部から背中にかけての強い線が上体を起こしていることを示し、ヨーゼフを取り巻く空気をも感じさせている。この時点ですでに、アニメーションで動いているヨーゼフと同じ印象である。

目元の描写は真横よりやや後ろの角度から見ている事を示していて、背中から腰にかけて、線が一度途切れ、濃さも弱くなっているため、頭部から腰までの距離が表現されている。前脚は先端がそっと置かれているのに対し、肘に当たる部分に強い線があることから、上体を持ち上げる支えとして重心が置かれているとわかる。



図 27. 《アルプスの少女ハイジ》
キャラクター設計図より^{註 86}
1973 年

画用紙に描かれたデッサンであり、下書きや補助線も無く、まるでそこにいた犬をスケッチしたような気さえしてくるが、これはあくまで想像上のキャラクターであり、実際のセントバーナード犬とは似て非なる姿である。

3. アルムおんじ

アルムおんじは《ハイジ》の日常を感じさせるのに不可欠なキャラクターである。

山に来たばかりのハイジに、おんじは背丈に合った椅子を手際よく拵え、干し草のベッドを作り、焼しめたパンの上に溶けたチーズをたっぷりとかける。山羊の乳を焦がしてしまったハイジを叱らず、黙々と鍋の焦げを削ぎ落とす。作品を通して観た人は、主人公ハイジと共に、おんじのそうした所作の一つ一つを忘れないだろう。

おんじの生活は自給自足に近い。暖を取る薪だけでなく、椅子も机も自前で何でも作る。目の詰まった木は切り出すのも一苦労だが、納屋には手入れの行き届いた様々な工具や刃物が並べられており、ペーターの家の修繕や冬の交通手段の橇を作ったりして、家具職人か大工並みの技術があることがわかる。それはアニメーションによってだけではなく、一枚絵でも確信的に感じられるのである。

図 28 は小田部氏が描いたおんじのデッサンだが、手前の腕と伸ばした足から奥へとゆったりとした空間が見え、それとともに両前腕と大腿部の間にも小さな空間があり、その下の足元にも空気が感じられる。絵の中で最も強い線は、腰、肩、刃物を持つ右前腕に引かれており、衣服の上からでも力が加えられている事がわかる。

またアクセントにより、腰に重心をかけながら、左手が枝を力強く押さえ、右手でナイフの刃を立てて枝を切っているように見える。これらの事が、余白を利用しながら線だけで表現されている。

西洋絵画では、人物と背景が描かれる時、明暗や隣り合った色の組み合わせ、コントラストの強弱といったもので、人物の佇まいを表現するが、絵から人物だけを切り取って見ると成り立たない。絵の中の全ての要素が互いに干渉し合っている関係性によって描かれるのである。

極限まで減らされた線によってでも、様々な表現を可能にしたのが、小田部氏が日本画に学び、アニメーションで洗練してきた線描である。

アニメーションは、多く動かすためには1枚あたりの情報量を制限しなくてはならない。

しかし、少ない線では表現力を失うという考え方が必ずしも適切であるとは言えない。線をたくさん使うと、対象をより正確に、真実味をもって描けるが、日本画の線描は線が少なくても表現できることが数多くあると証明しているのである。

アルムおんじを描くのはやはり限定された少ない線によってだが、緊張や動き、それも手仕事の上手な人らしい力の加減までさりげなく伝わってくる。また線が少ないことでかえって紙の奥にある空間と立体、存在を感じさせる一例である。

これら《ハイジ》のスケッチは、まさに線の表現による実在である。線によって“このような人が、動物が目の前にいる気がする”、あるいは“どこかに存在している”と信じられる事は、高畑勲氏にとって不可欠な要素だったのではないだろうか。

少年時代から小田部氏や宮崎駿氏が参加した作品を好んで見てきたアニメーター本田雄氏は、小田部氏の線描に関して次のように語る。

「最近のアニメーションというのは線が多いので、一回で引く線のストロークが短く、少しずつ線を繋ぐように描くことが多いのですが、小田部さんの引く線は強くてストロークが長いです。線が少ないアニメーションでは一発で引かないと格好良くならなくて、小田部さんはそれができるんですね。

僕より上の世代の人にはそういう線を引ける人が多かったみたいだけど、今引ける人はなかなか居ないと思います。弱い線で引くことはできなくもないのですが、でもそう



図 28. 《アルプスの少女ハイジ》
キャラクター設計図より^{註87} 1973年

すると薄くなってしまふ。小田部さんの絵の線はすごく良い、描きたくなる絵です。」

線が少ないアニメーションでは、枚数をかけて描ける、多く動かせるという利点があるが、線が少ない場合特有の描き方が要求される。それはアニメーターにとって非常に難しいことであるらしい。

五. 《龍の子太郎》(1979年3月17日公開)

小田部氏と同じく日本画を基盤に絵画に習熟した美術監督の土田勇氏と共に様式美を追及した本作は、内容的にも絵画的にも日本ならではの魅力に溢れたアニメーション映画となった。

公開当時から評判も良く、50代前後の人の中には子ども時代に“東映まんがまつり”で観た人も多いことと思う。



図 29. 《龍の子太郎》太郎のキャラクター設計図より^{注88} 1978年頃

1. 太郎

太郎は最初子どもとして描かれ、その後徐々に大人らしくなっていくキャラクターで、劇中で変化が伴う。天狗から授かった怪力を旅の先々で善行に用い、得たものを貧しい人達と分け合って、仲間もできてゆく。

図 29 は小田部氏が描いた太郎である。この絵ではまだ子どもらしく柔らかい表情で、寝転がっている様子から、序盤の太郎であることがわかる。物語が進むにつれて、世の中を知ること次第に思慮深く、逞しくなっていく太郎が描かれている。

2. あや

また、この作品では奥山氏の画風とセンスが活かしている。偏見ではなく、大塚康生氏が言うようにアニメーターは演技者^{注89}であり、女性キャラクターの仕草や感情の現れは、男性のアニメーターにはなかなか描けない。

太郎のお母さんやおばあさん、あや、雪女などの女性キャラクターは奥山氏が主に担当したが、小田部氏が語るように奥山氏の描いたディテールが素晴らしい。

「特に“あや”という少女のキャラクターは、僕が描いていてもどうしても決まらなくて、ぼちゃっとしちやったりぐにやっとしちやったりするんですね。奥山はどちらかというとクールで、ある硬さを持ったキャラクターを作れる人なんです。僕が描いたのと比べると、ああこっちのほうがいいと一目瞭然でしたから、奥山にできるだけ描いてもらいました^{注90}。」

図 30 は奥山氏が描いた“あや”のキャラクター・イメージである。小田部氏が指摘する通り、太郎と比べて貧しさがあまり強調されず、垢抜けた上品な印象だが、凛として芯が強そうな表情は、天真爛漫で感情豊かな太郎と良いコントラストになっている。人間の姿に戻った太郎の母親も奥山氏が手掛けたものだが、当初は浦山監督のイメージとかなり違っていた。奥山氏はどう描くべきか悩み、描き直しを重ねた末に監督の了承を得た。

図 30. 《龍の子太郎》
あやのキャラクター・イメージより^{注91}
1978年頃 奥山玲子



3. 動物たち

図 31 は小田部氏が 43 歳の頃、《龍の子太郎》で制作したキャラクターボードの動物である。小田部氏は画具を絵筆から鉛筆に持ち替えながらも、筆で描くのと変わらない抑揚と濃淡を持ち、途切れの無い長いストロークの線で、立体と空間を表現している。

《鹿》は首を寝かせた鹿を俯瞰気味に見るという難しいポーズと角度で敢えて描かれ、首から胴、足元までの空間が見事に表現されていて、線のアクセントで表現された重心や四肢の緊張と合わせ、そのポーズと動きは鹿ならではのものとわかる。

また、《兎》は両前足を突き出して後ろ足のみで駆けているが、擬人的でありながら兎らしい運動性も示しており、実際に目にしたリアルな兎からアニメーションや漫画の絵へとごく自然に置き換えられた絵になっている。

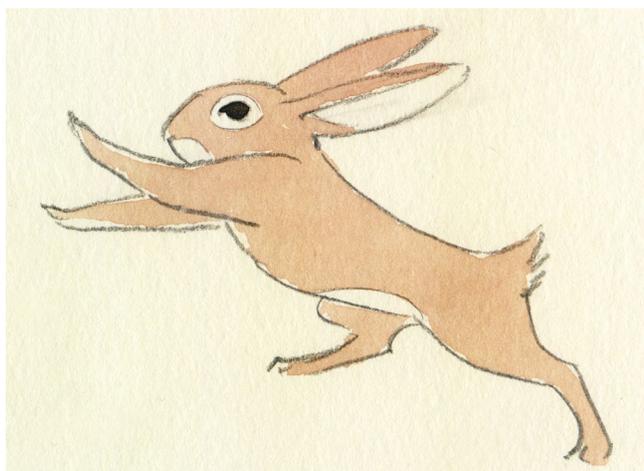


図 31. 《龍の子太郎》キャラクター設計図より
上《兎》^{注92}、左《鹿》^{注93} 1978年頃

『小田部羊一アニメーション画集』の編集を担当したアニドウ・フィルムのなみきたかし氏は、画集に小田部氏の描いたこれらの動物たちのデッサンを数多く選定し、大きな図版で掲載している。

編集後記でなみき氏は、

「この出版をはっきりと決意したのは 2004 年の『日本漫画映画の全貌』展のために資料をお借りした時です。《龍の子太郎》の動物たちの戯画に衝撃を受けました。そのサーッと自然に描かれた鉛筆の線は、なんというのびやかで生き生きした線でしょう！」と小田部氏の線描の印象について語っている。

また第 1 章でも触れた、線描について大学の先生に教わったり、理論を学んだりした訳ではなかったことについて、なみき氏はこう指摘している。

「そういう教え方で教えられるものと違ったりする。正解は無いと思う。」

一方、図 32 の白い仔馬は華奢で骨ばっているところは紛れもなく仔馬だが、長い脚と尾の線質から普通の動物ではない事がそれとなく解り、どこか神々しさも感じられる。実際、本編では一日に百里を走り通し、終盤は空も駆ける尋常ならざる馬として描かれている。同じ動物でも描き分けが為されていたのである。

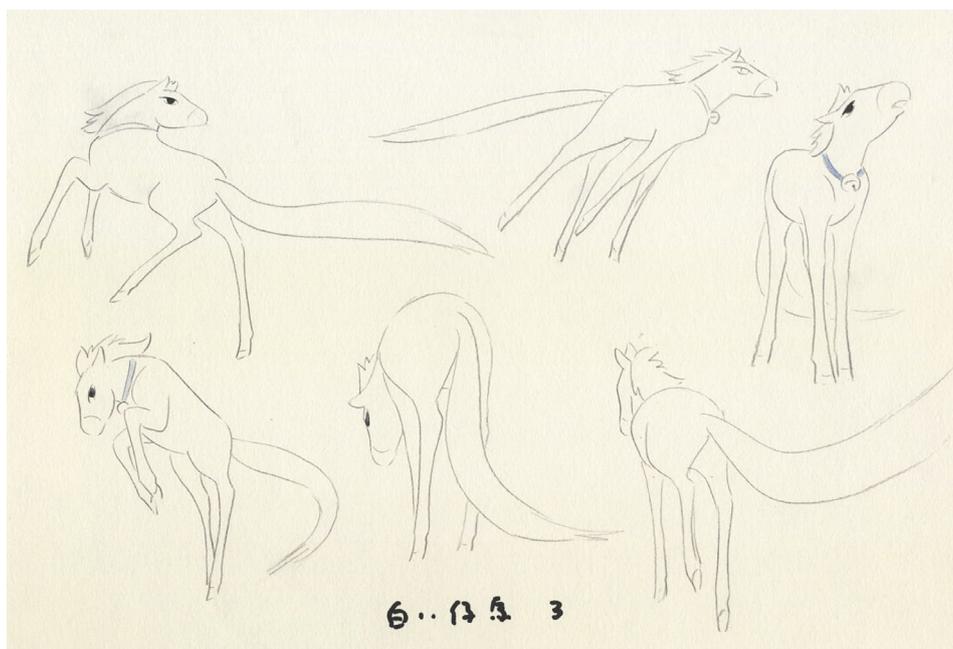


図 32. 《龍の子太郎》キャラクター設計図より^{注94} 1978 年頃

第六章. まとめ

小田部氏の線描の魅力について、『小田部羊一アニメーション画集』編集後記のなみきたかし氏の言葉の中に、相応しく言い表された文章がある。

「連想したのはディズニー・アニメーションのバイブル『生命を吹き込む魔法』の中の言葉です。

“全てはアニメーターの1本の線から生まれる”

この言葉が真実だと、小田部さんの描いたさりげないスケッチは教えてくれたのです^{注95}。」

小田部氏の線描の特徴は、日本画に取り組んで、日本の線画が脈々と受け継いできた線の特性を身に付け、アニメーションに活動の場を移して絵筆から鉛筆に持ち替え、先達や同僚から影響を受けながら、それらが総合されて独自のものになった点にある。

その線は簡潔でありながら静的にも動的にもなり、立体や空間を示しつつ、次の瞬間に続く動きを想像させ、人物や生き物の生命を感じさせる線である。

あるいは、立っている人の身体各所にどのような力が働いているかがわかり、足から地面に伝わる重みが左右で異なる事も伝わってきて、いかにも実際に人が立つ時のそれとわかる線である。

またある時は、工具を使いこなして手際よく家具を作る職人の手であったり、触ると柔らかそうな子どもの頬であったり、風になびく髪の毛や衣服の素材感であったり、印象を自在に変える線である。

特にテレビアニメーションでは、少ない線であらゆるものが表現できることを示し、質的にも量的にも制作を支えることになった。

そして、小田部氏の線描は技術の巧みさだけを伝えるものではない。

『われらが同士、小田部羊一』の中で、高畑勲氏は小田部氏と宮崎駿氏の3人で作品に取り組んだ日々をこう記している。

「私が《長くつ下のピッピ》や《ハイジ》を一緒に作ろうと提案して、小田部羊一と宮崎駿を誘ったとき、二人は、長年勤めてきた東映動画からも、《ルパン三世》《パンダコパンダ》を作った会社からも、立ち去ることを躊躇しなかった。やりがいのある新しい試みに挑戦するには、ひとりずつばらばらでやるのではなく、同士三人で力を合わせることがいかに大切かを、私たちはよくわきまえていた。悪条件のもとで、一年にわたって毎週一話ずつ作り続けなければならないTVシリーズでは、少しでも質の高いものを目指そうとすれば、お互いを信頼しあってただ頑張り抜くしかない。私たちはその激務によく耐えたと思う^{注96}。」

小田部氏は、取り組むべき作品を自らの意思で選択し、時流と異なる内容であっても動じず、仲間を信じて心血を注いだ。そのため小田部氏の線描を見た人は、完成した作品を支えていた絵である事を感じ取り、敬畏を覚えずにはられないのだと思われる。

注

1. 小田部羊一著、奥山玲子監修、なみきたかし編集『小田部羊一アニメーション画集』（2008年、アニドウ・フィルム、9頁）より。
2. ジョン・ウェスレー（1703年～1791年）18世紀のイングランド国教会の司祭、神学者。メソジスト派の基礎を築いた。
3. 淡水区：清朝時代に条約港として栄えた港町で、台湾八景に数えられる観光地。
4. 日本美術院は1914年の再興時に本旨を「芸術の自由研究を主とする。故に教師なし先輩あり。教習なし研究あり。」としていた。（公益財団法人 日本美術院公式サイト「日本美術院について」<https://nihonbijutsuin.or.jp/about.php> ※2024年4月18日閲覧）より。
5. 本名は須田善二（1907～1964年）福島県出身。東京美術学校日本画科卒。在学中、帝展に初入選。同年松岡映丘に師事。1938年、映丘の死去により前田青邨門下となる。院展での主な受賞作に、「馬」、「山水石組」、「念持仏」、「深海曼陀羅」、「篝火」、「正倉院」など。穏健な近代的傾向を帯びたアカデミックな作風を示した。東京文化財研究所「物故者記事」（<https://www.tobunken.go.jp/materials/bukko/9081.html> ※2024年4月2日閲覧）より。
6. 絵や文章の手本。狩野派は画風を徹底するための訓練に用いた。
7. 1933年～1942年、アメリカ、フライシャー・スタジオ制作。「ベティ・ブープ」シリーズの一遍として作られた。
8. 1943年公開、藝術映画社、37分。演出は瀬尾光世。太平洋戦争中に国策として制作されたアニメーション映画であり、マルチプレーン撮影により、雲の多層構造で立体的な飛行シーンを表現してヒットした。
9. ディズニー制作のアニメーション映画。アメリカで1942年公開。日本公開は1951年5月。
10. 『生誕110周年記念 ウォルト・ディズニー展』図録（2012年、NHKプロモーション、48頁）参照。
11. 1943年制作、松竹動画研究所、16分。演出・脚本・撮影は政岡憲三。戦時中に作られたが、優れた作画や美術と共に、キャラクターが歌う童謡にのせて進行するミュージカルであり、日本のアニメーション史に残る傑作。松竹株式会社公式サイト「作品データベース」（<https://www.shochiku.co.jp/cinema/database/02357/> ※2024年3月28日閲覧）より。
12. 1937年公開。ディズニーが制作した世界初のフルカラー長編アニメーション映画。
13. 1947年発表。ソ連。ソユーズムリトフィルム制作。イワン・イワノフ・ワノー監督。その後「イワンと仔馬」に改題。
14. 1952年発表。フランス。ポール・グリモー監督。1979年、「王と鳥」として改作。
15. 『CONTINUE』Vo1.67（2020年10月8日、太田出版、103頁）より。
16. 『CONTINUE』Vo1.67（2020年10月8日、太田出版、103頁）より。
17. 叶精二著『日本のアニメーションを築いた人々』（2019年、復刊ドットコム、179頁）

- より。
18. 『東映アニメーション史 50 年史 1956-2006～走りだす夢の先～』（2006 年、東映アニメーション株式会社、36 頁）参照。
 19. 『CONTINUE』 Vol. 69 （2021 年 2 月 5 日、太田出版、102 頁）より。
 20. 大塚康生著『作画汗まみれ』（2001 年、徳間書店、124 頁）より。
 21. ジブリ・ロマンアルバム『太陽の王子 ホルスの大冒険』（1984 年、徳間書店、33 頁）参照。
 22. 『CONTINUE』 Vol. 69 （2021 年 2 月 5 日、太田出版、107 頁）より。
 23. 『CONTINUE』 Vol. 69 （2021 年 2 月 5 日、太田出版、108 頁）より。
 24. 『CONTINUE』 Vol. 71 （2021 年 6 月 6 日、太田出版、96～97 頁）より。
 25. 叶精二著『日本のアニメーションを築いた人々』（2019 年、復刊ドットコム、184 頁）より。
 26. 叶精二著『日本のアニメーションを築いた人々』（2019 年、復刊ドットコム、185 頁）より。
 27. 叶精二著『日本のアニメーションを築いた人々』（2019 年、復刊ドットコム、186 頁）より。
 28. 『ジ・アート・シリーズ 15 劇場アニメ 70 年史』（1989 年、徳間書店、55 頁）参照。
 29. 東京国際映画祭『TIFF マスタークラス アニメーター・大塚康生の足跡』（https://www.youtube.com/watch?v=dqKRsh_27kY&t=2126s ※2024 年 4 月 9 日閲覧）より。
 30. 叶精二著『日本のアニメーションを築いた人々』（2019 年、復刊ドットコム、188 頁）より。
 31. 『CONTINUE』 Vol. 71 （2021 年 6 月 6 日、太田出版、99 頁）より。
 32. 山口康男編著『日本のアニメ全史 世界を制した日本アニメの奇跡』（2004 年、テン・ブックス、107 頁）参照。
 33. 『CONTINUE』 Vol. 74 （2021 年 12 月 4 日、太田出版、90 頁）より。
 34. 叶精二著『日本のアニメーションを築いた人々』（2019 年、復刊ドットコム、157 頁）より。
 35. 『CONTINUE』 Vol. 74 （2021 年 12 月 4 日、太田出版、91 頁）より。
 36. 松谷みよ子原作。長野県信州・上田に伝わる民話『小泉小太郎』と安曇野に伝わる民話『泉小太郎』を中心に、日本各地に伝わる民話を組み合わせ、再話した児童文学。
 37. 大塚康生著『作画汗まみれ』（2001 年、徳間書店、119 頁）より。
 38. 『漫画映画漂流記 おしどりアニメーター奥山玲子と小田部羊一』（2019 年、講談社、148 頁）より。
 39. 叶精二著『日本のアニメーションを築いた人々』（2019 年、復刊ドットコム、197 頁）より。
 40. 高畑勲著『十二世紀のアニメーション』（1999 年、徳間書店、12 頁）より。
 41. 1053～1140 年。鳥羽僧正とも呼ばれた天台僧。戯画の名手で、漫画の始祖とされる

こともある。

42. 墨一色で、筆線を主体として描く描法。
43. 『鳥獣戯画 決定版「絵の原点」にふれる』(2021年、平凡社、50頁) 参照。
44. 絵画や意匠などを考案、制作する工房。古くは中務省、宮廷内に公的な絵画制作の機関として設置され、その後は幕府や寺社にも類似した工房が作られ、維持された。日本美術史事典(1987年、平凡社、91頁)より。
45. 1142~1205年。平安時代後期から鎌倉時代初期の貴族で歌人、宮廷画家。
46. 『神護寺略記』に隆信の作と伝えられているが、現在この説には否定的な意見が多く、描かれた人物も頼朝ではなく、室町幕府初代将軍足利尊氏の弟、直義という説もある。
47. 対象を面前にした写照に基づき、特に人物の輪郭、目鼻、眉、髪、髭など顔の部分、細線を引き重ね、スケッチ風に描いた肖像のこと。
48. 『日本美術全集8 中世絵巻と肖像画』(2015年、小学館、78頁) 参照。
49. 狩野永徳(1543~1590年) 狩野元信の孫。狩野派の棟梁として織田信長、豊臣秀吉らに仕え安土城、聚楽第、大坂城などの障壁画を制作。
50. 『国宝へようこそ 洛中洛外図屏風』(2021年、NHK出版、63頁) 参照。
51. 安村敏信著『線で読み解く日本の名画』(2015年 幻戯書房、68頁) より。
52. 『アーティストジャパン 狩野永徳』(2007年、ディアゴスティーニジャパン、13-18頁) 参照。
53. 平安後期以降、僧位にちなんで医者・儒者・絵師・連歌師に叙された敬称。
54. 『芸術新潮 2010年3月号 長谷川等伯《松林図屏風》への道』(2010年、新潮社、36頁) 参照。
55. 『俵屋宗達と尾形光琳を徹底比較! 「風神雷神図屏風」描き継がれた超名作には驚異のワザや工夫が盛りだくさん!』(山田五郎 オトナの教養講座 <https://www.youtube.com/watch?v=e9Bib2hNzvE> ※2024年4月10日閲覧) より。
56. 芸道に執心する人。風流人。
57. 現在の美術史学では、俵屋宗達は琳派の絵画の祖ではないとする説もある。
58. 『日本美術全集第13巻 宗達・光琳と桂離宮』(2013年、小学館、54頁) 参照。
59. 『アーティストジャパン 俵屋宗達』(1992年、同朋社出版、462頁) 参照。
60. 『酒井抱一と江戸琳派の全貌』(2011年、求龍堂、166頁) 参照。
61. 歌川広重晩年の作で、全119枚から成る連作浮世名所絵。
62. 『太陽の手帳 29 広重「名所江戸百景」の旅』(2015年 平凡社、23頁) 参照。
63. 衣類の襞によってつくられる文様。衣類のしわ。
64. 「ボストン美術館所蔵 俺たちの国芳 わたしの国貞」展図録(2016年、日本テレビ放送網、142頁) 参照。
65. アーネスト・フェノロサ(1853年~1908年、アメリカ) 東洋美術史家、哲学者。明治期に来日し、当時西洋絵画に評価が偏りつつあった状況を憂いて講演を行い、日本画の多くの美点を説いた。後にこの講演が「美術真説」として出版、日本画再興の一助になる。また社寺や仏像仏具の保存をうったえ、保存法制定へと導くなど、日本の

- 美術研究、美術教育、伝統美術の振興、文化財保護行政に大きな役割を果たした。
66. 本名は岡倉覚三（1863年～1913年）。文人、美術指導者。東京大学文学部卒業後、文部省に入るとフェノロサと共に古社寺の調査して宝物を選定、国宝に指定した。新しい日本絵画の創造を推進して鑑画会を組織し、日本青年絵画協会を発足させた。美術取調委員としてフェノロサと欧米を視察し、東京美術学校幹事の命を受けて創設に尽力。近代日本美術の基礎を構築した。
 67. 1887年、芸術家養成を目的として、東京・上野に創設された官立の美術専門学校。東京藝術大学の前身。『日本大百科全書16』（1987年、小学館、639頁）より。
 68. 『フェノロサ美術論集』（山口静一編、1988年、中央公論美術出版 24頁）より。
 69. 『アーティストジャパン 前田青邨』（2007年、ディアゴスティーニジャパン、48-7頁）より。
 70. 岐阜県美術館「前田青邨究極の白、天上の碧ー近代日本画の到達点ー」図録掲載の青山訓子著「作画三昧ー前田青邨の人生と藝術」（2022年、岐阜新聞社、11頁）より。
 71. 京都国立近代美術館「前田青邨展」図録（2001年、日本経済新聞社、42頁）参照。
 72. 岐阜県美術館「前田青邨究極の白、天上の碧ー近代日本画の到達点ー」図録（2022年、岐阜新聞社、105頁）参照。
 73. 『巨匠の日本画8「前田青邨」』（58頁）参照。
 74. 京都国立近代美術館「前田青邨展」図録（2001年、日本経済新聞社、61頁）参照。
 75. 岐阜県美術館「前田青邨 究極の白、天上の碧ー近代日本画の到達点ー」図録（2022年、岐阜新聞社、138頁）参照。
 76. クリストファー・ロイド著『フラ・アンジェリコ』（1999、西村書店 45頁）参照。
 77. 「ANIMATION～LEARN HOW TO DRAW ANIMATED CARTOONS」。大塚康生著『作画汗まみれ 増補改訂版』（2001年、徳間書店、39頁）より。
 78. 東京アニメアワードフェスティバル2024パンフレット（2024、TAAF、50頁）より。
 79. 前田青邨著『作画三昧ー青邨文集ー』（1984年、新潮社、199頁）より。
 80. 小田部羊一著、奥山玲子監修、なみきたかし編集『小田部羊一アニメーション画集』（2008年、アニドウ・フィルム、26頁）参照。
 81. 著者：高畑勲/宮崎駿/小田部羊一『幻の《長くつ下のピッピ》』（2014年、岩波書店、89頁）より。
 82. 小田部羊一著、奥山玲子監修、なみきたかし編集『小田部羊一アニメーション画集』（2008年、アニドウ・フィルム、132～133頁）参照。
 - 83～85. 小田部羊一氏所有の資料より。
 86. 小田部羊一著、奥山玲子監修、なみきたかし編集『小田部羊一アニメーション画集』（2008年、アニドウ・フィルム、161頁）
 87. 小田部羊一著、奥山玲子監修、なみきたかし編集『小田部羊一アニメーション画集』（2008年、アニドウ・フィルム、163頁）
 88. 小田部羊一著、奥山玲子監修、なみきたかし編集『小田部羊一アニメーション画集』（2008年、アニドウ・フィルム、216頁）参照。

89. 「キャラクターも演技者であれ 大塚康生×上田文人対談 ～もっと上手になりたい！動かす力～」(2010年9月2日、ねとらぼ. アイティメディア <https://nlab.itmedia.co.jp/games/articles/1009/02/news099.html> ※2024年4月10日閲覧) より。
90. 『小田部羊一アニメーション画集』特典DVD “《龍の子太郎》を語る” (2008年、アニドウ・フィルム) より。
91. 奥山玲子著、小田部羊一監修、なみきたかし責任編集『奥山玲子アニメーション画集』(2019年、アニドウ・フィルム、201頁) 参照。
92. 小田部羊一著、奥山玲子監修、なみきたかし編集『小田部羊一アニメーション画集』(2008年、アニドウ・フィルム、254頁) 参照。
93. 小田部羊一著、奥山玲子監修、なみきたかし編集『小田部羊一アニメーション画集』(2008年、アニドウ・フィルム、258頁) 参照。
94. 小田部羊一著、奥山玲子監修、なみきたかし編集『小田部羊一アニメーション画集』(2008年、アニドウ・フィルム、233頁) 参照。
95. 小田部羊一著、奥山玲子監修、なみきたかし編集『小田部羊一アニメーション画集』(2008年、アニドウ・フィルム、298頁) より。
96. 小田部羊一著、奥山玲子監修、なみきたかし編集『小田部羊一アニメーション画集』(2008年、アニドウ・フィルム、9頁) より。

〈謝辞〉

最後に、本調査では下記の方々に多大なご協力を頂きました。あらためて感謝申し上げます。

小田部羊一
なみきたかし
才田俊次

岐阜県美術館 青山訓子

本田雄
田中千義

(敬称略)

**公益財団法人徳間記念アニメーション文化財団年報
2023—2024**

(令和五年度 第 23 号)

令和 6 年 7 月発行

編集・発行：公益財団法人徳間記念アニメーション文化財団

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 1-1-83

電話 0422-40-2211

印 刷：望洋印刷株式会社

